



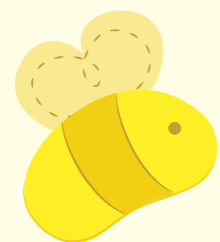
第3次山鹿市総合計画

2026(令和8)年度→2033(令和15)年度



第3次山鹿市総合計画

2026(令和8)年度→2033(令和15)年度



第3次山鹿市総合計画 市長メッセージ

「ずっと 住みたい 健幸都市 やまが」の実現に向けて

本市では、長期的な展望を持った総合計画を2次にわたり策定し、産業、教育・子育て、医療・福祉など各分野において、市民の皆さんとともにまちづくりを進めてまいりました。このたび、令和7年度末をもって第2次総合計画の計画期間が満了したことを受け、その検証結果をしっかりと踏まえつつ、令和8年度から令和15年度までの8年間の計画期間とする「第3次山鹿市総合計画」を策定いたしました。本計画は、本市が目指す将来の姿と、その実現のために必要な取組をまとめた、まちづくりの羅針盤となる最上位計画であり、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を包含することで、国や県の政策とも連携しながら、本市の未来をつくるための共通の行動指針として位置づけています。



本計画では、本市の目指すべき未来ビジョンを「ずっと 住みたい 健幸都市 やまが」と定めました。市民にとっては「住み続けたい」まち、訪れる人にとっては「住んでみたい」まち、多くの人から「選ばれる山鹿」でありたいという決意の表れです。また、市民一人ひとりが、心も体も健やかに、幸せに暮らせるまちを目指す思いを込めています。

本市を取り巻く環境に目を向けますと、若年層の市外流出や高齢化の進行による労働力不足をはじめ、農業や地域コミュニティを支える担い手の確保など、人口減少・少子高齢化への対応が急務となっています。また、DXの加速への対応や、近年頻発する大規模な自然災害への備えといった新たな課題も生じています。こうした課題に的確に対応しながら、本市の強みを最大限に活かし、未来ビジョンの実現に向けて、5つのまちづくりのコンセプトのもと、市民、事業者、行政が一体となって全力で取り組んでまいります。

最後に、本計画の策定に際し、総合計画審議会委員の皆様をはじめ、市民ワークショップやアンケート、市民意見募集等で貴重なご意見・ご提案をいただきました市民の皆様に対しまして、心から感謝申し上げます。

山鹿市長 早田 順一

目次

基本構想編 4

1 はじめに 5

- 1-1 背景 5
- 1-2 位置づけ 6
- 1-3 構成 6
- 1-4 期間 6
- 1-5 本市を取り巻く社会の変化(社会的潮流) 7

2 本市の現状 9

- 2-1 本市の現状(強みと課題) 9
- 2-2 まちづくりの課題 25

3 基本構想 27

- 3-1 未来ビジョン 27
- 3-2 まちづくりのコンセプト 29

4 総合計画を支える個別計画 31

5 構想の推進に向けて 33

前期アクションプラン編 34

1 アクションプランの概要 35

- 1-1 アクションプランとは 35
- 1-2 計画期間(前期4年間) 35
- 1-3 事業計画 35

2 進捗管理と指標 36

- 2-1 指標の設定 36
- 2-2 進捗管理の方法 36
- 2-3 中間見直し 36
- 2-4 事業実施上の留意点 36
- 前期アクションプランのイメージ 37
- アクションプラン編の見方 39
- まちづくりのコンセプト1 41
- まちづくりのコンセプト2 53
- まちづくりのコンセプト3 63
- まちづくりのコンセプト4 75
- まちづくりのコンセプト5 89
- 各目標値の関連図 95

山鹿市長期人口ビジョン編 96

1 はじめに 97

2 本市の人口の現状 98

- 2-1 人口の動向 98
- 2-2 社会動態 104
- 2-3 産業分野別就業者数の状況 106

3 将来人口推計 109

- 3-1 人口の動向 109

4 人口の将来展望 113

- 4-1 目指すべき将来の方向性 113
- 4-2 人口の将来展望 115



表紙のイラストについて

表紙イラストは、山鹿市出身の漫画家・飛松良輔氏に、山鹿市の魅力をイメージして作成していただきました。

コメント

この度、第3次山鹿市総合計画の表紙に私のイラストを掲載していただいたこと、心より光栄に思います。

私は2024年、家族とともに約20年ぶりに熊本へ帰郷いたしました。

豊かな自然、そして山鹿の皆さまの温かさに触れ、日々幸せを感じながら暮らしております。

家族に山鹿のことを知ってもらおうと各地を巡る中で、この土地が持つ歴史や文化、そして数多くの魅力をあらためて見つめ直す機会となりました。

この素晴らしい町や文化を今一度再確認し、山鹿市の明るい未来へと繋げていきたい。今回のイラストには、そんな故郷への感謝と想いを込めました。

このまちが、これからも誰にとっても素晴らしい場所であり続けますように。

プロフィール

飛松 良輔

1987年、熊本県山鹿市生まれ。

幼少期より絵を描くことに親しみ、鹿本高校卒業後、大阪芸術大学キャラクター造形学科へ進学・卒業。

在学中より漫画制作に取り組み、ござき亜衣作品のアシスタントを経験。

2017年、小学館「ビッグコミックスピリッツ」にてラグビー漫画『ブルタックル』を連載開始。

その後、2019年に江戸時代×スポーツ漫画『天を射る』（原作：西荻弓絵）、2021年よりバスケットボール漫画『Deep3』（原作：水野光博）を連載。現在「ピッコマ」にて連載中。

リモート化をきっかけに、2024年、家族とともに故郷・熊本へ拠点を移す。

第3次山鹿市総合計画 基本構想編



1 はじめに

1-1 背景

第3次山鹿市総合計画(以下「本計画」といいます。)は、まちの将来像を定め、その実現に向けたまちづくりの基本指針や施策を明らかにする計画です。

私たちの暮らす山鹿市(以下「本市」といいます。)にはたくさんの魅力があります。

本市では、これらの魅力を活かしながら、長期的な展望を持った総合計画を2次にわたり策定し、まちづくりを進めてきました。

2025(令和7)年度末をもって現行の総合計画の計画期間が満了することから、2026(令和8)年度を初年度とする本計画を策定します。



1-2 位置づけ

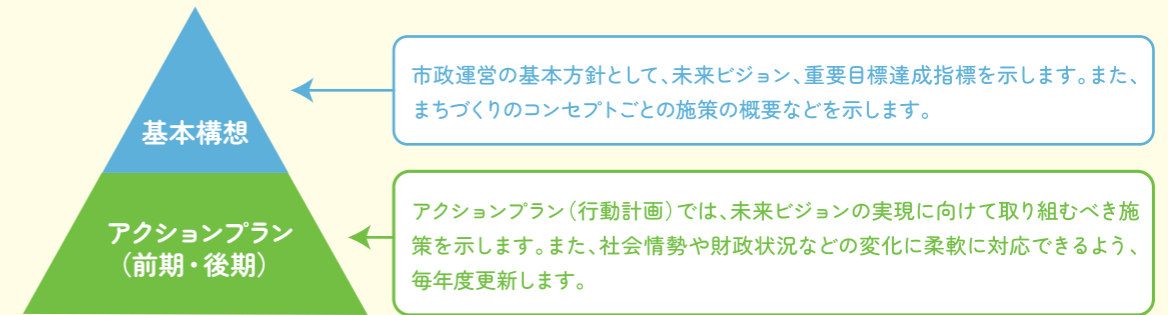
本計画は、本市が目指す将来の姿と、その実現のために必要な取組をまとめた、まちづくりの羅針盤となる最上位計画です。

そのため、市のすべての個別計画は本計画を土台として整合性を保ちつつ進められます。また、「まち・ひと・しごと創生法」(平成26年法律第136号)第10条第1項に定める「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を包含することで、国や県の施策とも連携しながら、効果的かつ効率的にまちづくりを進めます。

この計画は、市民、事業者、行政が同じ方向を向き、力を合わせて本市の未来をつくるための共通の行動指針として位置づけられています。

1-3 構成

本計画は、「基本構想」「アクションプラン」で構成します。



1-4 期間

基本構想を8年間、その実現に向けたアクションプランを前期4年・後期4年の2期に分けて進めます。さらに、社会情勢の変化に柔軟に対応するため、毎年度、3年先までの計画を見直すローリング方式²を取り入れます。

年度	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033
基本構想	8年間							
アクションプラン	前期4年間				後期4年間			
	毎年度3年先までローリング			毎年度3年先までローリング			毎年度3年先までローリング	
	毎年度3年先までローリング			毎年度3年先までローリング			毎年度3年先までローリング	

¹ 目標達成のために必要な具体的な行動を定めた計画のこと

² 現実と計画のズレを埋めるために、一定期間ごとに施策・事業を見直し修正していく手法

1-5 本市を取り巻く社会の変化（社会的潮流）

これからのまちづくりを考えるにあたり、本市を取り巻く社会の変化などについて整理します。

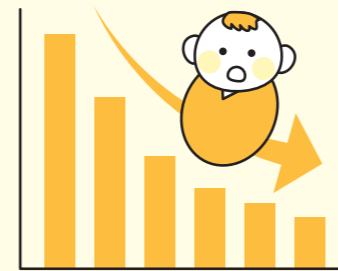
超高齢化社会の進展

- ・ 2025(令和7)年には、団塊の世代³が75歳以上の後期高齢者に達し、社会保障費の増大、医療・介護体制の維持困難、各分野での人材不足、事業承継問題などが一層深刻化すると予測されています。
- ・ 生産年齢人口⁴の減少と高齢化の加速により、労働力不足や社会保障費の増大が喫緊の課題となっています。



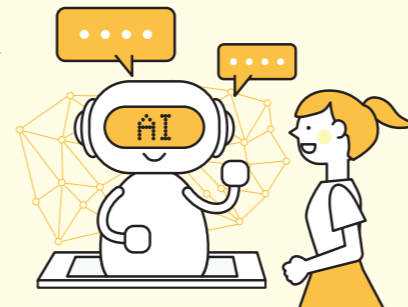
人口減少・少子化

- ・ 未婚化、晩婚化の進行に伴い、合計特殊出生率⁵が低下。日本の人口は2053(令和35)年に1億人を下回ると推計されています。
- ・ 子育て支援や教育環境の整備などが一層求められています。



DX⁶（デジタルトランスフォーメーション）の加速

- ・ AI⁷（エーアイ）やIoT⁸（アイオーティー）、ロボットの活用が進み社会全体が高度情報化へと移行しています。一方でIT⁹人材不足により、DX推進が遅れることによる経済損失が懸念されています。



³ 第1次ベビーブームのあった時期である1947～1949年に生まれた世代のこと

⁴ 15歳から64歳までの、社会の生産活動を担う中心的な年齢層の人口

⁵ 15歳から49歳までの一人の女性が生涯で産む子どもの平均数を示す指標

⁶ デジタル技術を社会に浸透させて生活をより良く変えること

⁷ 人間の「考える力」や「学ぶ力」をコンピューターで再現しようとする技術

⁸ 様々な「モノ」がインターネットを通じて情報交換を行う仕組み

⁹ Information Technology（インフォメーション・テクノロジー）の略。情報をコンピューターやインターネットなどを使って扱う技術のこと

ライフスタイルや価値観の多様化

- ・ 核家族化¹⁰や就労形態の変化により、ライフスタイルや価値観が多様化し、心の豊かさや個性を重視する傾向が強まっています。
- ・ 「人生100年時代」を迎え、生涯学習¹¹や多様な働き方へのニーズが高まっています。



地方創生・都市集中と地方の課題

- ・ 人口の東京一極集中が続いており、地方では人口減少と高齢化がさらに進み、地域コミュニティの維持やインフラの老朽化などが課題となっています。

労働環境の変化

- ・ 働き方改革やリモートワーク、副業といった多様な働き方の推進が求められるなか、人手不足や長時間労働といった課題にも対応する必要があります。
- ・ だれもが無理なく働けるよう、柔軟な働き方の推進や休暇・労働条件の改善、職場の安全・健康の確保、研修やキャリア支援、さらに性別や年齢にとらわれず働きやすい環境づくりに取り組むことが必要とされています。



安全安心へのニーズの高まり

- ・ 近年、自然災害の激甚化や社会環境の変化により、市民の安全・安心への関心が高まっています。
- ・ 防災・減災インフラの整備や避難訓練、防犯・交通安全対策の強化、迅速な情報提供、地域活動への市民参画促進、テクノロジーの活用による防災・安全対策の強化など、多角的な取組が必要とされています。



¹⁰ 夫婦とその未婚の子どもで構成される家族、または夫婦のみ、ひとり親家庭が増加すること

¹¹ 私たちが生涯にわたって行う学習活動。学校教育も社会教育も生涯学習の一部

2 本市の現状

2-1 本市の現状（強みと課題）

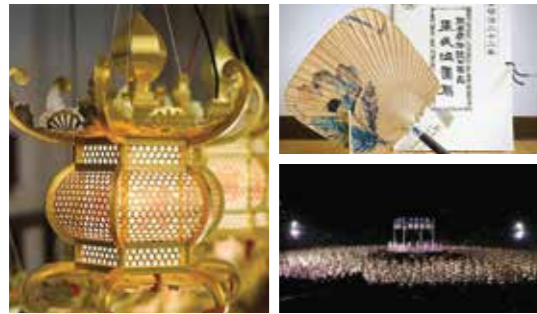
本市の強み

市民の意見などから、本市の魅力や強みについて整理します。

豊かな自然と歴史・文化

受け継がれる伝統文化

国の伝統的工芸品にも指定される山鹿灯籠などの伝統文化が継承され、地域の誇りになっています。



古代から現代まで、歴史の息吹を感じるまち

装飾古墳や豊前街道、八千代座など、古代から現代まで歴史の息吹を感じられる山鹿には、全国から観光客が訪れています。



美人湯として知られる歴史ある温泉

平安時代から続く温泉地は、市民生活に欠かせない存在であるとともに、多くの観光客を引きつけます。



四季折々の多彩でユニークな自然

渓谷や田園風景など、四季折々の変化を楽しめる自然が点在しています。



大地が育む多彩な「食」

豊かな大地が育む農林産物と加工品が豊富

菊池川が育んだ肥沃な大地では、米や野菜、果物など質のよい農林産物が豊富に生産されています。中でも、西日本一の生産量を誇る「やまが和栗」は、加工品開発も盛んで全国に多くのファンがいます。

近年では、伝統的に造られてきた日本酒に加え、ワイン、ウイスキー、クラフトビールの4種のお酒が製造される、全国的にも稀有な地域です。



便利で暮らしやすい環境

特徴ある子育て支援など、暮らしやすい環境

スーパー、直売所など、生活の利便性が高いのが魅力という市民、移住者の声が多く聞かれています。

子育て支援の分野では、待機児童ゼロ、高校生までの医療費助成、ランドセル無償支給のほか、小中学校の児童生徒に、Wi-Fiに頼らず使用できるLTE¹²端末の配布など、特徴のある支援を行っており、子どもたちが積極的に学び、自らの夢をかなえるための学びの機会創出なども行っています。

子どもを遊ばせる場所も多く、子育て環境の良さから、移住してくる人も増加しています。

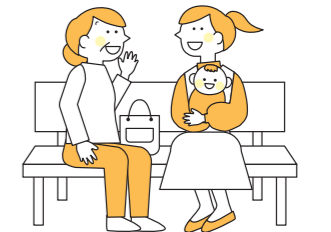


あたたかな人との触れ合い

あたたかいつながりを感じるコミュニティ

街全体がゆったりとした雰囲気に包まれており、住民同士のあたたかなつながりが魅力となっています。

人柄の良さから山鹿を選んだという移住者も多く、心地よいコミュニティが形成されていると言えます。



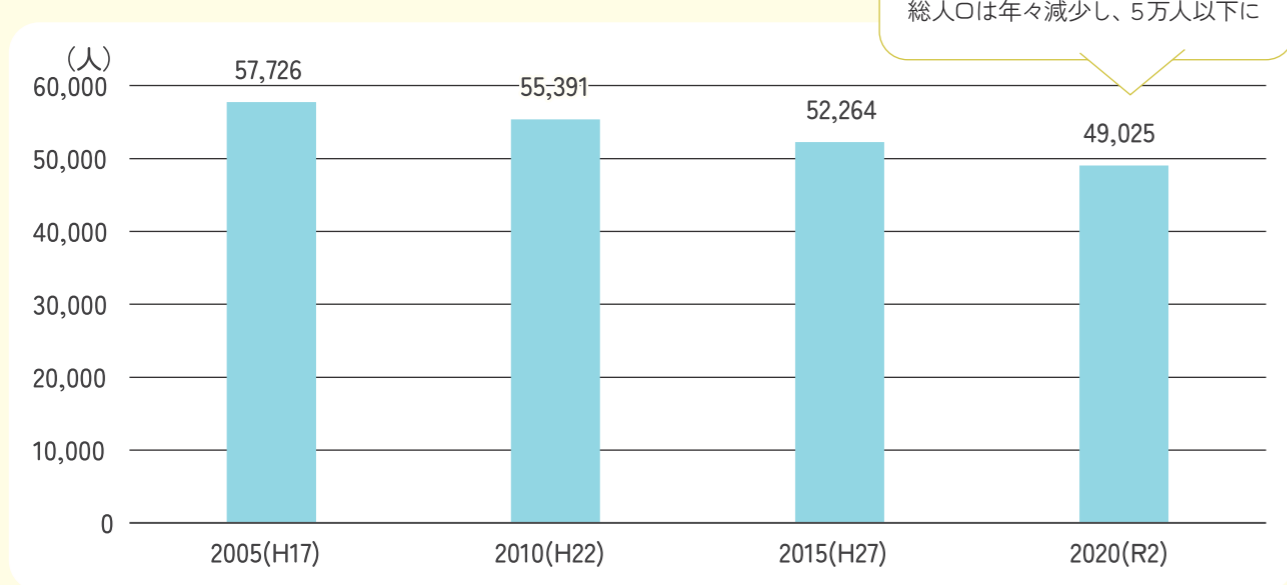
¹²Long Term Evolution(ロング・ターム・エボリューション)の略で、スマートフォンなどで使われる高速通信方式のこと。この方式を使ってインターネットにつなぐスマートフォンやタブレットなどの機器をLTE端末という

本市の課題

本市の課題について、人口や産業、財政状況等に関する経年的な統計データから整理します。

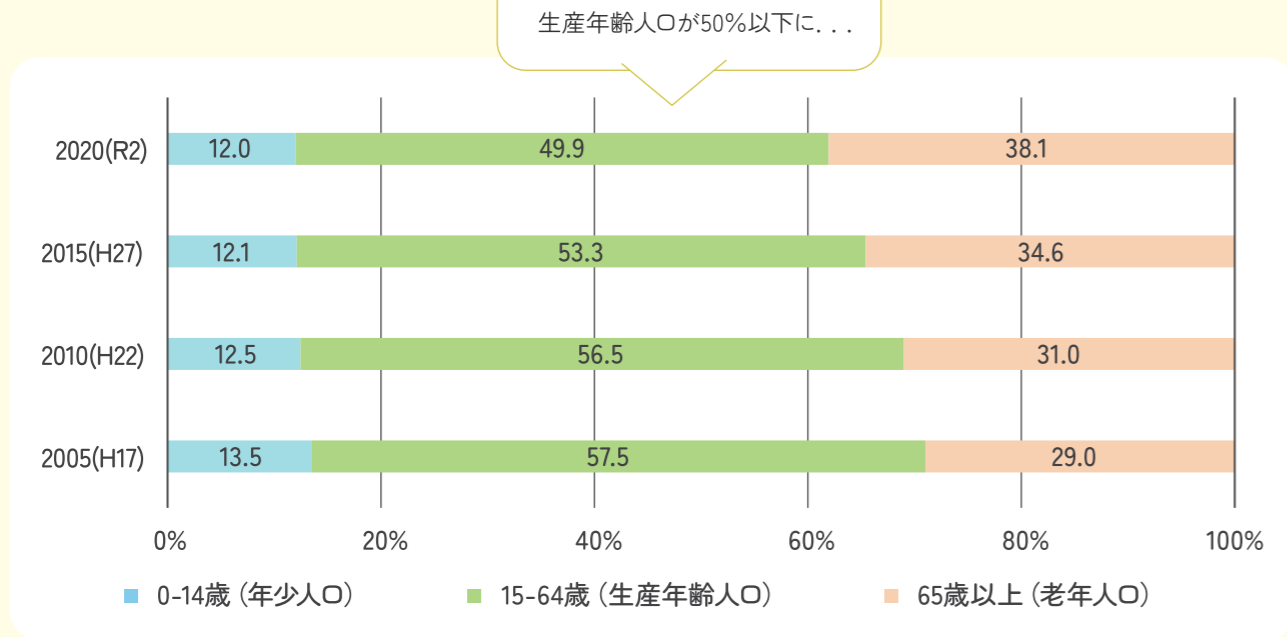
人口の現状

■人口の推移



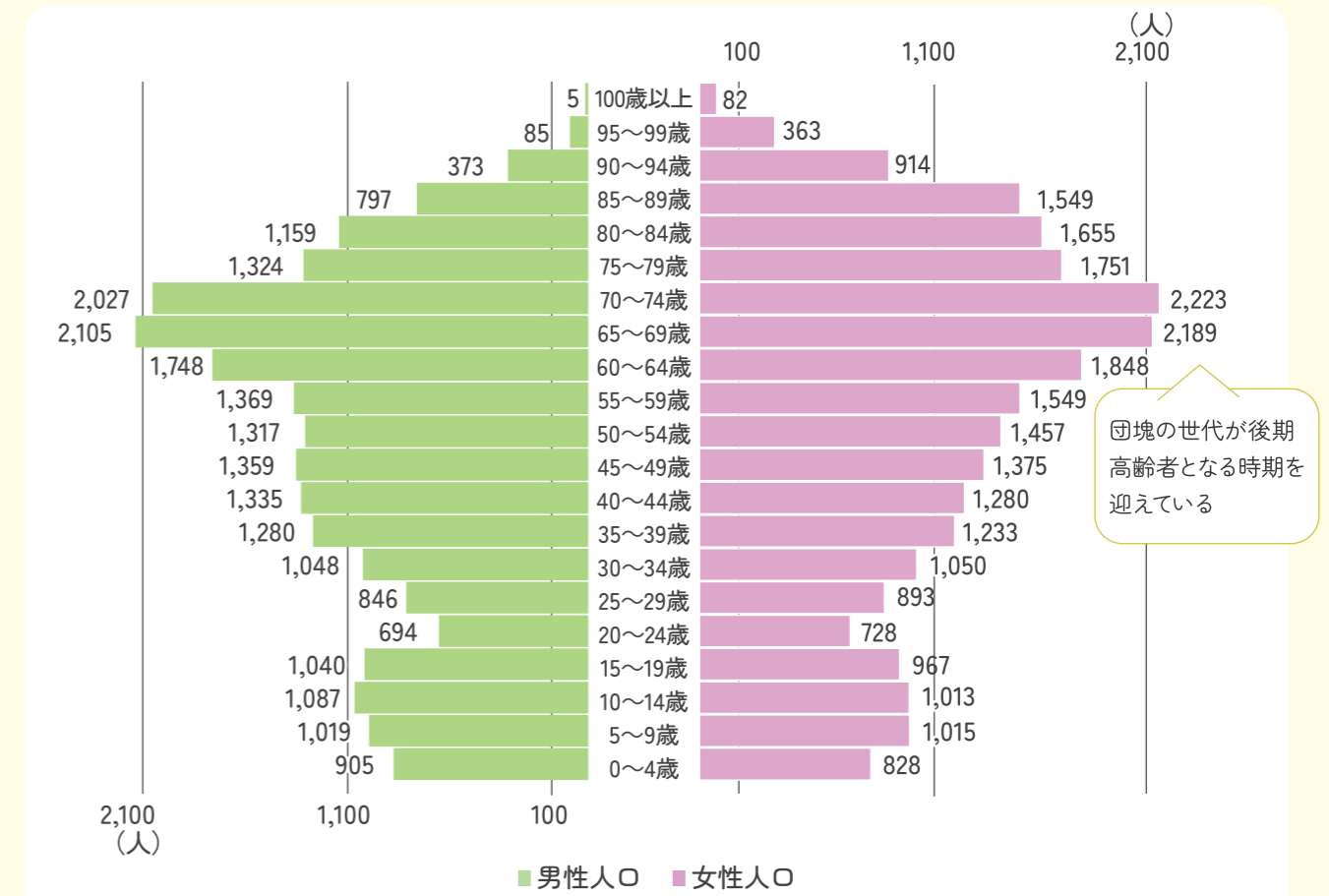
(出典：総務省「国勢調査」)

■年齢別3区分別人口比率の推移



(出典：総務省「国勢調査」) 年齢不詳を除く。

■2020(令和2)年の人口ピラミッド



(出典：総務省「国勢調査」) 年齢不詳を除く。

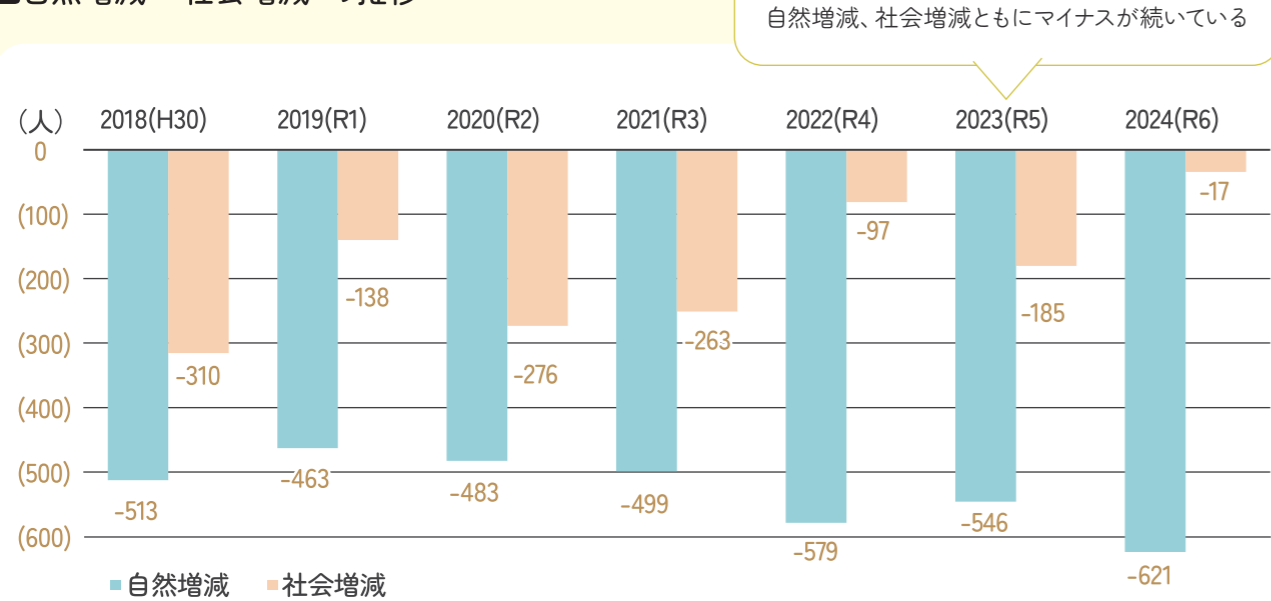
人口の現状のまとめ

- ◎ 総人口は年々減少しており2020(令和2)年に5万人を下回っています。
- ◎ 生産年齢人口が50%以下まで減少し、老年人口は、38.1%にまで上昇しています。
- ◎ 団塊世代が、後期高齢者となる時期を迎えています。
- ◎ 15-19歳と比べ、20-29歳が少なくなっており、進学・就職等による若年層の流出の影響がうかがえます。
- ◎ 一方で30代以上では増加しており、UIターンなどの影響もあると考えられます。

- ◆ 人口の減少を少しでもゆるやかにし、地域の実情にあったまちづくりを進めていくことが大切です。
- ◆ 子どもや若者の割合を増やしていくためのまちづくりを進めて行くことが大切です。

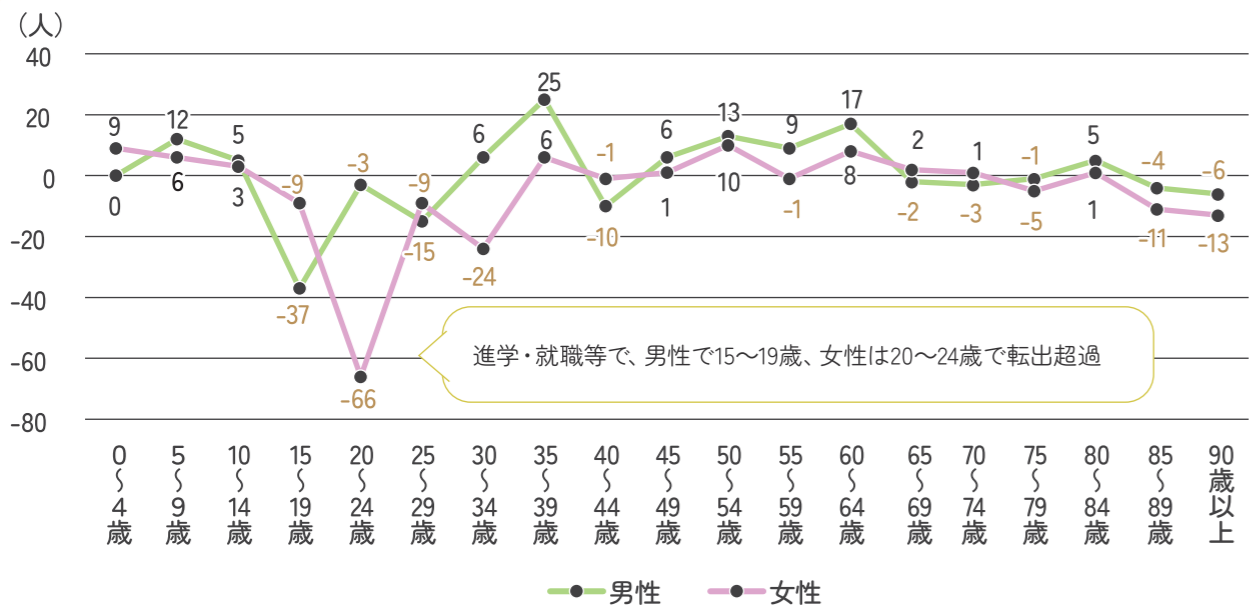
人口動態の現状

■自然増減¹³・社会増減¹⁴の推移



(出典：総務省「住民基本台帳」)

■2024年(令和6)年度の転入超過・転出超過の年齢構成

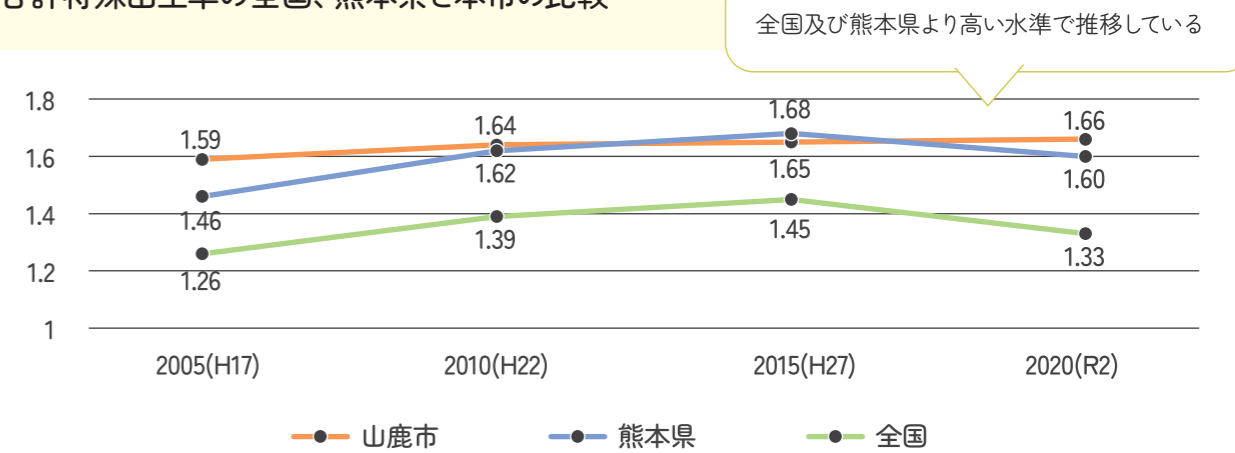


(出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」)

¹³ 出生と死亡によって起こる人口の増減

¹⁴ 転入と転出によって起こる人口の増減

■合計特殊出生率の全国、熊本県と本市の比較

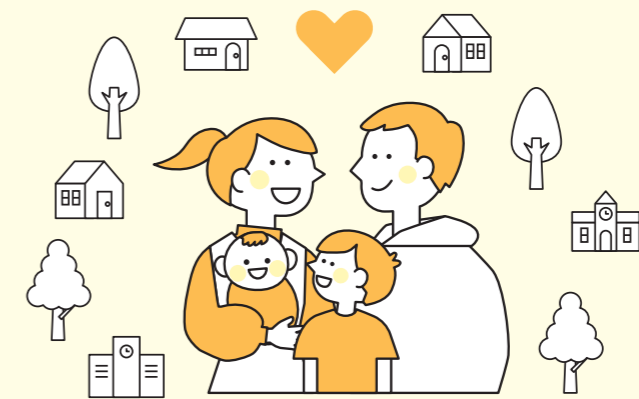


(出典：総務省「人口動態統計特殊報告」)

人口の現状のまとめ

- ◎ 自然増減、社会増減では、いずれも減少が続いています。
- ◎ 転出超過は男性で15-19歳、女性で20-24歳が最も多く進学、就職等による流出が大きいことがうかがえます。
- ◎ 転入超過は、男性の35-39歳が多く、移住(Uターン)による影響と考えられます。
- ◎ 合計特殊出生率は全国及び熊本県より高い水準で推移しているが、希望出生率¹⁵1.80より下回っています。

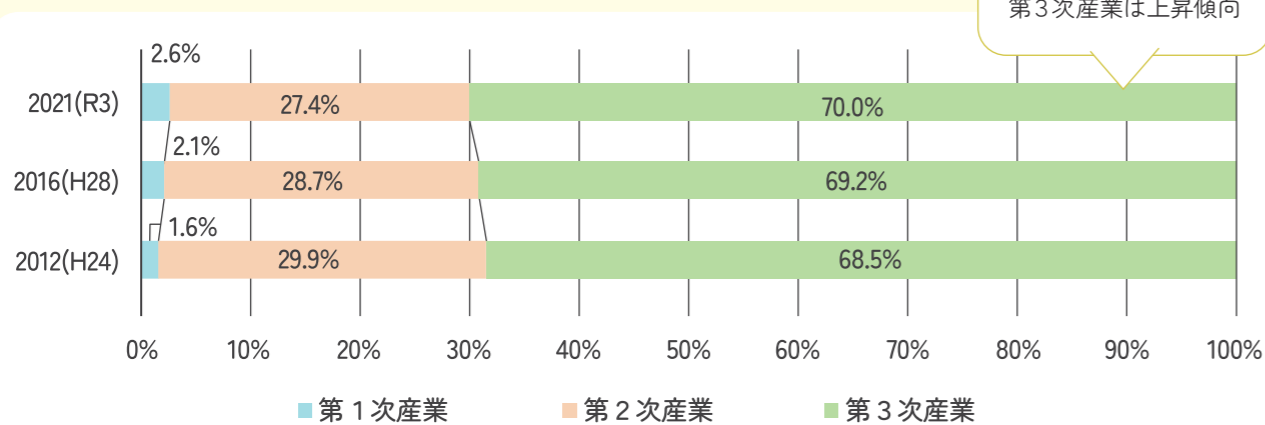
- ◆ 若い世代が「ここで暮らしたい」「また帰ってきたい」と思えるまちを目指します。
- ◆ 子どもを安心して産み、育てられるような環境づくりを進めていきます。



¹⁵ 結婚や出産を希望する人が希望通りに子どもを持てるようになった場合、日本の合計特殊出生率が1.8レベルになるという、政府が掲げた少子化対策の目標

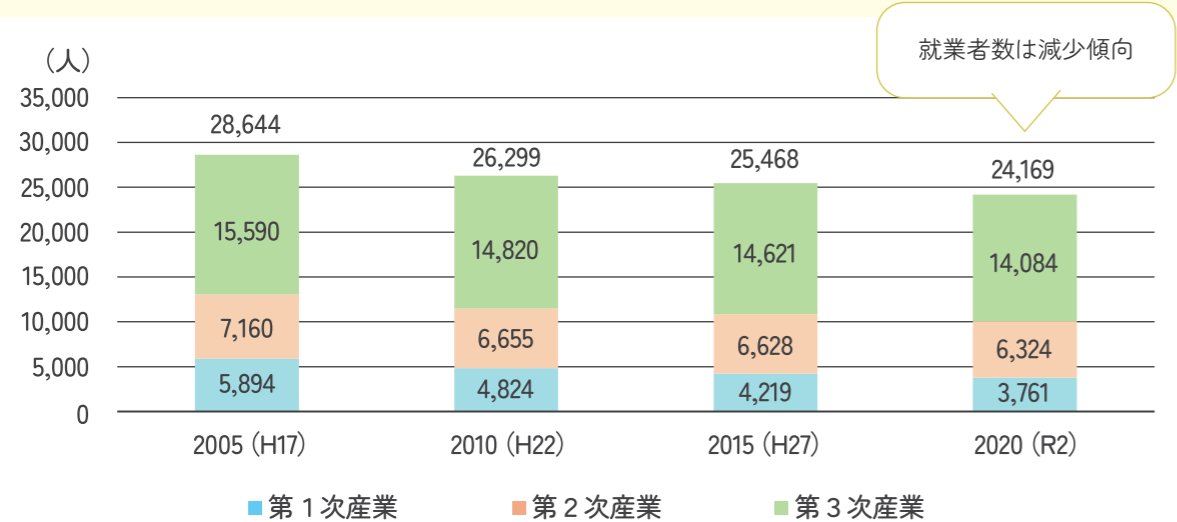
産業の現状

産業構造（従業者数割合）



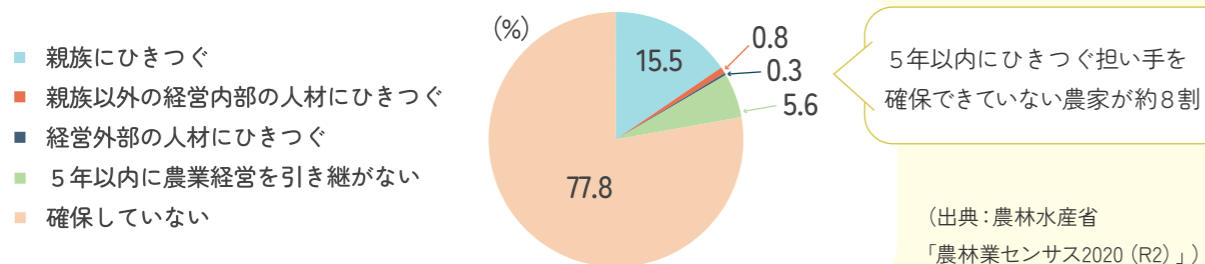
(出典：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」)
 第1次産業（農業・林業・漁業等） 第2次産業（製造業・建設業・鉱業等）
 第3次産業（商業・金融業・不動産業・運輸通信業等）

大分類別就業者数の推移



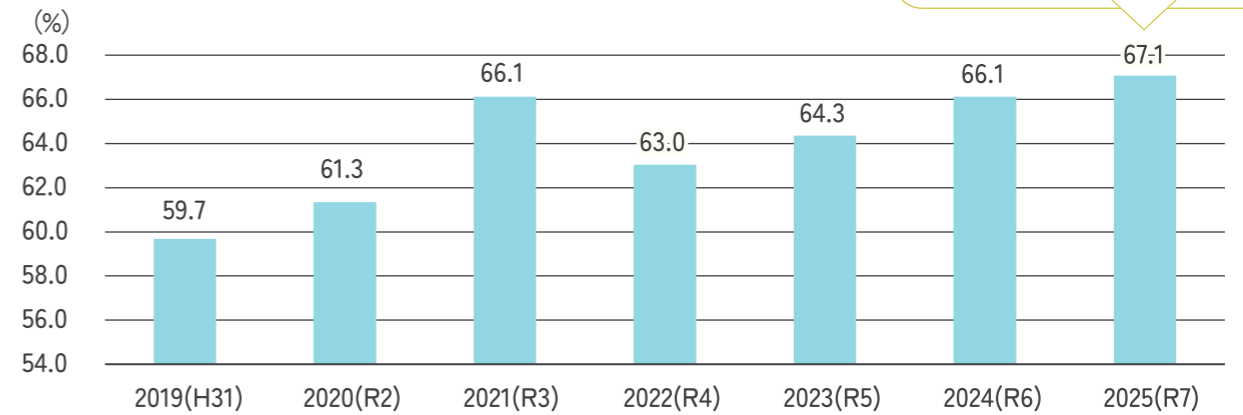
(出典：「国勢調査」)

農業の担い手の状況



熊本県新規高等学校卒業者の地元（県内）就職率の推移

増加傾向だが、7割以下にとどまる



(出典：文部科学省「高等学校卒業（予定）者の就職（内定）状況に関する調査」)

都道府県別新規高等学校卒業者の地元への就業者の割合ランキング

ベスト10			ワースト10		
順位	都道府県名	割合	順位	都道府県名	割合
1	愛知	95.0	38	沖縄	71.8
2	富山	94.8	39	長崎	71.7
3	北海道	93.7	40	高知	68.6
4	大阪	91.8	41	熊本	67.1
5	滋賀	91.5	42	佐賀	66.3
6	石川	90.5	43	埼玉	65.6
7	福井	89.9	44	宮崎	62.3
8	静岡	89.8	45	奈良	61.7
9	長野	89.5	46	青森	60.2
10	山梨	87.2	47	鹿児島	57.8

全国ワースト7位

(出典：文部科学省「令和7年3月新規高等学校卒業者の就職状況（令和7年3月末現在）に関する調査」)

産業の現状のまとめ

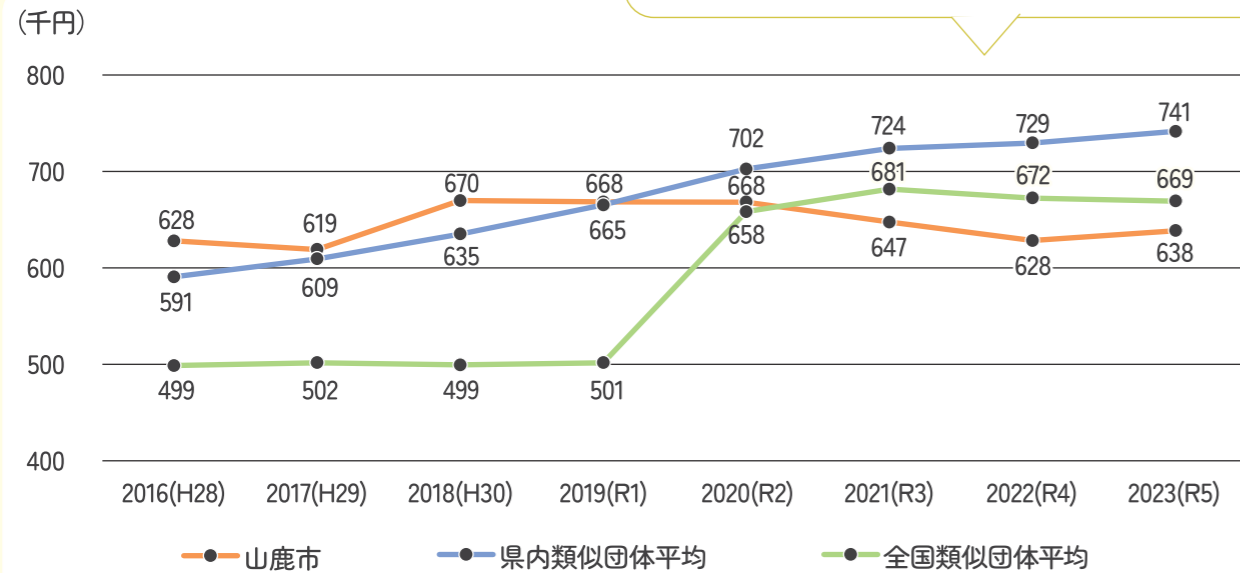
- ◎ 産業別の従業者数割合では、第1次、第3次産業の割合が上昇傾向であり、第2次産業の割合は低下しています。
- ◎ 第1次産業の就業者数は4,000人以下まで減少しています。

- ◆ 就業者、特に農業の担い手が減っている中で、将来を支える人材の育成や農林産物のブランド化、生産性の向上などに取り組むことが大切です。
- ◆ 若者が地元で働き、暮らし続けられるよう、多様な支援を進めていくことが大切です。

市の財政状況

■市民1人あたりの借金(市債)

緩やかに減少。災害の増加などに伴い、他自治体の市債が増加している一方で本市は計画的な財政運営等により市債の増加がないため、全国、県内平均と比較して低い



(出典：「山鹿市財政状況」、総務省「類似団体比較カード」)

※本市の類型は2016～2019年がII-1、2020年～2023年はI-1。類型の変更に伴い、全国類似団体の平均値が変化している

市の財政状況のまとめ

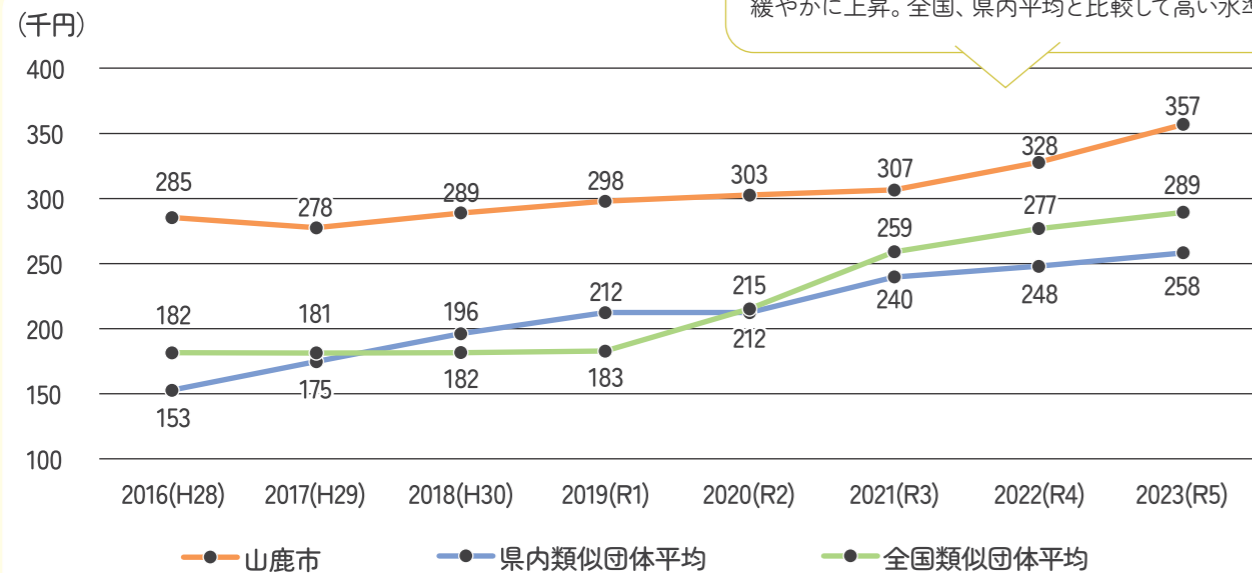
- ◎ 市民1人あたりの借金(市債)は緩やかに減少し、市民1人あたりの貯金(基金)額は上昇しています。計画的な財政運営の効果が出ていると考えられますが、今後は人口減少等の影響もあり、さらなる健全化の取組が必要になります。
- ◎ 高度経済成長期にあたる昭和40年～60年代にかけて多くの公共施設、土木インフラを集中的に整備しましたが、年月とともに老朽化が進行し、これらの公共施設が今後一斉に更新の時期を迎えることとなります。



- ◆ 人口減少や高齢化が進む中で、計画的な行政運営と、持続可能な財政運営を進めていくことが大切です。
- ◆ 公共施設の見直しや複合化などを通して、将来にわたって無理のない財政運営を目指します。
- ◆ 社会の変化や多様なニーズに対応できるよう、組織の体制や仕事の進め方を見直し、より効果的で効率的な行政運営を進めていきます。

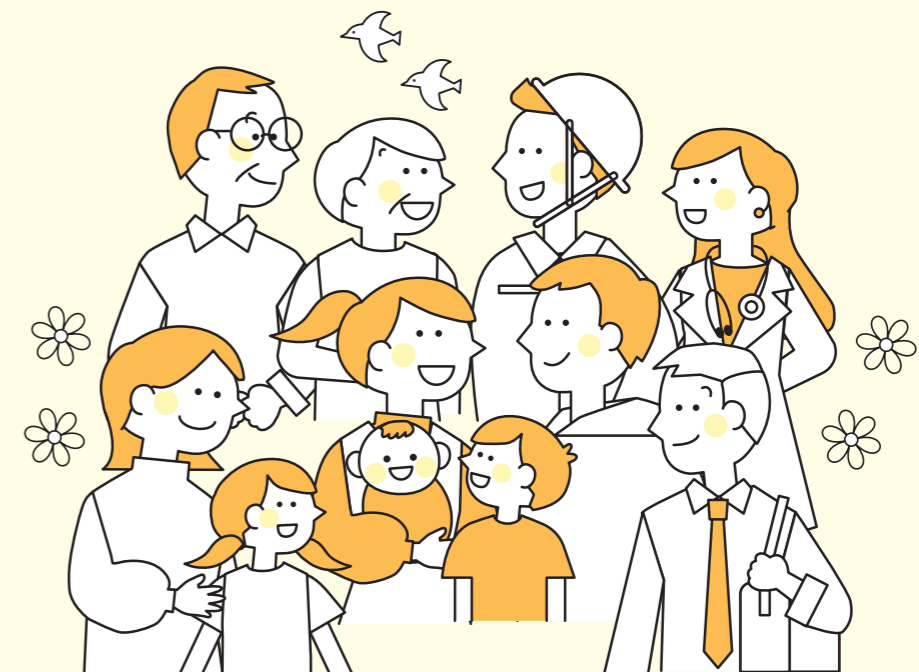
■市民1人あたりの貯金(基金)

緩やかに上昇。全国、県内平均と比較して高い水準



(出典：「山鹿市財政状況」、総務省「類似団体比較カード」)

※本市の類型は2016～2019年がII-1、2020年～2023年はI-1。類型の変更に伴い、全国類似団体の平均値が変化している



市民ニーズについて

定住意向や、施策に対する満足度、重要度など、市民のニーズから見える現状の一面として整理します。

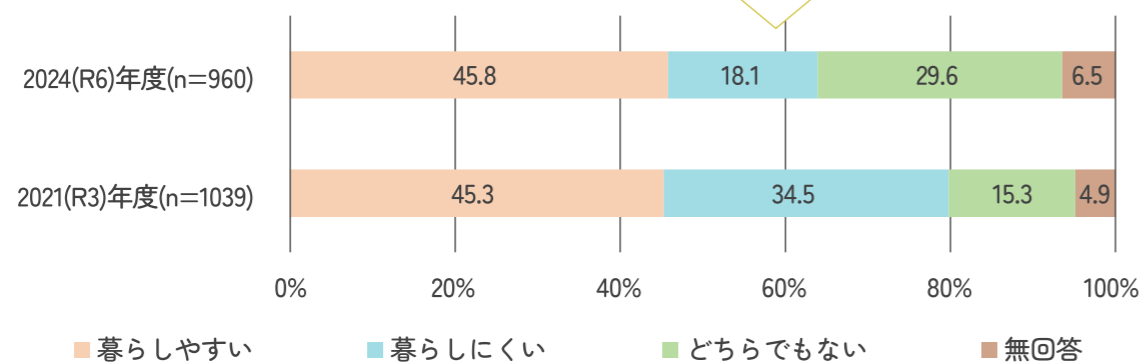
(出典:「令和3年度総合戦略に関する市民アンケート調査」「令和6年度総合戦略に関する市民アンケート調査」)

市民アンケート調査結果概要

	2021 (令和3) 年度	2024 (令和6) 年度
調査対象者	本市在住の市民から無作為に抽出した3000人	
配布数	3000件	
有効回答数	1039件	960件
有効回答率	34.6%	32.0%

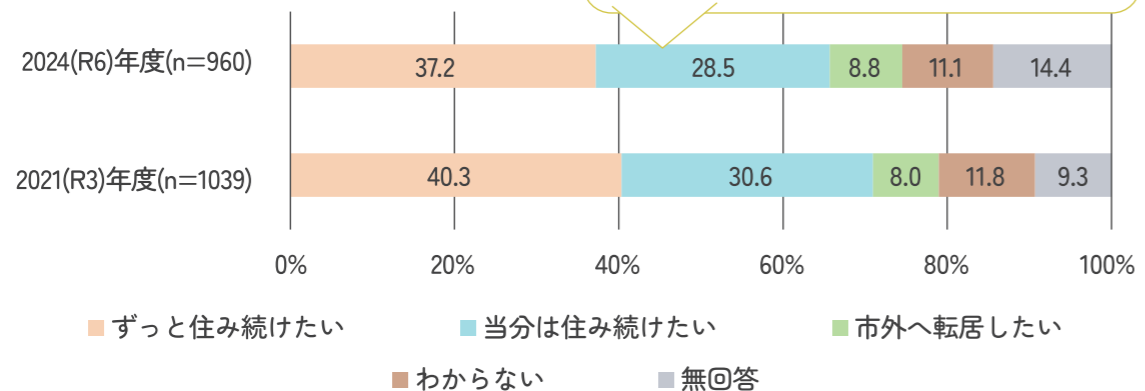
■山鹿に対する考えについて(暮らしやすさ)

「暮らしにくい」と答えた人の割合が減少

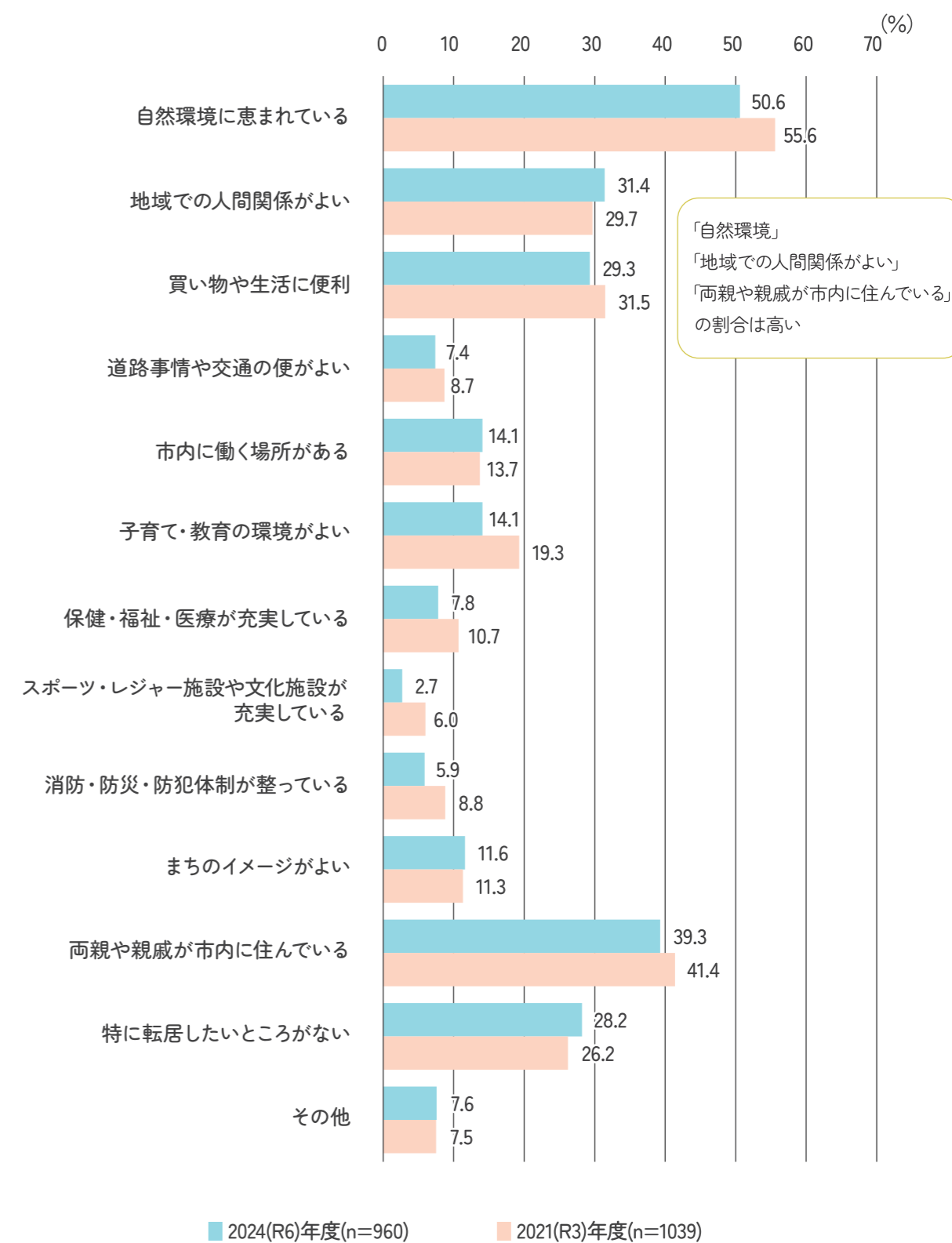


■山鹿に対する考えについて(今後の居留意向)

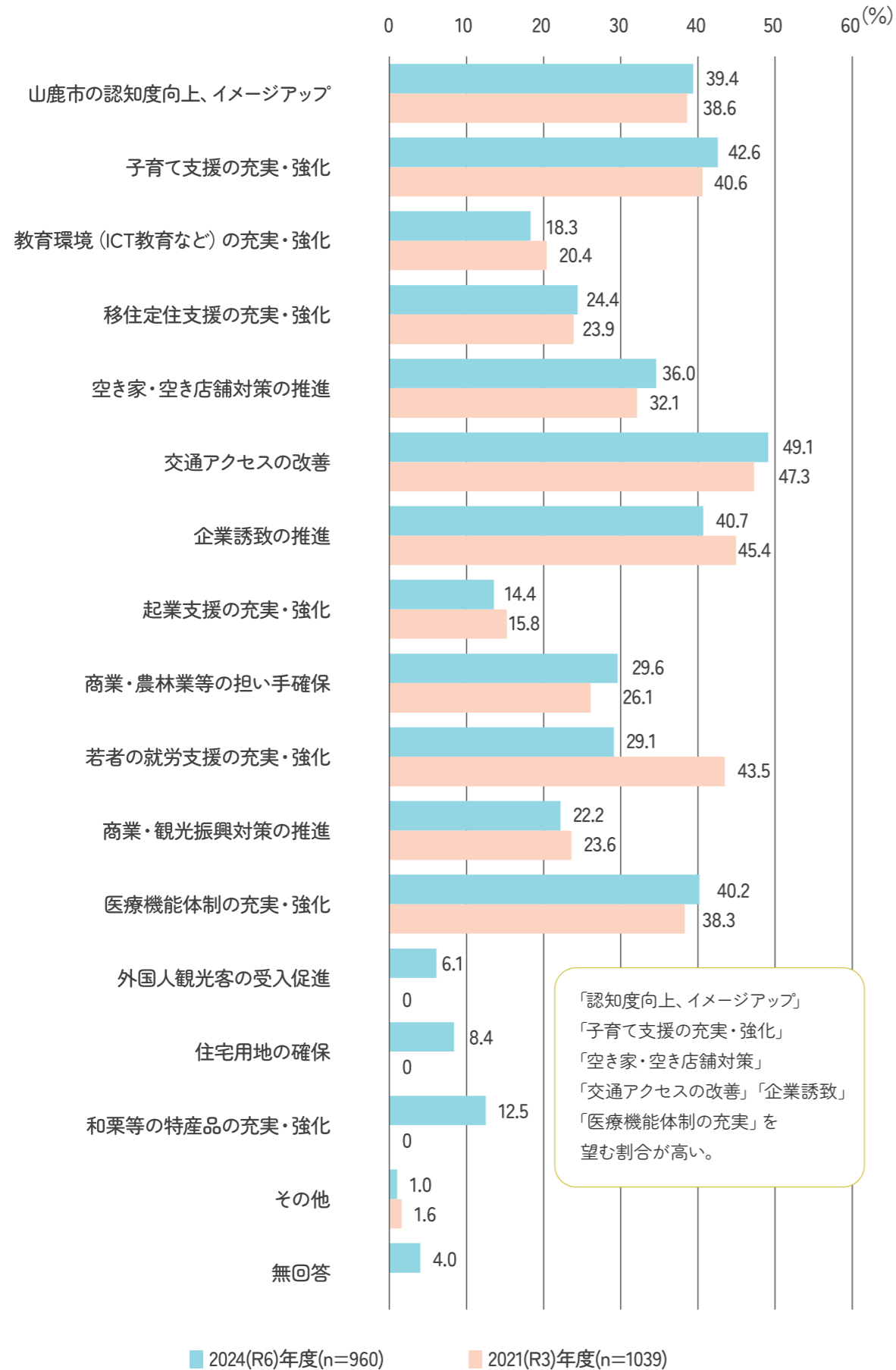
「ずっと住みたい」「当分は住みたい」と答えた人の割合が減少



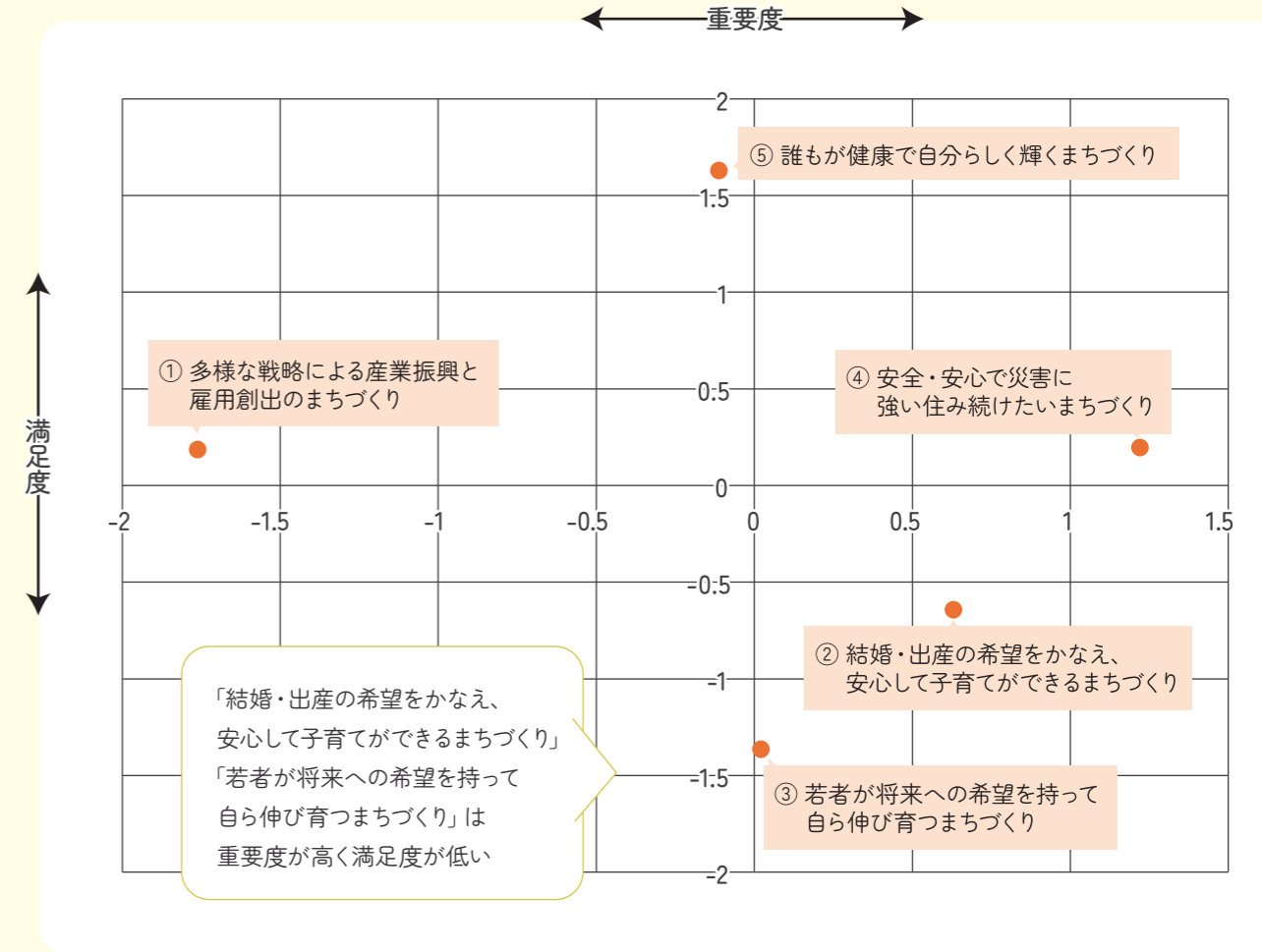
■山鹿に対する考えについて(住み続けたい理由)



■山鹿に対する考えについて（「選ばれる山鹿」になるための重要な取組）



■第2次山鹿市総合計画における満足度及び重要度の相関図



市民意識調査から見た現状・第2次山鹿市総合計画の総括

- ◎ 満足度が高いのは「誰もが健康で自分らしく輝くまちづくり」「安全・安心で災害に強い住み続けたいまちづくり」「多様な戦略による産業振興と雇用創出のまちづくり」の順。
- ◎ 満足度が低いのは「結婚・出産の希望をかなえ、安心して子育てができるまちづくり」「若者が将来への希望を持って自ら伸び育つまちづくり」。
- ◎ 特に重要度が高いのは「安全・安心で災害に強い住み続けたいまちづくり」「結婚・出産の希望をかなえ、安心して子育てができるまちづくり」。
- ◎ 結婚や出産、子育てなどへの支援と若者への支援策についての改善とさらなる充実が求められている。

市民ワークショップの概要

本市のまちづくりについて、市民の皆さんの意見を伺い、未来の本市の姿を共に描くためのワークショップを開催しました。

開催概要

開催日時	2025(令和7)年6月27日(金) 14時～、19時～
場 所	山鹿市民交流センター会議室
参加者数	27名

市民の皆さんの意見

山鹿市のいいところ

- 八千代座や街並み、資源や歴史など文化がある
- 農産物や食べ物、特に和栗、4つのお酒が揃っている
- 温泉がある
- 挨拶・親切・いい意味でおせっかい、コミュニティのつながりなど人がいい
- 自然が豊か

山鹿市の課題

- 公共交通の便（バスが少ない、鉄道がない）
- 空き地、空き家の多さ
- 働く場所がない
- 子育て、教育支援が少ない
- 市民が集まって意見を出す場所がない
- 文化に親しむ機会や大切にする雰囲気がない
- 旧市町意識
- 祭りの維持（山鹿灯籠を含む）

こんな山鹿にしていきたい！

- 暮らしやすさ、移動しやすさ、安心して暮らせることがあたりまえの「**ずっといたい山鹿**」
- 若い人が戻ってきて夢をかなえられる「**やりたいことができる、ワクワクする山鹿**」
- いろいろな人の意見が反映される「**市民と共につくる山鹿**」



高校生ワークショップの概要

本市のまちづくりについて、高校生の皆さんの意見を伺い、未来の本市の姿を共に描くためのワークショップを開催しました。

開催概要

開催日時	2025(令和7)年7月18日(金) 15時30分～
場 所	山鹿市役所401会議室
参加者数	26名（鹿本高校、鹿本商工高校、鹿本農業高校、城北高校）

高校生の皆さんの意見

山鹿市のいいところ

- 温泉がある(さくら湯)
- やさしい人がたくさんいる
- 自然がいっぱい
- 農産物がおいしい
- 未成年の病院代がタダ
- 風景がいい
- 灯籠踊りがある

山鹿市の変わってほしいところ

- お店が少ない
- 服店・映画館・スタバを作る
- 街の明かりを増やす
- 娯楽が少ない
- 使われていない店を活用したい
- 小さな公園にもう少し遊具が欲しい
- バスの本数が少ない
- 電車で通学できるようにしたい
- さくら湯と何かをコラボしたらいい
- 体験できるイベントが増えて欲しい
- 取組があるのに知られていない



電車でぐるっと回れる山鹿！

2-2 まちづくりの課題

市の現状から見えた課題を整理しました。これらの課題は相互に関連しており、どれか一つを解決すれば良いというものではありません。総合的な視点での取組が必要です。



人口減少と少子高齢化

- **労働力不足**
若年層の市外流出や高齢化の進行により、産業を支える働き手が減少し、経済活動の維持が難しくなっています。
- **少子化**
市民が安心して子育てをするため、多様なニーズに応える支援が重要です。
- **地域コミュニティの担い手不足**
地域の行事や伝統文化の継承、防災活動など、コミュニティ活動を支える人材が減り、地域の活力が失われつつあります。
- **空き家問題**
景観の悪化、防犯・防災上のリスク、資産価値の低下といった問題を引き起こす要因になっています。

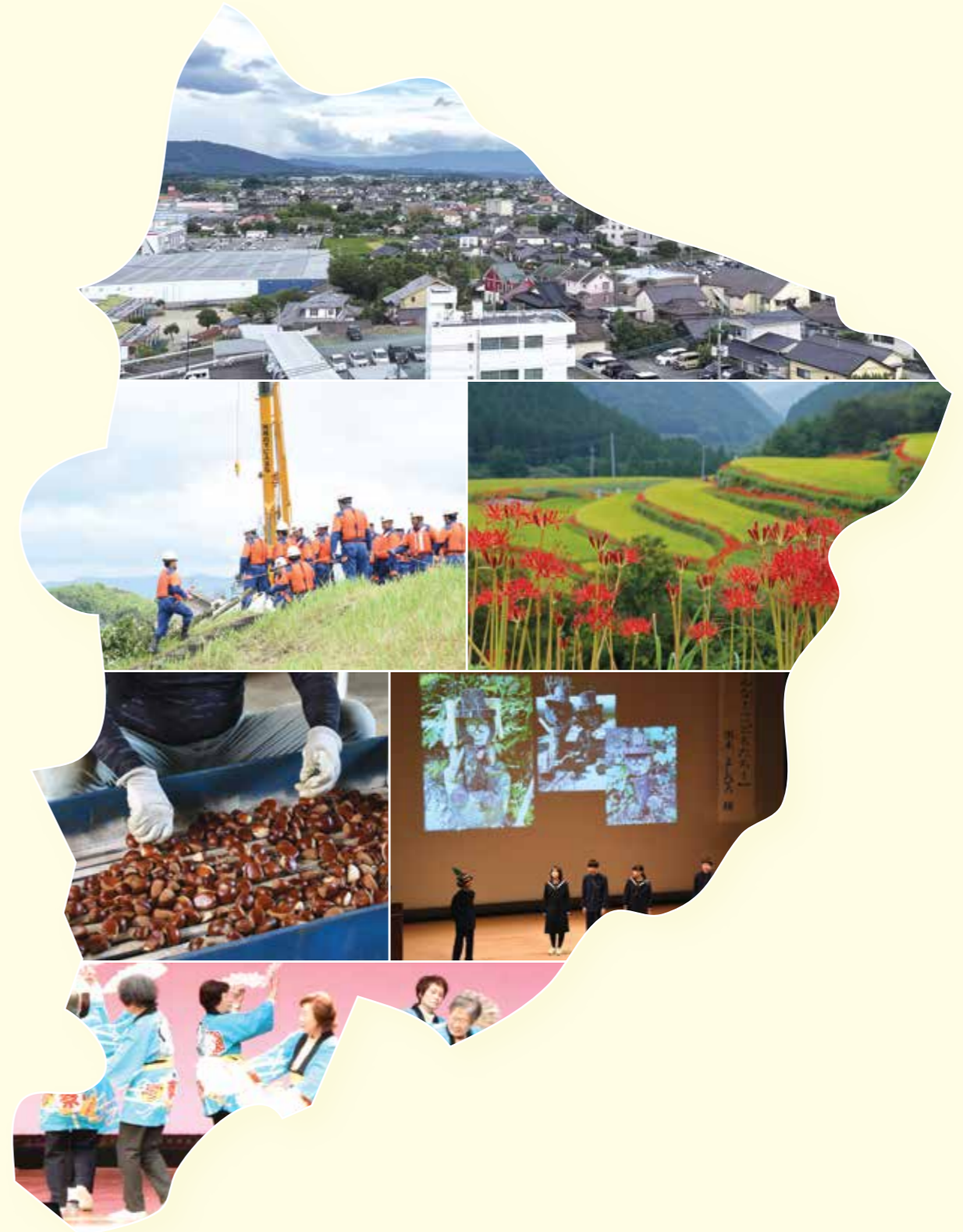
産業の活性化と雇用の創出

- **農業の担い手不足**
農業が盛んな地域である一方、後継者不足が深刻化しています。スマート農業¹⁶の導入や新規就農者の確保が課題となっています。
- **観光振興**
豊かな自然や温泉、歴史的建造物といった観光資源が多く、活用方法を工夫することでこれまで以上に観光客や宿泊客を増やせる可能性があります。また、地域内での消費を促すなどの取組も求められます。
- **魅力的な雇用の創出**
定住につながるような、市内での多様な働き口を創出することが重要です。

交通・生活インフラの充実

- **公共交通**
人口密度の低い地域では、採算性の問題から公共交通の維持が難しくなります。自家用車を持たない高齢者や学生の移動手段をどう確保するかが課題です。
- **医療・福祉**
高齢化が進む中で、地域全体で医療や介護サービスをいかに充実させるかが求められます。

相互に関連



¹⁶ドローンやロボットトラクターなどの技術やAI、情報通信技術を活用し、農作業の効率化や生産性向上、コスト削減、人材不足の解消などを目指す新しい農業のこと



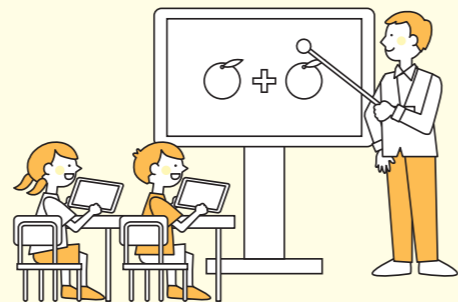
3-2 まちづくりのコンセプト

「ずっと 住みたい 健幸都市 やまが」の実現に向けて、次の5つのまちづくりのコンセプトを設定し、各施策を進めていきます。

1 彩り豊かな「ひと」を育むまち

市民一人ひとりが自分らしく輝き、互いに尊重し合いながら共生できる環境づくりを進めます。

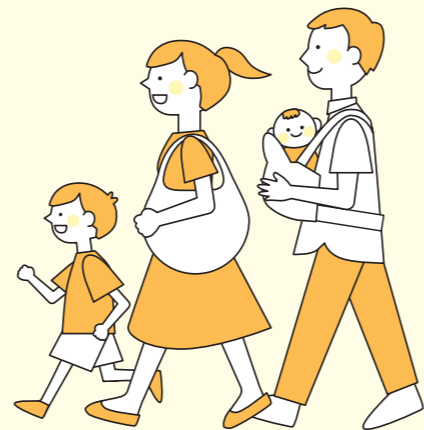
施策1	人権・平和・多文化共生
施策2	男女共同参画・女性活躍
施策3	就学前教育・学校教育
施策4	生涯学習・スポーツ・青少年健全育成
施策5	歴史・文化



2 地域資源を活かし、「しごと」を生み出し、「賑わい」を創出するまち

豊かな地域資源を最大限に活かし、新たな「しごと」と活気に満ちた「賑わい」を創出することで、持続可能な地域社会の実現を目指します。また、商工業、農林畜水産業、雇用、観光の各分野が連携し、相互に好循環を生み出す施策を強力に推進していきます。

施策6	商工業
施策7	農林畜水産業
施策8	雇用
施策9	観光



3 快適な「暮らし」を続けられるまち

安全で便利な生活インフラや交通網を整え、誰もが快適に暮らし続けられるまちづくりを進めます。

施策10	道路・公共交通・住まい
施策11	上下水道・生活環境
施策12	環境保全・脱炭素 ¹⁸ ・エネルギー
施策13	防災・消防
施策14	防犯交通・消費者トラブル



4 支え合い健やかに過ごせる「健幸」なまち

市民一人ひとりが心身ともに健康で、幸福を感じながら暮らせるよう、地域全体で支え合いができるまちづくりを進めます。

施策15	子育て支援
施策16	医療・健康
施策17	高齢者福祉
施策18	地域福祉
施策19	障害福祉
施策20	協働・コミュニティ



5 工夫しながら、わかりやすく、あたたかい「サービス」を届けるまち

限られた資源(予算、人材、時間など)を効果的・効率的に活用し、市民のニーズや社会の変化に対応しながら、長期的な視点を持って行政を進めます。また、市民が求めるニーズに合致し、かつ期待を超えるような、価値のあるサービスを提供できる体制づくりを目指します。

施策21	情報政策(DX)
施策22	広報啓発活動
施策23	行財政運営



¹⁸二酸化炭素(CO2)の排出量を実質的にゼロに近づける取組のこと

総合計画を支える個別計画

最上位計画である総合計画を補完するため、各分野を所管する部局等が中心となって個別計画を策定し、総合計画を支えています。

個別計画にはそれぞれ固有の計画期間が設けられており、社会の情勢の変化や施策の進捗状況に応じて、定期的な見直し・改訂が行われます。

各個別計画はPDCAサイクル¹⁹に基づく進捗管理のもと、総合計画との整合性を保ちながら、分野ごとの施策を着実に推進していきます。

No.	担当課	個別計画等名称	まちづくりのコンセプト				
			彩り豊かな「ひと」を育むまち	地域資源を活かし、「しごと」を生み出し、「賑わい」を創出するまち	快適な「暮らし」を続けられるまち	支え合い健やかに過ごせる「健幸」なまち	工夫しながら、わかりやすく、あたたかい「サービス」を届けるまち
1	総務課	山鹿市定員管理指標				●	●
2	総務課	山鹿市特定事業主行動計画				●	●
3	総務課	山鹿市人材育成基本方針				●	●
4	総務課	山鹿市障害者活躍推進計画(第2期)				●	●
5	政策調整課	まち・ひと・しごと創生第3期山鹿市総合戦略	●	●	●	●	●
6	政策調整課	山鹿市過疎地域持続的発展計画	●	●	●	●	●
7	情報政策課	山鹿市デジタル化基本方針			●	●	
8	防災監理課	山鹿市地域防災計画			●	●	
9	防災監理課	第4次山鹿市交通安全計画			●	●	
10	財務課	山鹿市公共施設等総合管理計画			●	●	●
11	人権啓発課	第3次山鹿市男女共同参画計画	●				
12	人権啓発課	第3次山鹿市人権教育・啓発基本計画	●				
13	地域生活課	山鹿市地域公共交通計画			●	●	
14	環境課	第3次山鹿市環境基本計画			●	●	
15	環境課	第3次山鹿市一般廃棄物処理基本計画			●	●	
16	環境課	第11期山鹿市分別収集計画			●	●	
17	環境課	山鹿市地球温暖化対策実行計画			●	●	
18	福祉課	第3期山鹿市地域福祉計画・山鹿市成年後見制度適正利用促進計画				●	
19	福祉課	山鹿市第4期障害者計画				●	
20	福祉課	山鹿市第7期障害福祉計画				●	
21	福祉課	山鹿市第3期障害児福祉計画				●	
22	長寿支援課	第9期山鹿市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画				●	

No.	担当課	個別計画等名称	まちづくりのコンセプト				
			彩り豊かな「ひと」を育むまち	地域資源を活かし、「しごと」を生み出し、「賑わい」を創出するまち	快適な「暮らし」を続けられるまち	支え合い健やかに過ごせる「健幸」なまち	工夫しながら、わかりやすく、あたたかい「サービス」を届けるまち
23	健康増進課	第2期山鹿市いのちを支える自殺対策計画				●	
24	健康増進課	第4次山鹿市健康増進計画				●	
25	健康増進課	第3次山鹿市食育推進計画				●	
26	国保年金課	山鹿市国民健康保険第3期保健事業実施計画(データヘルス計画)・第4期特定健康診査等実施計画				●	
27	子ども課	山鹿市子ども計画				●	
28	農業振興課	山鹿農業振興地域整備計画		●			
29	林業振興課	山鹿市森林整備計画		●	●		
30	建設課	山鹿市国土強靱化計画			●	●	
31	建設課	橋梁長寿命化計画			●	●	
32	建設課	舗装個別施設計画			●	●	
33	都市整備課	山鹿市都市計画マスタープラン			●	●	
34	都市整備課	山鹿市住宅マスタープラン(住生活基本計画)			●	●	
35	都市整備課	山鹿市建築物耐震改修促進計画			●	●	
36	都市整備課	市営住宅長寿命化計画			●	●	
37	都市整備課	公園施設長寿命化計画			●	●	
38	都市整備課	山鹿市空家等対策計画			●		
39	都市整備課	山鹿市景観計画			●		
40	都市整備課	山鹿市歴史的風致維持向上計画		●			
41	下水道課	山鹿市下水道事業経営戦略			●	●	●
42	水道課	山鹿市水道ビジョン			●	●	●
43	教育総務課	第4次山鹿市教育大綱	●			●	
44	教育総務課	第5次山鹿市教育振興基本計画	●			●	
45	教育総務課	学校施設長寿命化計画	●			●	
46	生涯学習・スポーツ課	山鹿市スポーツ推進計画	●			●	
47	生涯学習・スポーツ課	第4次山鹿市読書活動推進計画	●			●	
48	文化課	重要文化財八千代座保存活用計画	●	●		●	
49	文化課	山鹿市文化芸術推進基本計画	●	●		●	
50	消防総務課	山鹿市消防本部定員管理指標			●		●

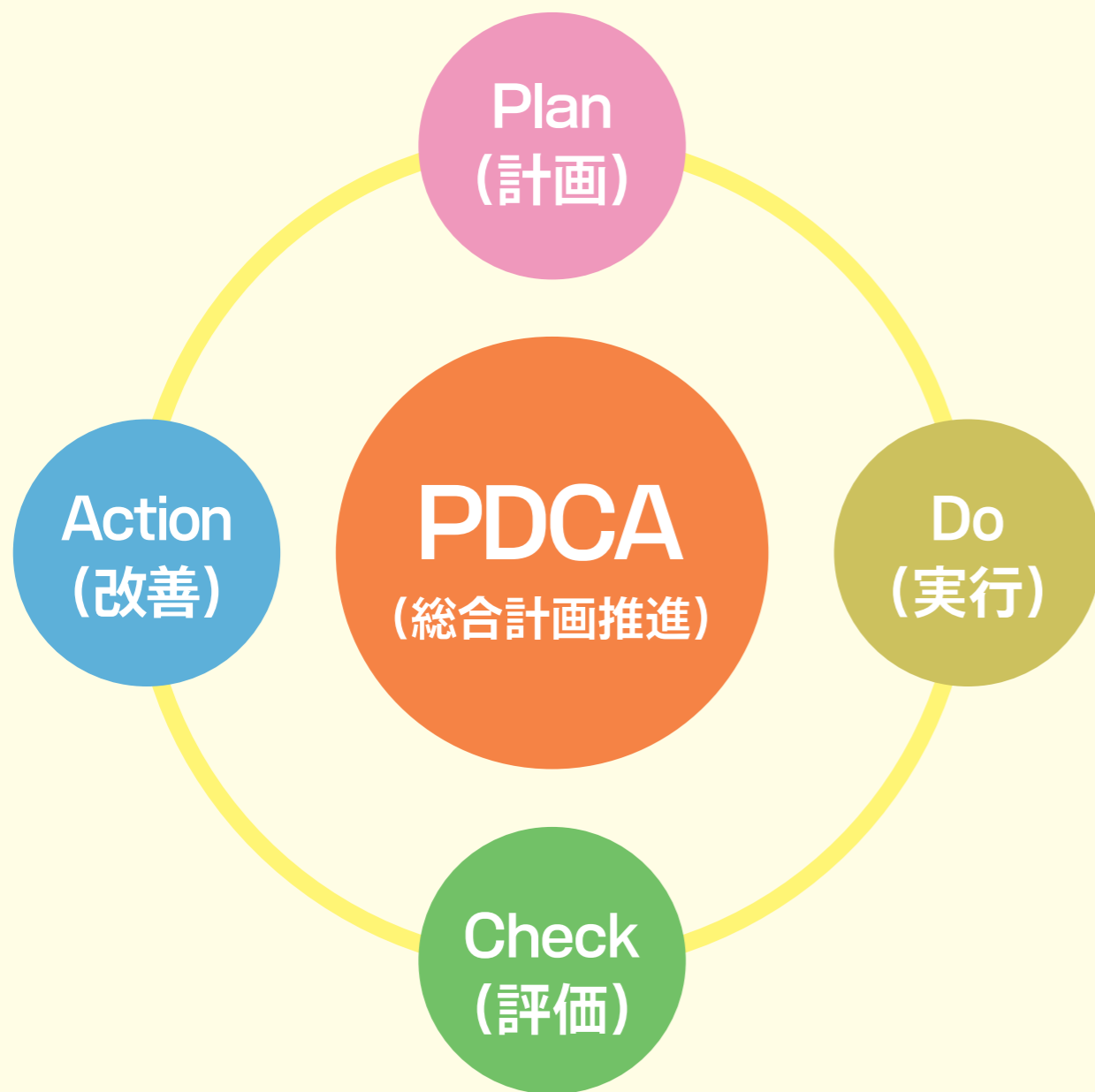
¹⁹ Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の4つのステップを繰り返すことで、業務やプロジェクトを継続的に改善していくこと

5

構想の推進に向けて

本計画に掲げる構想を着実に推進していくため、各施策に紐づく個別計画に基づいた成果検証と評価によりPDCAサイクルを用いて計画の進行管理を行います。

また、第三者による評価の実施など客観性の確保に努め、計画の進捗を定期的に確認し、社会経済情勢の変化や新たな課題にも柔軟に対応できる仕組みを構築します。



第3次山鹿市総合計画

前期アクションプラン編 (まち・ひと・しごと創生 第3期山鹿市総合戦略)



1 アクションプランの概要

1-1 アクションプランとは

アクションプランとは、基本構想編で描いた未来ビジョン「ずっと住みたい 健幸都市 やまが」を実現するための行動計画で、まちづくりのコンセプトごとに主要な事業をまとめ、毎年度、進捗管理し、重点的に取り組んでいきます。

加えて、「結婚・子育て応援」、「しごと・人材応援」、「移住・定住応援」、そして「健幸づくり応援」の4つの視点を重視し、具体的な施策を展開します。

また、本市では「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、急速な少子高齢化の進行に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、活力ある地域社会の形成に向けて、産業の育成や雇用の創出、結婚や子育て、就業の支援などを一体的に推進しながら持続可能なまちを創るため、「まち・ひと・しごと創生第2期山鹿市総合戦略」(2020年度～2025年度)を策定し、市で取り組むべき重点的な事業を実施してきました。

第3次山鹿市総合計画においては、人口ビジョン(令和8年3月改訂)で示された将来展望を踏まえ、本市が直面する人口減少の克服に向けて、重点的・優先的に取り組む必要があることから、総合計画と総合戦略を一体化させ、国や県の動向等を十分に考慮した上で総合戦略を策定し、総合的かつ効率的に推進します。

1-2 計画期間(前期4年間)

前期アクションプランの計画期間は、2026(令和8)年度を初年度とする2029(令和11)年度までの4年間です。

1-3 事業計画

アクションプランには、まちづくりのコンセプトごとに「プロジェクト」を記載します。プロジェクトはすべて、「結婚・子育て応援」「しごと・人材応援」「移住・定住応援」「健幸づくり応援」の4つの視点に基づいて設定されています。その中でも特に優先的・重点的に取り組むものを「重点プロジェクト」として位置づけています。

また、そのほかの取組は、分野ごとの個別計画で進め、総合的なまちづくりを進めていきます。各プロジェクトでは、社会の変化や市民の声に合わせて見直しを行いながら、着実に実施します。これにより、市民の皆さんとともに、未来ビジョンの実現に向けたまちづくりを進めていきます。

2 進捗管理と指標

2-1 指標の設定

アクションプランの進捗管理を行うため、まちづくりのコンセプトごとに数値目標を設定し、さらに各施策ごとに重要業績評価指標(KPI)¹を設けます。

2-2 進捗管理の方法

アクションプランについては、毎年度PDCAサイクルにより検証します。このPDCAサイクルは、外部組織で構成する総合計画審議会及び市民アンケート(実態調査)による検証を経て、進捗状況に応じて見直しを行います。

2-3 中間見直し

4年後には、進捗状況や評価、検証結果に基づき2026(令和8)年度から2029(令和11)年度までの前期アクションプランの内容を見直し、2030(令和12)年度から2033(令和15)年度までの後期アクションプランを策定します。

2-4 事業実施上の留意点

アクションプランの各プロジェクトについては、社会情勢や財政状況の変化などにより、実施が困難となる場合や、次年度へ繰り越して実施する必要が生じた場合、あるいは新たに実施すべき事業が発生した場合には、基本構想の範囲内で柔軟に運用します。

¹ 取組がどれくらい進んだかを数字で表す目安のこと

前期アクションプランのイメージ

策定の趣旨

策定の趣旨

基本構想で掲げた5つのまちづくりのコンセプトのもと、各分野における施策の基本方針、数値目標、主な取組内容、プロジェクト、施策ごとのKPI等を示し、まちづくりを計画的に進めるため、前期アクションプラン(行動計画)を策定します。

進行管理

活動・成果指標の実績は所管の個別計画・個別事業で把握します。また、総合計画の毎年度点検(PDCA)においてKPIと併せて提示し、市民に分かりやすく公表します。

基本構想

未来ビジョン **ずっと 住みたい 健幸都市 やまが**

指標1「人口ビジョン(緩やかな減少抑制)」 指標2「山鹿市に住み続けたいと思う市民の割合」

まちづくりのコンセプト

施策

4つの視点に関連する重点プロジェクト

まちづくりのコンセプト	施策	視点1 結婚・子育て応援	視点2 しごと・人材応援	視点3 移住・定住応援	視点4 健幸づくり応援	個別計画
1 彩り豊かな「ひと」を育むまち	施策1 人権・平和・多文化共生 施策2 男女共同参画・女性活躍 施策3 就学前教育・学校教育 施策4 生涯学習・スポーツ・青少年健全育成 施策5 歴史・文化	就学前教育(保育園・幼稚園等)と小学校の連携による「学びの連続性」の確保	「山鹿っ子」ICT・グローバル加速化	郷土愛と誇りを育む歴史・文化の保存と活用	「スポーツ×温泉」による生涯現役・介護予防プロジェクト	事業
2 地域資源を活かし、「しごと」を生み出し、「賑わい」を創出するまち	施策6 商工業 施策7 農林畜水産業 施策8 雇用 施策9 観光	農家世帯の所得安定支援・子どもたちへの「農」の食育強化	ハードとソフトの両面で企業誘致を推進 スマート農業による「労力削減・高収益」モデルの構築	豊前街道を中心とした「歴史的まちなみ再生・創業パッケージ」の展開 山鹿ブランドを武器にした「アグリ・スタートアップ」支援	温泉と伝統で「健幸なまち」を創り、地域の絆を深める	事業
3 快適な「暮らし」を続けられるまち	施策10 道路・公共交通・住まい 施策11 上下水道・生活環境 施策12 環境保全・脱炭素・エネルギー 施策13 防災・消防 施策14 防犯交通・消費者トラブル	子育て世帯配慮型「次世代住宅ストック」の形成と周辺交通環境の整備	次世代技術を活用したスマートモビリティ社会の構築	山鹿の「歴史×DX」による移住定住ワンストップ支援と住宅地開発	地域福祉と連携した個別避難計画の充実と見守り	事業
4 支え合い健やかに過ごせる「健幸」なまち	施策15 子育て支援 施策16 医療・健康 施策17 高齢者福祉 施策18 地域福祉 施策19 障害福祉 施策20 協働・コミュニティ	妊娠・出産から子育て期まで切れ目ない支援の展開	地域課題解決型「山鹿ソーシャルビジネス」の育成と協働推進	住民融和を促進する地域コミュニティ支援事業	重症化を防ぐ「一人ひとりに合った支援・予防訪問」の展開	事業
5 工夫しながら、わかりやすく、あたたかい「サービス」を届けるまち	計画推進に向けて 施策21 情報政策(DX) 施策22 広報啓発活動 施策23 行財政運営	・デジタル技術の活用とデジタルデバйд対策 ・広報活動の推進 ・行財政改革の推進 ・財政運営の健全化				事業

アクションプランにおいては、各施策を効果的に推進するため、以下の4つの視点に関連するプロジェクトを重点的に展開していきます。

- 結婚子育て応援：出生数の減少が続く中、安心して子どもを産み育てられる環境を整えていく取組
- しごと・人材応援：安定した雇用の場を確保し、地域の活力を高めるため、事業活動がしやすい環境づくりや、新たな産業の創出につなげる取組
- 移住・定住応援：地域への新たな人の流れを生み出すため、住環境や生活環境の充実など、多様な観点から定住につながる仕組みづくりの取組
- 健幸づくり応援：市民一人ひとりが心身ともに健やかに暮らし続けられるよう、健康づくりや介護予防の推進、地域での支え合い体制の強化などを通じ、日常生活の質を向上させる取組

前期アクションプラン(行動計画)

アクションプラン編の見方

施策3 就学前教育・学校教育

主な取組の内容

- ◆ 子どもたちが夢や目標をもって成長できるよう、質の高い教育環境を整えます。
- ◆ 子どもたちが個性や可能性を伸ばせるよう、保育園(所)、幼稚園、こども園、小学校の連携を推進し、幼児期から一貫した学びを支援します。就学前教育では遊びの中から好奇心を育み、学校教育ではICT(情報通信技術)⁷を活用した教育や、郷土の歴史・文化を学ぶ授業など、遊びと学びの連続性を確保することで、未来を切り拓く力を育みます。
- ◆ 小学3年生からの外国語活動に備え、幼稚園児には英語動画の視聴を、小学1、2年生には英語の絵本等の読み聞かせを行い、英語が「好き」「分かる」につながる教育を推進します。
- ◆ 楽しみながら論理的思考を育むことで、ICT人材を育成することを目的に、小学6年生を対象に「プログラミング学習(山鹿モデル)」を継続して実施します。
- ◆ いじめや不登校、問題行動等の生徒指導上の問題解決に注力するため、サポートティーチャー⁸やスクールソーシャルワーカー⁹の配置、教育支援センターの設置等により、子どもが安心して学べる環境の充実を図ります。
- ◆ 基礎体力向上のために、学校体育や日常体育の充実を図り、運動習慣の定着に取り組みます。
- ◆ 子どもの健やかな心身の育成や、食を通じて地域や文化、自然の恵み、勤労の大切さを学ぶため、安全・安心な学校給食の提供と食育の推進を図ります。

実施する主な取組

前期4年間に、この施策で取り組んでいく具体的な取組です。

⁷ パソコンやスマホなどで情報をやり取りする技術のこと

⁸ 学習や学校生活を助ける先生や支援員のこと

⁹ 子どもの家庭や生活の困りごとを支える専門の人

4つの視点に関する施策の内容

アクションプランで重視する4つの視点に関する具体的な施策の内容です。関連する視点のマークを付しています。また、特に重点的に取り組むプロジェクトには「重点」マーク^{重点}を付しています。

- 視点1** 結婚・子育て応援
安心して子どもを産み育てられる環境整備
- 視点2** しごと・人材応援
安定した雇用の場の確保と地域の活力向上
- 視点3** 移住・定住応援
新たな人の流れを生み、定住につなげる仕組みづくり
- 視点4** 健幸づくり応援
心身ともに健やかに暮らし続けられる生活の質の向上

4つの視点に関連するプロジェクト

① 就学前教育(保育園・幼稚園等)と小学校の連携による「学びの連続性」の確保 **視点1** **重点**

サポートティーチャー、スクールソーシャルワーカーの配置、教育支援センターによる相談体制の充実を行います。

② 「山鹿っ子」ICT・グローバル加速化 **視点2** **重点**

「プログラミング学習(山鹿モデル)」を通じてICT人材の育成を行います。小学3年生からの外国語活動を見据えた、幼児期・低学年からの英語教育を推進します。

③ 食育と運動による健やかな体づくり **視点4**

学校給食を通じた「食育」の推進と、地産地消による地場産物の活用を推進します。また、学校体育・日常体育の充実による運動習慣の定着を図ります。

重要業績評価指標(KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
山鹿で育つ「夢・地元愛」実感率	50.0%	70.0%

<設定根拠>

子どもたちが山鹿での学びを通じて「自分の将来に夢を持てること」と、生まれ育った「山鹿の街を大切に思う気持ち」の2つを、教育の重要な項目に設定しました。これらを「実感」している市民の割合を数値化することで、教育の成果を可視化します。

重要業績評価指標(KPI)

各コンセプトの数値目標を達成するための目標です。施策の進捗や、その成果を測る目安として計画周期(2029年度)における目標値を設定しています。



まちづくりの コンセプト1

彩り豊かな「ひと」を育むまち

- 施策1 人権・平和・多文化共生
- 施策2 男女共同参画・女性活躍
- 施策3 就学前教育・学校教育
- 施策4 生涯学習・スポーツ・青少年健全育成
- 施策5 歴史・文化



取組の方向性と施策の方針

市民一人ひとりが自分らしく輝き、互いに尊重し合いながら共生できる環境づくりを進めます。

数値目標

項目	2024年度	2029年度(目標値)
山鹿市に愛着・誇りを感じている市民の割合	60.0%	68.0%

<設定根拠>

山鹿市への愛着や誇りは、「ずっと住みたい」という気持ちの根底にあるものです。人権・教育・文化・スポーツなど、市民一人ひとりの成長と「山鹿が好き」という気持ちに関わる施策の成果を、市民目線で総合的に測る指標として設定しました。

【関連する個別計画】

山鹿市過疎地域持続的発展計画、第3次山鹿市男女共同参画計画、第3次山鹿市人権教育・啓発基本計画、第4次山鹿市教育大綱、第5次山鹿市教育振興基本計画、学校施設長寿命化計画、山鹿市スポーツ推進計画、第4次山鹿市読書活動推進計画、重要文化財八千代座保存活用計画、山鹿市文化芸術推進基本計画

施策1

人権・平和・多文化共生

主な取組の内容

- ◆ 部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に向けて誰もがお互いを認め合い、安心して暮らせるまちづくりを推進します。
- ◆ 人権や平和に関する学びを通して、お互いを思いやる心を育み、差別や偏見のない温かい地域社会をつくりまします。
- ◆ 様々な人権問題の解決に向け、市民一人ひとりの人格と尊厳が尊重されるよう人権施策の推進に取り組まします。
- ◆ 地域や職場等に根差した人権教育・啓発活動を展開するため、人権問題に関わる指導者や市民団体の主体的な活動への支援を行います。
- ◆ 人権に関わる相談から法的措置が必要な人権救済、保護に係る仕組みの充実及び関係機関との連携強化を図ります。
- ◆ ヤングケアラー²等の早期発見に努めるとともに、子どもからのSOSを的確に受け止め、関係機関等の適切な支援につなぐ体制整備や、安心して過ごせる居場所づくりを強化します。
- ◆ 教育現場では、戦争の惨禍や悲惨さを伝えることにより、生命の大切さや平和の尊さを学ぶ機会を提供します。
- ◆ 一人ひとりの人権を尊重し、違いを認め合う多文化共生³の考え方を広めます。

4つの視点に関連するプロジェクト

①人権・平和教育の推進と、ヤングケアラー等への支援・居場所づくり

視点1

子ども自身の権利学習に加え、市民全体が子どもの権利を理解し、地域全体で子どもを見守る土壌づくりを推進します。

②多文化・多世代共生コミュニティ形成支援

視点3

外国人住民や移住者を含むすべての住民が、地域の歴史・文化や行事に気兼ねなく参加し、相互理解を深めるための共生意識を高める機会を創出します。

③心の健康を守る包括的な支援体制の構築

視点4

包括的な支援体制の一つとしてハラスメント⁴やネット上の誹謗中傷などに対して、あらゆる相談窓口を充実させ、心の健康を守ります。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
「互いに尊重し合う意識」の浸透度	65.0%	80.0%

<設定根拠>
性別、年齢、出身地などに関わらず、誰もが「自分らしく、この街で大切にされている」と感じる度合いを示すものです。市民の皆様の「暮らしの居心地の良さ」を測る、山鹿市の幸せのパロメーターとして設定しました。

² 家族の世話や介護をしている子どものこと

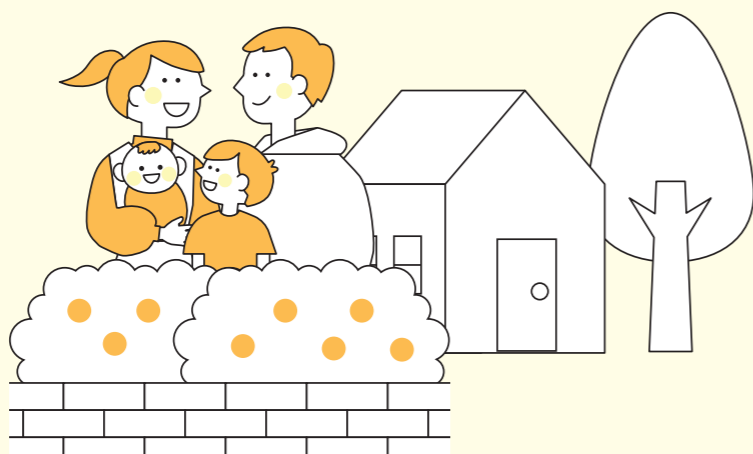
³ 国や文化の違いを認め合いながら一緒に暮らすこと

⁴ 人を嫌な気持ちにさせたり傷つけたりする言動のこと

施策2 男女共同参画・女性活躍

主な取組の内容

- ◆ 職場、学校、地域、家庭などのあらゆる場面で誰もが個性と能力を発揮し、自分らしく活躍できる社会を目指します。
- ◆ 性別にとらわれずに、一人ひとりが生きがいを持って輝けるまちの実現のため、固定的性別役割分担意識⁵の解消や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）⁶の解消を図り、仕事と家庭の両立を支援します。
- ◆ 地域や職場などで男女がともに参画できるようスキルアップや意識向上のための講座等を開催し人材育成を図るとともに、市の政策や方針決定の場において女性の登用を積極的に行います。
- ◆ 困難な問題を抱える女性への支援を図るため相談窓口を設置するとともに、関係機関と連携し相談者への支援を行います。



⁵ 男女の役割を決めつけて考えること

⁶ 気づかないうちに持っている思い込みや偏見のこと

4つの視点に関連するプロジェクト

①家庭・職場・地域における男女共同参画の定着支援

視点1

企業向けの「よかボス宣言」の推進や、固定的性別役割分担意識の解消、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消に向けた啓発を通じ、家庭・職場・地域での各活動において、「話し合い、共に行う」文化への醸成を行います。

②女性起業家・女性リーダー育成

視点2

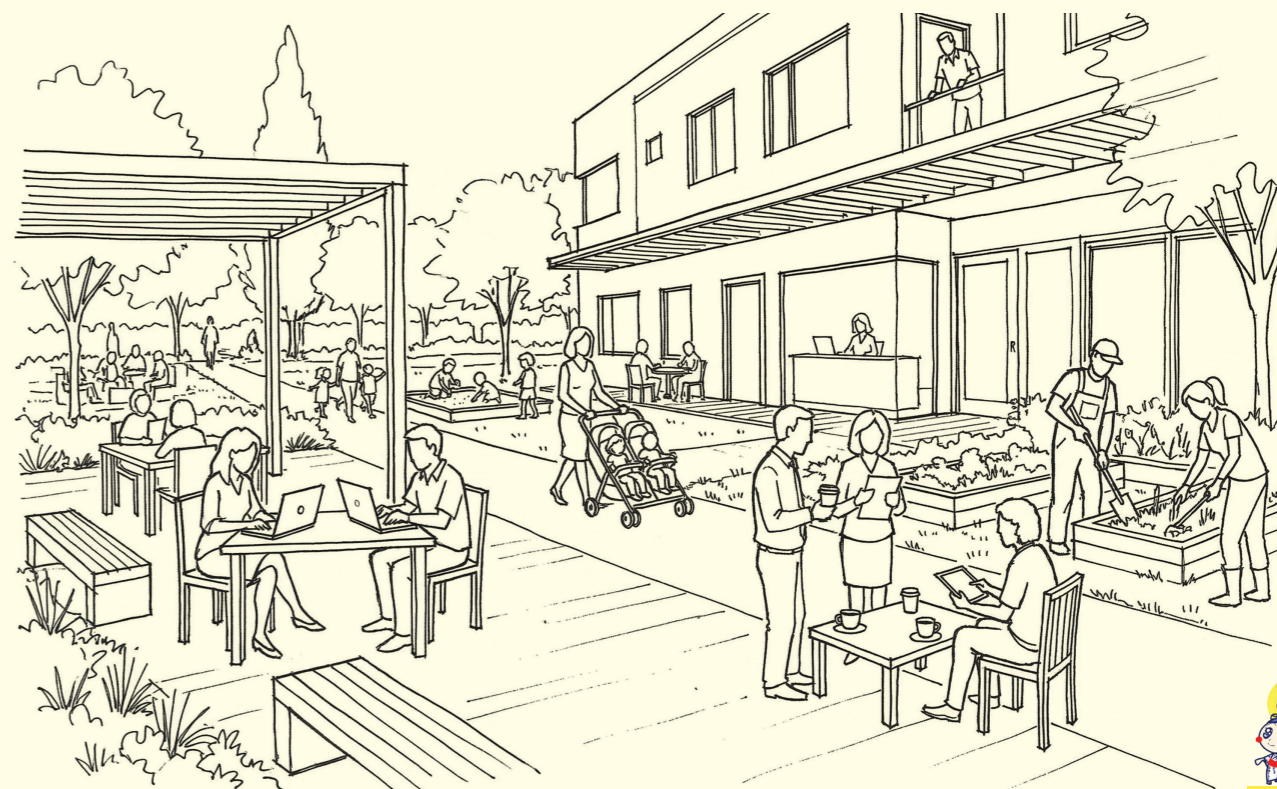
地域資源（温泉・農業・文化）を活用したビジネスモデルの構築支援を行うとともに、女性のデジタルスキル向上や再就職支援を通じた、安定した雇用と新産業を創出します。

重要業績評価指標（KPI）

項目	2024年度	2029年度（目標値）
自分らしく輝けるまち指数	40.0%	65.0%

<設定根拠>

「性別や年齢に関わらず、一人ひとりが主役になれる街」を目指す決意を込めた名称です。市民の皆様が日々の生活の中で「自分の能力や個性を活かしている」という充実感を持ち、その喜びを次世代へつなげていきたいと思える状態を、街づくりの最重要バロメーターとするために設定しました。



施策3 就学前教育・学校教育

主な取組の内容

- ◆ 子どもたちが夢や目標をもって成長できるよう、質の高い教育環境を整えます。
- ◆ 子どもたちが個性や可能性を伸ばせるよう、保育園(所)、幼稚園、こども園、小学校の連携を推進し、幼児期から一貫した学びを支援します。就学前教育では遊びの中から好奇心を育み、学校教育ではICT(情報通信技術)⁷を活用した教育や、郷土の歴史・文化を学ぶ授業など、遊びと学びの連続性を確保することで、未来を切り拓く力を育みます。
- ◆ 小学3年生からの外国語活動に備え、幼稚園児には英語動画の視聴を、小学1、2年生には英語の絵本等の読み聞かせを行い、英語が「好き」「分かる」につながる教育を推進します。
- ◆ 楽しみながら論理的思考を育むことで、ICT人材を育成することを目的に、小学6年生を対象に「プログラミング学習(山鹿モデル)」を継続して実施します。
- ◆ いじめや不登校、問題行動等の生徒指導上の問題解決に注力するため、サポートティーチャー⁸やスクールソーシャルワーカー⁹の配置、教育支援センターの設置等により、子どもが安心して学べる環境の充実を図ります。
- ◆ 基礎体力向上のために、学校体育や日常体育の充実を図り、運動習慣の定着に取り組みます。
- ◆ 子どもの健やかな心身の育成や、食を通じて地域や文化、自然の恵み、勤労の大切さを学ぶため、安全・安心な学校給食の提供と食育の推進を図ります。
- ◆ 地域全体で子どもたちの成長を支え、未来を担う人材を育てていきます。
- ◆ 学校の防犯機能強化、避難訓練の実施等による子どもの安全確保を推進します。



⁷ パソコンやスマホなどで情報をやり取りする技術のこと

⁸ 学習や学校生活を助ける先生や支援員のこと

⁹ 子どもの家庭や生活の困りごとを支える専門の人

4つの視点に関連するプロジェクト

① 就学前教育(保育園・幼稚園等)と小学校の連携による「学びの連続性」の確保 視点1 重点

サポートティーチャー、スクールソーシャルワーカーの配置、教育支援センターによる相談体制の充実を行います。

② 「山鹿っ子」ICT・グローバル加速化 視点2 重点

「プログラミング学習(山鹿モデル)」を通じてICT人材の育成を行います。小学3年生からの外国語活動を見据えた、幼児期・低学年からの英語教育を推進します。

③ 食育と運動による健やかな体づくり 視点4

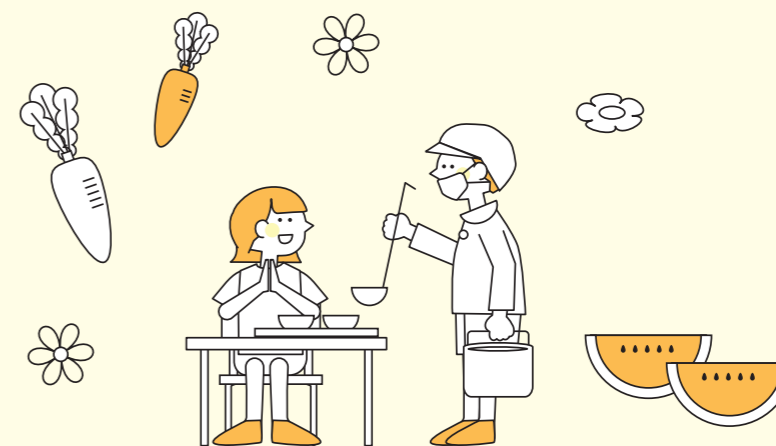
学校給食を通じた「食育」の推進と、地産地消による地場産物の活用を推進します。また、学校体育・日常体育の充実による運動習慣の定着を図ります。

重要業績評価指標(KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
山鹿で育つ「夢・地元愛」実感率	50.0%	70.0%

<設定根拠>

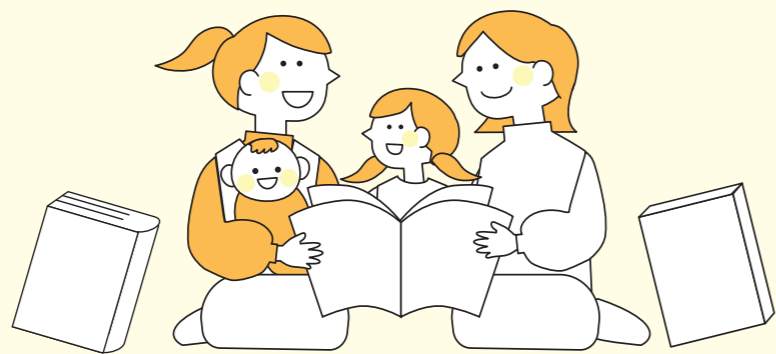
子どもたちが山鹿での学びを通じて「自分の将来に夢を持てること」と、生まれ育った「山鹿の街を大切に思う気持ち」の2つを、教育の重要な項目に設定しました。これらを「実感」している市民の割合を数値化することで、教育の成果を可視化します。



施策4 生涯学習・スポーツ・青少年健全育成

主な取組の内容

- ◆ 市民一人ひとりが、心身ともに健康で豊かな生活を送り、若者が健全に育つよう支援を行います。
- ◆ 年齢を問わず誰もが学びたいことを学べる生涯学習の機会を充実させるとともに、スポーツ活動を通じて健康増進を図ります。
- ◆ 読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、楽しみながら読書活動が行える環境の整備を図ります。
- ◆ 市民のニーズに応じた各地区公民館での講座や生涯学習講座等を開設するとともに、受講生が運営する自主講座の支援を行います。
- ◆ 山鹿市スポーツ推進計画の基本方針「する」スポーツ、「観る」スポーツ、「支える」スポーツ、「つながる」スポーツに基づく施策を展開するため、スポーツ活動を支える「場」としてのスポーツ施設の充実を図り、地域生涯スポーツ活動の拠点づくりを推進するとともに、スポーツを通じた地域コミュニティの形成や活性化を図ります。
- ◆ 地域の中で、未来を担う青少年の健全な成長を支援することで、社会を支える力を育みます。
- ◆ 市民会議を中心とした通学路、商業施設、遊興施設などへの巡回活動や声かけ運動を展開するとともに、地域や関係機関と連携を図りながら、青少年が健やかに成長していくための環境づくりと家庭や地域の教育力向上を推進します。



4つの視点に関連するプロジェクト

①親子で楽しむ読書・スポーツプログラムの展開

視点1

乳幼児期からの読み聞かせボランティアの育成や、親子で参加できる「はじめてのスポーツ教室」を公共施設を拠点として重点開催します。

②「スポーツ×温泉」による生涯現役・介護予防プロジェクト

視点4 重点

スポーツ施設と温泉施設が連携した取組や、多世代交流型のスポーツ大会を開催し、地域資源を生かした健康づくり体制を強化します。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
「心・技・体」いきいき指数	50.0%	70.0%

<設定根拠>

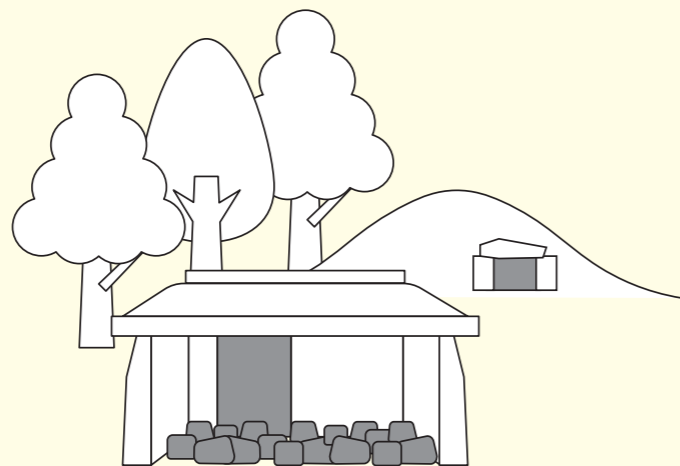
「心(学びや交流の喜び)」「技(文化や技術の継承)」「体(スポーツによる健康)」を実感できているかを測るバロメーターです。単なる参加人数ではなく、皆様がどれだけ「いきいき」と暮らしているか、その「実感」を数値化して、まちの活力を高めるために設定しました。



施策5 歴史・文化

主な取組の内容

- ◆ 古くから伝わる豊かな歴史や文化を大切に、八千代座をはじめとした地域固有の文化財を保存・活用します。
- ◆ 市民が地域の歴史や文化に触れる機会を増やし、誇りや愛着を育むことにより、本市ならではの魅力を守り、まちの個性を高めていきます。
- ◆ 市民の誰もが気軽に文化芸術活動に参加できるよう、活動団体などとの連携・協力を図り、文化芸術活動の継続した進展に努めます。
- ◆ 市民が文化芸術活動の発表を行うための場所の提供や、八千代座や市民交流センター等の施設を活用した文化芸術に触れる機会の創出など、誰もが文化芸術に参画できる環境整備を推進します。
- ◆ 本市に関する文化財に関する調査研究や情報収集を継続するとともに、歴史講座などを開催します。また、近隣自治体と連携して日本遺産をはじめとした文化財の保存活用を目的とした普及啓発に取り組みます。
- ◆ 広報紙やホームページ、SNS¹⁰などを活用したPRによる自発的な文化活動への参加支援を行います。



¹⁰ インターネットで人と交流したり情報を発信するサービス

4つの視点に関連するプロジェクト

①郷土愛と誇りを育む歴史・文化の保存と活用

視点3 重点

「山鹿郷土かるた」や現地見学等の体験学習を通じて、子どもたちが地域の魅力を深く学ぶ機会を充実させます。あわせて、市民や移住者が地域の歴史・文化に触れる機会を創出し、地域への愛着(シビックプライド)を醸成します。

②ふるさと山鹿の宝「文化財」の保存継承と活用による魅力創造

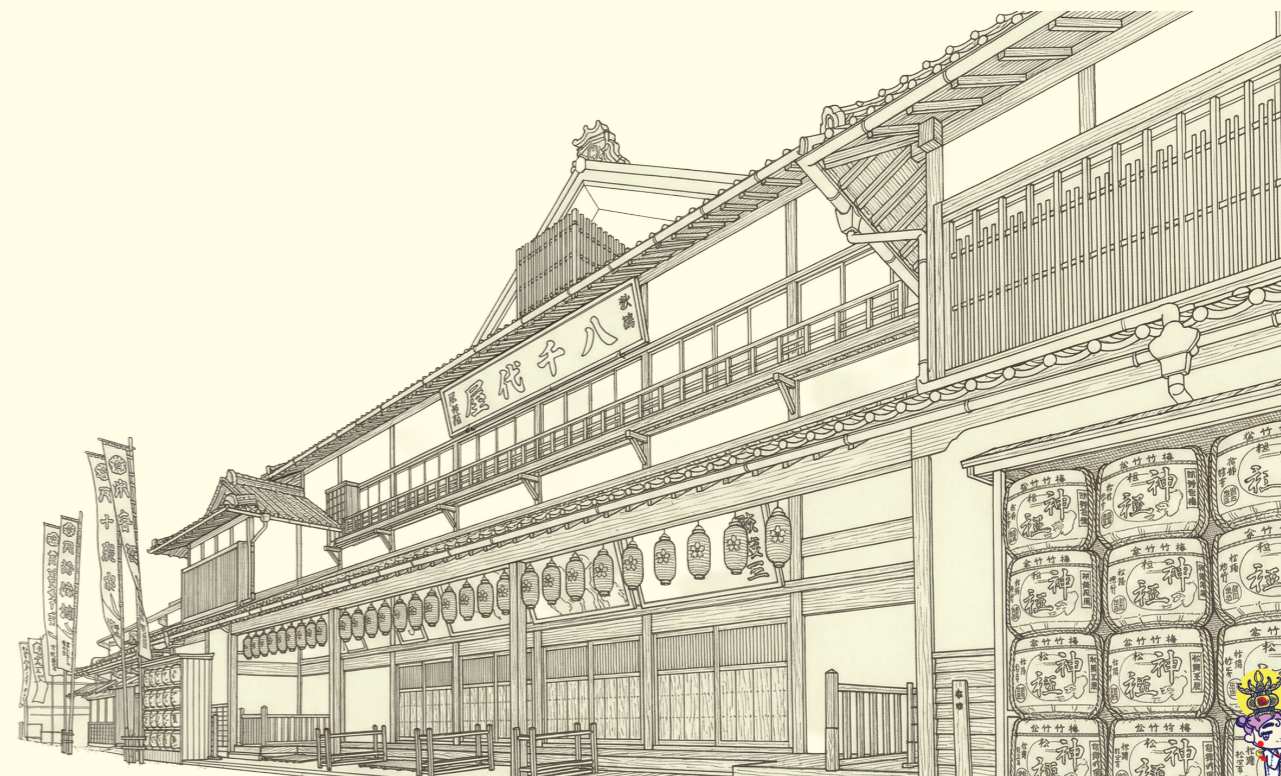
視点4

文化財の適切な保存・管理を徹底し、地域の宝として次世代へ確実に継承します。また、歴史遺産を活用した学習機会の創出に加え、ボランティア活動や観光交流等の多様な取り組みを積極的に支援し、市民の生きがい創出と地域の魅力向上につなげます。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
未来への誇り指数	45.0%	70.0%

<設定根拠>
「山鹿にしかない歴史や文化を大切に守り残すことに加え、自分たちの誇りとして未来へつなぎ、日々の暮らしの活力に変えていく」という、前向きな姿勢を市民の皆様と共有を行うため設定しました。





まちづくりの コンセプト2

地域資源を活かし、「しごと」を
生み出し「賑わい」を創出するまち

- 施策6 商工業
- 施策7 農林畜水産業
- 施策8 雇用
- 施策9 観光



取組の方向性と施策の方針

豊かな地域資源を最大限に活かし、新たな「しごと」と活気に満ちた「賑わい」を創出することで、持続可能な地域社会の実現を目指します。また、商工業、農林畜水産業、観光業の各分野が連携することで雇用を生み出し、相互に好循環を生み出す施策を強力に推進していきます。

数値目標

項目	2024年度	2029年度(目標値)
納税義務者数(個人市民税)	23,504人	24,000人

<設定根拠>

商工業・農林畜水産業・雇用・観光の各分野が連携し、「しごと」と「賑わい」を生み出す施策の成果は、市内で働き、暮らす人の数と所得の底上げに表れます。山鹿市の経済的な活力を客観的に測る指標として設定しました。

【関連する個別計画】

山鹿市過疎地域持続的発展計画、山鹿農業振興地域整備計画、山鹿市森林整備計画、山鹿市歴史的風致維持向上計画、重要文化財八千代座保存活用計画、山鹿市文化芸術推進基本計画

施策6 商工業

主な取組の内容

- ◆ 既存商工業の継続的発展と、事業者の創業・開業や新たな工業団地への企業集積の両輪で「しごと」と「賑わい」を生み出し、「ずっと住みたい持続可能なまち」の実現を目指します。
- ◆ 山鹿灯籠など本市を代表する伝統工芸の後継者育成や需要開拓等の事業を支援して地域の特色ある和紙工芸産業の維持・発展を図ります。
- ◆ 商工業を活性化し、地域経済の基盤強化を図るため、市内の商店街や中小企業が抱える課題の解決をサポートします。
- ◆ 市内外における商工業者の連携強化や、魅力的な商品・サービスの創出を支援することで、新たなビジネスチャンスを生み出し、雇用の安定化と活気あるまちづくりを推進します。
- ◆ 地域経済の活性化及び人口減少対策として、市内商工団体の支援を受けて新たに創業又は開業する方への支援を行います。
- ◆ 特に本市の主要な観光資源のひとつである豊前街道において、街道沿いの空き家、空き店舗対策として、改修費用等を補助することで新たな店舗の開業を支援し、賑わいのある歴史的まちなみの再生を図ります。
- ◆ 経営者の高齢化による廃業に歯止めをかけるため、国の事業承継・引継ぎ補助金の対象とならない事業者の事業承継の支援を行います。
- ◆ 令和11年度の方譲開始を目指して新たな工業団地の整備を進め、積極的な企業誘致に取り組みます。
- ◆ 各種奨励金や減免措置、企業ガイダンス等の開催により、企業の新たな投資や人材確保を支援します。
- ◆ 長期的な視点による中心市街地の将来像を、行政・市民・企業などの関係者において共有し、統一されたビジョンに基づき持続可能で魅力的なまちづくりを推進します。

4つの視点に関連するプロジェクト

①山鹿を代表する伝統工芸の継承と販路開拓等を支援

視点2

山鹿灯籠等の地域資源を継承し伝統を維持するため、後継者の育成や需要の開拓を支援し、山鹿の特色ある伝統工芸の維持・発展を図ります。

②ハードとソフトの両面で企業誘致を推進

視点2

重点

新工業団地整備(ハード)と積極的な誘致活動や優遇措置制度(ソフト)の両施策により、総合的に企業誘致を強力に推進します。

③企業の継続的発展を促進する人材確保を支援

視点2

小中高校生を対象とした企業見学会や企業ガイダンスを開催し、企業の発展に欠かせない人材確保の支援を行います。

④豊前街道を中心とした「歴史的まちなみ再生・創業パッケージ」の展開

視点3

重点

空き家・空き店舗の改修費用等への補助と、商工団体による経営指導をセットにした移住者向け創業支援制度の強化を行います。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
わくわく未来実感度(仕事・暮らし満足度)	50.0%	70.0%

<設定根拠>
市内の「働く場」の充実が、市民一人ひとりの「将来への希望」や「山鹿で暮らし続けたいという気持ち」にどれだけつながっているかを測るものです。経済の活性化を数字だけで捉えるのではなく、市民が日々の暮らしの中で「山鹿の未来が楽しみだ」と感じる心の充足度を、商工業施策の最終的な成果として位置づけました。

施策7 農林畜水産業

主な取組の内容

- ◆ 全国トップクラスのスイカの産地など、持続可能な農畜産業で地域の暮らしと経済を支えるため、安心でおいしい高品質の農畜産物の認知度とブランド力を高め、販路拡大による所得向上を目指します。
- ◆ 若い世代が農業に挑戦しやすく生産性の高い環境を整えるため、スマート農業などの新しい技術を導入する支援に取り組みます。
- ◆ 高齢農業者や小規模農家が安心して農業に取り組める環境づくりのため、地域資源を活用した6次産業化¹¹を目指す活動に対する支援、農作業を補完する受託組織の育成を推進します。
- ◆ 西日本一の生産量を誇るやまが和栗で「日本一、和栗で稼ぐことができる山鹿」を目指すため、生産者と加工業者・観光業者が一体となった取り組みを推進します。
- ◆ 認定農業者¹²や集落営農組織¹³などの効率的かつ安定的な農業経営を目指す担い手の育成と確保のため、初期投資や新たな生産活動への支援を行います。
- ◆ 効率的かつ多様で生産性の高い農業経営により所得の安定を図るため、農地の利用集積・集約を推進し、地域の特性に応じた農業生産基盤の保全管理と整備、施設の長寿命化対策、防災対策を推進します。
- ◆ 地域農業を守り次世代に農地を引き継いでいくため、地域計画・目標地図の見直しを地域ごとに進め、計画の実現に向け、中間管理事業等を活用した農地の貸借の支援を行います。
- ◆ 森林環境譲与税などを活用した計画的な森林整備や地元産材の利用拡大により、「持続可能な森林整備」の推進を図るとともに、林業に就業する人材の確保や森林組合など林業事業者との協力体制を構築します。
- ◆ 特産林産物(筍・椎茸)の山鹿ブランドとしての特産品開発や販売促進のため、関係団体と連携し、生産の振興を図ります。また、荒廃した竹林の再生と筍の生産量の回復を図るとともに、資材高騰などにより規模縮小を考える生産者へ、経営安定のための支援を行います。
- ◆ イノシシ等による農林産物被害を軽減するため、有害鳥獣の捕獲を推進するとともに、侵入防止柵や電気柵の整備、えづけstopなど地域の取り組みを支援し、獣害の抑制を図っていきます。
- ◆ 市内の養殖事業者や漁業協同組合等と連携し、川魚料理などの食文化を観光資源として活用します。

4つの視点に関連するプロジェクト

①農家世帯の所得安定支援・子どもたちへの「農」の食育強化

視点1 重点

農家世帯に対する経営安定への支援強化と経済基盤の構築を図ります。子どもたちが「農」の理解を深めるため、地元産の農産物を使った子どもたちへの食育イベント等を積極的に支援します。

②スマート農業による「労力削減・高収益」モデルの構築

視点2 重点

農業の生産現場において、自動走行トラクターやドローンなどを活用したスマート農業の導入支援を行い、労力削減と人件費削減による高収益化を図ります。

③山鹿ブランドを武器にした「アグリ・スタートアップ」支援

視点3 重点

「西日本一のやまが和栗」や「全国トップクラスのスイカ」等を中心に、新規就農者向けの就農研修や就農支援を行います。担い手協議会等において新規就農者が円滑に農地を借り受けられるようマッチング等を推進していきます。

また、「やまが和栗」を核とした農産物の生産・加工・観光が連携する6次産業化を推進し、多様な職種(製造、販売、企画)の創出を目指します。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
山鹿の農業に誇りを感じ、関わりたいと思う市民の割合	45.0%	60.0%

<設定根拠>

山鹿市の宝である「農業」を、市民の皆様がどれだけ自分たちの誇りとして感じ、次世代へつなぐ価値があると考えているかを測るものです。単なる収穫量や売上といった数字だけでなく、市民の皆様の「山鹿の農業を応援したい」「関わりたい」という前向きな意識を可視化することで、活気ある地域づくりを官民一体となって進めることを意図しています。

¹¹ 農業に加工や販売を組み合わせることで価値を高める取組

¹² 市町村に認められた意欲ある農業を行う人

¹³ 地域の農家が協力して農業を行うグループ

施策8 雇用

主な取組の内容

- ◆ 市民が安心して働き続けられる環境を整え、雇用の安定と創出を目指します。
- ◆ 農林畜水産業、商工業、観光業に関する施策や、企業誘致を推進することで、多様な雇用機会、働く場所を創出します。
- ◆ 新規就農者への支援や担い手の育成、6次産業化の推進等により、農林畜水産業分野における多様な雇用の場を創出します。
- ◆ 企業誘致の推進による働く場の確保に加え、市内中小企業の経営基盤強化や創業支援を行うことで、安定した雇用環境を創出します。
- ◆ TSMC¹⁴進出による近隣地域への企業集積等に伴い、市外への人材流出が課題となっているため、市内企業の魅力を若年層へ伝えるための就業支援を、継続的に実施します。
- ◆ 地域資源を活かした観光振興やイベントの開催、宿泊・飲食業等への支援を通じて、観光関連産業における雇用機会を拡大します。



¹⁴ 台湾に本社を置く世界最大級の半導体受託製造企業

4つの視点に関連するプロジェクト

①雇用の創出と若年層のキャリア形成支援

視点2

企業誘致活動による雇用創出と併せて、小中高校生を対象とした企業見学会や企業ガイダンスを開催し、企業の魅力を周知することで、若年層の就業観醸成と市内企業への雇用を促進します。

②山鹿キャリア¹⁵デザイン・コネクト事業

視点3

移住検討者向けに「創業支援」と「住まい」をセットで提供するパッケージ型支援を実施します。

③アグリ・ウェルネス就労創出

視点4

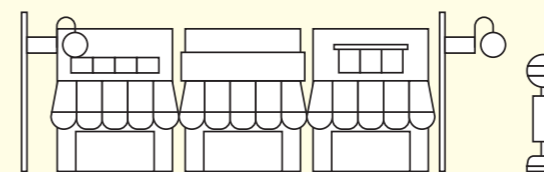
定年退職者や高齢者が、その経験を活かして農業や観光ガイド等で短時間から働ける「地域貢献型ワーク」のプラットフォーム¹⁶の検討を行います。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
「地元で働く」満足度・定着希望率	45.0%	60.0%

<設定根拠>

単に「市内で働いている人の数」を数えるものではありません。山鹿市内の企業で働く市民の皆様が、今の仕事に「やりがい」を感じ、これからも「山鹿で働き続けたい」と前向きに考えている割合を示すものです。「消去法で地元に残る」のではなく、「魅力があるから地元で働く」という市民を増やすことで、街の活力を高めていく決意を込めています。



¹⁵ 仕事の経験やこれまでの働き方の積み重ね

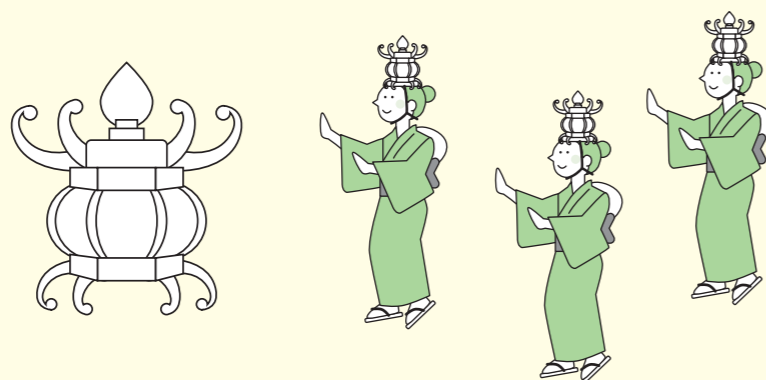
¹⁶ サービスや活動の土台となる仕組みや場



施策9 観光

主な取組の内容

- ◆ 豊かな自然や歴史、文化などを生かし、訪れる人々を魅了する観光地を目指します。
- ◆ 山鹿灯籠まつりや温泉、八千代座といった市の宝を、もっと多くの人に知ってもらうためのPRを強化します。
- ◆ 国指定の伝統的工芸品である山鹿灯籠をはじめとする工芸品や豊かな自然や温泉と豊富な農産物や特産品、さらには歴史、文化などを繋なぎ合わせた体験型観光の造成を目指します。
- ◆ 温泉地としての市のイメージを高めるとともに滞在型温泉利用による観光需要を高める施策により温泉保養都市やまがの実現を目指します。
- ◆ 関係団体や近隣自治体との連携を強化し、誘客宣伝活動や観光資源の磨き上げに取り組みます。
- ◆ 山鹿の魅力の情報発信や体験の充実により、継続的に地域と関わり続ける山鹿ファンの獲得に取り組みます。
- ◆ スポーツ・文化のコンベンション¹⁷誘致による団体宿泊客の獲得を目指します。
- ◆ 国内では福岡都市圏、海外では台湾をメインターゲットとした誘客に取り組みます。
- ◆ 公共施設の計画的な更新や観光事業者の施設整備に対する助成、2次・3次交通アクセスを充実させることで観光客の受入強化を推進します。



¹⁷ 会議や展示会など大きなイベントのこと

4つの視点に関連するプロジェクト

①山鹿の「宝」を磨き、若者が夢を実現できるまちを創る

視点2

山鹿の宝「歴史、文化、自然、産業」を活用し、観光業を活性化することで、若者が「ここで働きたい」と思える魅力的なまちを創ります。

②体験と交流で魅力を伝え、山鹿ファンを未来の住民へ

視点3

体験と交流を通じて市の魅力を伝え、「また訪れたいまち」から「住みたいまち」への導線を整えます。

③温泉と伝統で「健幸なまち」を創り、地域の絆を深める

視点4

重点

山鹿の誇りである「温泉」と「伝統行事」を、市民と訪れる人が共に楽しみ、健やかに暮らせる「幸福感あふれるまち」の基盤として磨き上げます。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
「住んでよし、訪れてよし」満足度	55.0%	70.0%

<設定根拠>
観光客が訪れることで「街が活気づき、自分たちの暮らしも豊かになった」と実感している市民の割合を示すものです。観光を「単なる集客」ではなく「市民の幸せ(健幸)や住みやすさ」につなげるという市の決意を込めています。





まちづくりの コンセプト3

快適な「暮らし」を続けられるまち

- 施策10 道路・公共交通・住まい
- 施策11 上下水道・生活環境
- 施策12 環境保全・脱炭素・エネルギー
- 施策13 防災・消防
- 施策14 防犯交通・消費者トラブル



取組の方向性と施策の方針

安全で便利な生活インフラ¹⁸や交通網を整えるとともに、市外からの移住定住や関係人口の創出を推進し、誰もが快適に暮らし続けられるまちづくりを進めます。

数値目標

項目	2024年度	2029年度(目標値)
山鹿市は暮らしやすいまちだと思う市民の割合	45.8%	55.0%

<設定根拠>

道路・交通・水道・防災・防犯など、日々の暮らしを支えるさまざまな施策の成果が、市民の「暮らしやすい」という実感に表れます。生活全体の満足度を市民目線でわかりやすく測る指標として設定しました。

【関連する個別計画】

山鹿市過疎地域持続的発展計画、山鹿市デジタル化基本方針、山鹿市地域防災計画、第4次山鹿市交通安全計画、山鹿市公共施設等総合管理計画、山鹿市地域公共交通計画、第3次山鹿市環境基本計画、第3次山鹿市一般廃棄物処理基本計画、第11期山鹿市分別収集計画、山鹿市地球温暖化対策実行計画、山鹿市森林整備計画、山鹿市国土強靱化計画、橋梁長寿命化計画、舗装個別施設計画、山鹿市都市計画マスタープラン、山鹿市住宅マスタープラン、山鹿市建築物耐震改修促進計画、市営住宅長寿命化計画、公園施設長寿命化計画、山鹿市空家等対策計画、山鹿市景観計画、山鹿市下水道事業経営戦略、山鹿市水道ビジョン、山鹿市消防本部定員管理指標

¹⁸ 道路や水道など生活に必要な設備

施策10

道路・公共交通・住まい

主な取組の内容

- ◆ 市民が安全かつ便利に移動でき、安心して暮らせる環境を整えます。また、災害に強い道路や橋を整備し、安全な交通を確保します。
- ◆ 歴史的遺産や建造物を有する豊前街道を軸とした中心市街地において、歴史的地区内における交通環境・生活環境の改善を図り、歩行者が安心して歩ける歩車共存の道づくりを進めます。
- ◆ 高齢者をはじめ誰もが移動しやすい公共交通網を維持・強化します。地域の暮らしを支え、移動手段を確保するため、路線バスやあいのりタクシーの運行を維持し、効率的・効果的な交通ネットワークの構築を図ります。
- ◆ 地域の特性に応じた交通モード¹⁹の導入やスマートモビリティ²⁰、Ma a S²¹など次世代の移動サービスの検討を進めるなど、交通利便性の向上を目指します。
- ◆ 移住定住の促進を図るため、移住等に関する相談窓口の設置や専用ホームページによる情報発信の強化のほか、空き家バンク制度による住宅活用の支援、お試し住宅による生活体験の提供など、民間事業者と連携しながら、受入支援体制の充実を図ります。
- ◆ 定住人口の増加を目的として、市内中心部や各市民センター周辺での住宅地開発に対する補助制度を推進し、住宅用地の供給を促進します。
- ◆ 空き家対策を進め、誰もが安心して住める良好な住環境の整備を推進することで、住みやすいまちづくりを進めます。
- ◆ 市営住宅の長寿命化計画に基づいた計画的な建替・用途廃止・住戸数の適切な管理を実施しつつ、地域性を配慮した住宅配置や住宅集約といった再整備を行うことで、住宅に困窮する世帯や子育て世帯等のニーズに対応した住宅ストックを形成します。
- ◆ コンパクト+ネットワークのまちづくりを進め、少子高齢化や人口減少時代に対応していきます。

¹⁹ 電車やバスなど移動手段の種類

²⁰ ICTを使って便利に移動できる新しい交通の仕組み

²¹ いろいろな交通をまとめて使えるサービス

4つの視点に関連するプロジェクト

①子育て世帯配慮型「次世代住宅ストック」の形成と周辺交通環境の整備 視点1 重点

市営住宅の再整備において、子育て世帯に配慮した広さや設備を確保した住戸の配置を行います。あわせて、安全な歩車共存の道づくり（豊前街道周辺等）の重点実施を行います。

②次世代技術を活用したスマートモビリティ社会の構築 視点2 重点

商業拠点や工業団地などのアクセス向上を図るため、デジタル技術を活用した安全で効率的な次世代モビリティの導入に向けた検討や環境整備を行い、スマートモビリティ社会の実現を目指します。

③山鹿の「歴史×DX」による移住定住ワンストップ支援と住宅地開発 視点3 重点

豊前街道等の歴史的地区における交通・生活環境の改善を進めるとともに、地図情報システム（DX）を活用した空き家・ハザード情報²²の提供や、空き家バンク・お試し住宅の利用促進により、移住定住を加速させます。

さらに、市内中心部や市民センター周辺での民間住宅地開発を補助制度により強力にバックアップします。

④外出を促す「健康維持型」都市の構築 視点4

あいのりタクシー等を利用して、医療機関や地域の交流拠点（温泉施設等）へ容易に外出できる体制の強化を行います。また、人優先の道づくりにより、安心して歩ける空間を構築し、日常的なウォーキングを促進します。

重要業績評価指標（KPI）

項目	2024年度	2029年度（目標値）
ずっと住み心地満足度	50.0%	70.0%

<設定根拠>

道路の整備率やバスの運行本数といった行政側の数字ではなく、市民の皆様が日々の生活の中で感じる移動のしやすさ、「住まいの安心感」「街への愛着」というトータルの満足度を評価するものです。山鹿市が「住む場所として選ばれ続ける街」であるかどうかを、市民の皆様の視点で測るために設定しました。

²² 災害の危険な場所や被害の予想を示した情報

施策11

上下水道・生活環境

主な取組の内容

- ◆ 安心して快適な生活を送れるよう、上下水道施設の改築・更新を計画的に行います。
- ◆ 公営水道未普及地域における安全で安定した飲用水等の確保のため、組合等が行う「小規模水道施設整備事業」、「浄水器設置」に係る費用の一部に対して支援を行います。
- ◆ 農業集落排水施設の今後の方向性を示した最適整備構想(計画)により、公共下水道への編入及び施設の統廃合計画を着実に進めます。
- ◆ 公共下水道及び農業集落排水計画区域内の未接続世帯について、水洗化を促進することで、公共水域の水質保全を図ります。また、計画区域外については、浄化槽の設置に係る費用の一部に対して支援を行います。
- ◆ 公園施設について、立地や周辺の自然環境、人口などから将来の利用見込みを勘案しながら計画的に整備を行うとともに、効率的なストックマネジメント²³による施設更新を実施することで、地域の活性化、公園利用者の安全性や快適性の確保を図ります。
- ◆ 動物愛護の精神に基づく適正飼養とマナー啓発を徹底し、人と動物が共生できる地域社会を築きます。



²³ 施設を長く使うために計画的に管理すること

4つの視点に関連するプロジェクト

①子育てを支える住環境と公園整備

視点1

安心して安全な上下水道(上下水道区域内地域)を将来にわたり持続させるために効率的な施設の維持管理、老朽施設の更新や耐震化など子育て世代が安心して暮らせ、将来世代に負担を先送りしないための取り組みを進めています。

また、公園施設の長寿命化と遊具の安全性向上による「安全な遊び場」の確保に取り組みます。

②移住を促す水回りの整備と支援拡充

視点3

公営の上下水道が利用できない地域において、快適な生活環境を維持するため、小規模水道の改修や浄化槽の設置に対する支援を行います。

③水の安全と環境保全で健幸な暮らし支援

視点4

上下水道施設の計画的な更新及び適正な管理により、安心安全な飲用水の供給と、公共水域(河川等)の水質保全に努めます。また、清潔で快適な生活環境(公衆衛生)を維持することで、市民が自然に親しみながら健幸づくりを行える豊かな環境を守ります。

重要業績評価指標(KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
水と緑の安心・快適ライフ満足率	60.0%	80.0%

<設定根拠>
水道や下水道といった専門的で硬い言葉を避け、市民の日常生活に直結する「水(飲料・排水)」と「緑(公園・自然)」という言葉を採用しました。これらが整うことで得られる「安心(安全)」と「快適(便利)」を、市民がどれだけ実感しているかを評価の基準に据えるために設定しました。



施策12

環境保全・脱炭素・エネルギー

主な取組の内容

- ◆ 豊かな自然を未来に引き継ぐために、すぐれた自然と美しい景観、多様な動植物の生息・生育環境を守り、自然とのふれあいの場と機会を創出します。
- ◆ 健康で安全・安心の暮らしを過ごすため、安全で良質な水、きれいな空気、自然の営みが聞こえる音環境を守ります。
- ◆ 人の温もりと文化の香る快適なまちをつくるため、緑地・まちなみ景観・文化財の保全、歴史・文化の学習及び継承、菊池川水系の美化活動等を推進し取り組みます。
- ◆ 市民力をあわせて地球温暖化対策に取り組むため、温室効果ガス排出削減、省エネルギー型ライフスタイルの定着、再生可能エネルギーの普及を推進します。
- ◆ 環境にやさしいふるまいができる人を作るため、環境教育・学習を進めると共に、コミュニティ活動や環境保全活動への参画を促し、限りある資源を大切に作る人材を育成します。
- ◆ 4R（リフューズ等の推進）²⁴によるごみ減量と適正処理を推進し、循環型社会を形成します。
- ◆ 大気・水質・騒音等の監視指導や、空き地の適正管理、衛生害虫の駆除等により、清潔で安全な環境を保全します。
- ◆ 物価高騰などによる厳しい農業経営を支援するため、安価な汚泥肥料を再利用することにより、地域農業の活性化と環境保全を同時に目指します。

²⁴ ごみを減らすため断る・減らす・再使用・再資源化する取組

4つの視点に関連するプロジェクト

①次世代へつなぐ「環境教育・体験プログラム」の充実

視点1

菊池川水系での自然体験や環境センター等での施設見学による小学生や地域住民の方などが環境教育・学習をできる機会を創出します。

②安価な汚泥肥料活用による「低コスト・高付加価値農業」の確立

視点2

物価高騰などによる厳しい農業経営を支援するため、安価な汚泥肥料を活用することにより、地域農業の活性化と環境保全を同時に目指します。

③環境保全活動によるごみの減量化と資源化の推進

視点3

4Rの推進、食品ロス²⁵削減など市民へ周知・啓発を図り、ごみの分け方、出し方のルール徹底を推進します。

④豊かな自然環境の保全と、健康づくりへの活用

視点4

美しい景観と良質な空気・水環境を守る活動（菊池川美化など）を、市民のウォーキングやコミュニティ活動と連動させ、心身の健康増進を図ります。

重要業績評価指標（KPI）

項目	2024年度	2029年度（目標値）
ふるさと環境満足度（エコ・スマイル指数）	50.0%	70.0%

<設定根拠>
「豊かな自然環境を守ること」と「市民の暮らしの幸せ（満足度）」が直結していることを分かりやすく伝えるためです。環境活動が「義務」ではなく、山鹿に住む誇りや笑顔（スマイル）に繋がるというポジティブな意図を込めています。

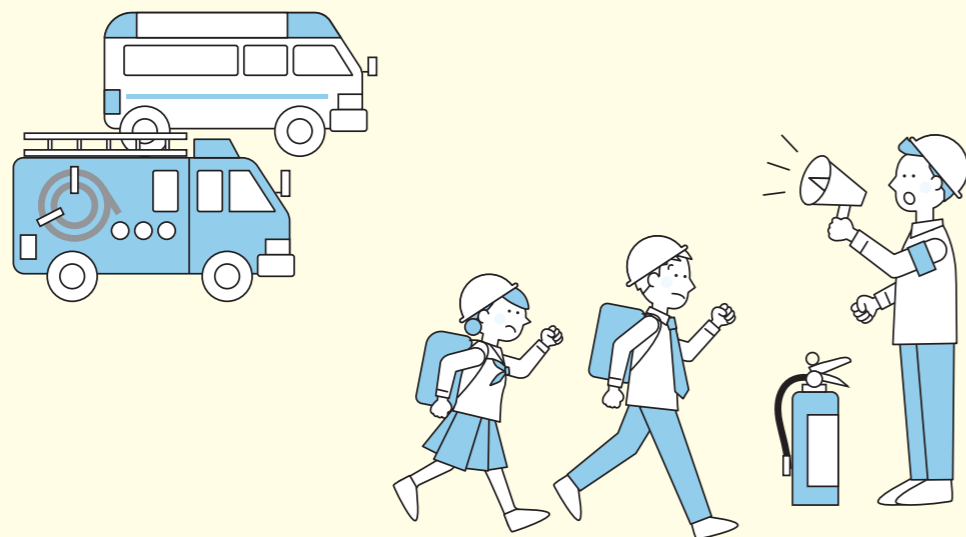
²⁵ まだ食べられるのに捨てられてしまう食べ物

施策13

防災・消防

主な取組の内容

- ◆ 地震や豪雨などの自然災害から市民の命と財産を守るため、日頃から災害に備える体制を整えます。
- ◆ 市民一人ひとりの防災意識を高めるため、防災訓練の実施や防災情報の提供を充実させます。
- ◆ 土砂災害警戒区域や浸水想定区域など危険箇所の最新の情報や避難所等を盛り込んだ防災マップ(改訂版)を活用し、市民への周知を行います。
- ◆ 消防署や消防団、地域と連携しながら、迅速な初期対応ができる体制を強化します。
- ◆ 自主防災組織のさらなる設立支援や、その活動を支援するとともに、地域における避難行動要支援者の個別避難計画作成を促進します。
- ◆ 家屋の安全性の強化や倒壊可能性のある危険なブロック塀の解体など、市民が安心して快適に生活できるよう各種支援を行います。
- ◆ 火災発生時における機動力確保と消防力強化を行うため、消防車両、小型ポンプ、耐震性貯水槽等の計画的な整備を行います。



4つの視点に関連するプロジェクト

①マイ・タイムライン²⁶作成支援と避難所環境の整備

視点1

防災意識の啓発(ハザードマップの活用指導)と、指定避難所における授乳スペース・液体ミルク備蓄などの「子育て優先スペース」の確保を推進します。

②空き家改修・家屋耐震化助成とハザード情報のワンストップ提供

視点3

移住検討者や空き家所有者等に対し、空き家の利活用とあわせて耐震診断・改修、危険ブロック塀撤去等の補助制度をパッケージ化して案内します。

また、居住予定地が浸水想定区域などに該当するかどうかについてのハザード情報を分かりやすく提供し、安全な住まいの確保を支援します。

③地域福祉と連携した個別避難計画の充実と見守り

視点4 **重点**

自治会やケアマネジャー等と連携し、避難行動要支援者の一人ひとりに合った個別避難計画となるよう、内容の充実を図ります。あわせて、地域において日常的な声掛けを行うことで、支え合い体制を強化します。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
「わが家の備え・地域の守り」実践率	45.0%	70.0%

<設定根拠>
市民一人ひとりが「自分の身を守る備え(自助)」ができているか、そして「地域で助け合える体制(共助)」に参加しているかという、防災において最も重要な2つのアクションの浸透度を分かりやすく表現しました。

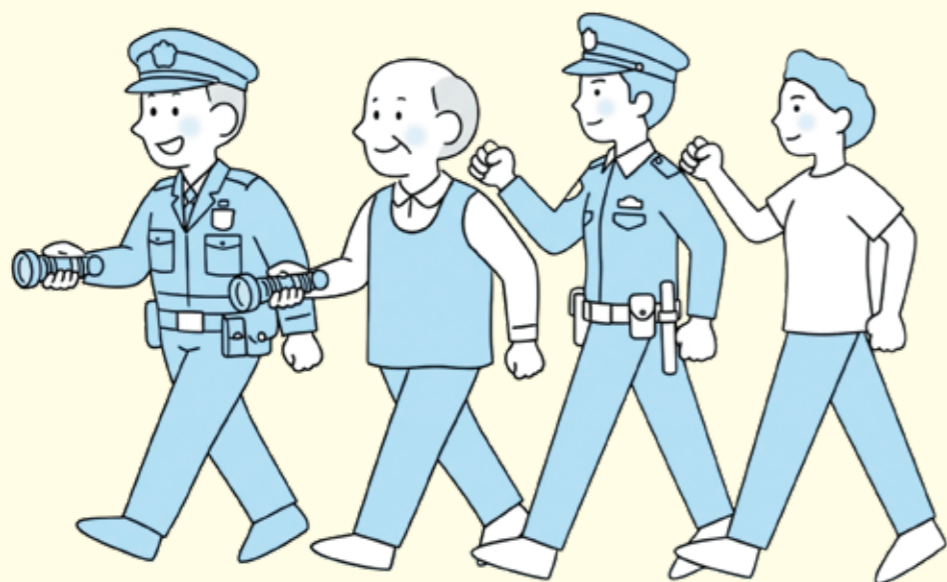
²⁶ 災害時に自分がどう動くかを決めておく計画

施策14

防犯交通・消費者トラブル

主な取組の内容

- ◆ 犯罪や事故、悪質な商法から市民を守り、誰もが安全で安心して暮らせる社会を目指します。
- ◆ 地域と警察が協力してパトロールを行うなど、防犯体制を強化します。
- ◆ 警察や交通安全関係団体などと連携して交通安全教育を実施し、交通安全意識の向上を図り、事故のないまちづくりを進めます。
- ◆ 地域の関係団体などと連携し、危険箇所の点検など、通学路の安全対策を行います。
- ◆ 消費者トラブルから市民を守るための啓発活動を行い、相談窓口の周知を徹底します。



4つの視点に関連するプロジェクト

①防犯カメラ・照明の戦略的配置の推進

視点1

暗がりや見通しの悪い場所には、最新の防犯設備やLED照明等の設置支援を行います。あわせて、道路管理者を含む通学路合同点検により危険箇所の早期発見と改善につなげます。

②シニア世代向け「特殊詐欺撃退×健康ウォーキング」パトロールの推進

視点4

健康づくりを兼ねた地域パトロールを実施します。また、消費者トラブル相談窓口の周知と、地域の支え合い体制の強化を同時に行います。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
暮らしの安全安心実感指数	50.0%	80.0%

<設定根拠>

「事件や事故に遭わない環境づくり」と、「困ったときにすぐに相談・助け合いができる体制づくり」の両輪がどの程度整っているかを数値化したものです。山鹿市が、ただ物理的に安全だけでなく、市民一人ひとりが「守られている」と心から実感できる、温もりのあるセーフティネットを目指す意志を込めています。





まちづくりの コンセプト4

支え合い健やかに過ごせる「健幸」なまち

- 施策15 子育て支援
- 施策16 医療・健康
- 施策17 高齢者福祉
- 施策18 地域福祉
- 施策19 障害福祉
- 施策20 協働・コミュニティ



取組の方向性と施策の方針

市民一人ひとりが心身ともに健康で、幸福を感じながら暮らせるよう、地域全体で支え合いができるまちづくりを進めます。

数値目標

項目	2024年度	2029年度(目標値)
人口の自然減の抑制	▲621人	▲600人

<設定根拠>

子育て支援・医療・高齢者福祉・地域福祉など、市民が健康で幸せに暮らせるよう地域全体で支え合う施策の成果は、出生数と死亡数の差である「自然減」に表れます。生まれる命が増え、健康で長生きできる人が増えることが、まちの活力につながる指標として設定しました。

【関連する個別計画】

山鹿市定員管理指標、山鹿市特定事業主行動計画、山鹿市人材育成基本方針、山鹿市障害者活躍推進計画(第2期)、山鹿市過疎地域持続的発展計画、山鹿市デジタル化基本方針、山鹿市地域防災計画、第4次山鹿市交通安全計画、山鹿市公共施設等総合管理計画、山鹿市地域公共交通計画、第3次山鹿市環境基本計画、第3次山鹿市一般廃棄物処理基本計画、第11期山鹿市分別収集計画、山鹿市地球温暖化対策実行計画、第3期山鹿市地域福祉計画・山鹿市成年後見制度適正利用促進計画、山鹿市第4期障害者計画、山鹿市第7期障害福祉計画、山鹿市第3期障害児福祉計画、第9期山鹿市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画、第2期山鹿市いのちを支える自殺対策計画、第4次山鹿市健康増進計画、第3次山鹿市食育推進計画、山鹿市国民健康保険第3期保健事業実施計画(データヘルス計画)・第4期特定健康診査等実施計画、山鹿市こども計画、山鹿市国土強靱化計画、橋梁長寿命化計画、舗装個別施設計画、山鹿市都市計画マスタープラン、山鹿市住宅マスタープラン、山鹿市建築物耐震改修促進計画、市営住宅長寿命化計画、公園施設長寿命化計画、山鹿市下水道事業経営戦略、山鹿市水道ビジョン、第4次山鹿市教育大綱、第5次山鹿市教育振興基本計画、学校施設長寿命化計画、山鹿市スポーツ推進計画、第4次山鹿市読書活動推進計画、重要文化財八千代座保存活用計画、山鹿市文化芸術推進基本計画

施策15

子育て支援

主な取組の内容

- ◆ 子どもたちが健やかに育ち、子育て世代が安心して暮らせるまちを目指します。
- ◆ 小児医療体制の充実や不妊治療を含む妊娠、出産に関する助成など、妊娠期から出産、就学期に至るまで、切れ目のない子育て支援を行います。
- ◆ 母親が安心して安全な出産ができ、子育て中の保護者の育児不安を解消することで、安心して子育てができるよう、産後ケア事業等の実施や保健指導体制の充実を図ります。
- ◆ 新生児などへの育児用品購入費及び18歳までの子ども医療費への助成を継続し、子育て世帯の経済的負担軽減を図ります。
- ◆ 子どもの育ちと暮らしをつなぐ総合的な子ども・子育て支援体制づくりに取り組むとともに、すべての子ども・若者が切れ目なく居場所を見つけることができるよう、社会全体で子どもの居場所になり得る場を積極的に設けます。あわせて「こどもまんなか²⁷」の実現に向け支援体制づくりに取り組みます。
- ◆ 保育施設の充実や子育て世代の交流の場づくりを進め、地域全体で子育てを支える体制を強化し、すべての子どもが笑顔で過ごせる環境をつくります。
- ◆ 地域の身近なところで子どもや子育て家庭を見守り支える地域拠点機能を持つ、地域子育て支援センターの充実を図ります。また、子ども総合相談窓口やこども家庭センターなどの機能を集約し、相談及び支援サービスを提供します。
- ◆ 18歳までの子どもに関する相談について関係機関と連携し、問題の解決につながるよう支援を行います。

4つの視点に関連するプロジェクト

①妊娠・出産から子育て期まで切れ目ない支援の展開

視点1 重点

妊娠・出産から子育てまで切れ目なく一貫して寄り添う相談支援体制(こども家庭センターを軸に)を構築します。不妊治療への助成、産後ケア、18歳までの医療無償化など、経済的支援と妊産婦への心身のケア・育児サポートの両面から包括的に支援を行います。

②就労と育児の両立環境の整備

視点2

保育施設の待機児童ゼロ継続に加え、延長保育や一時預かりの利便性向上を図ります。

③子育て世帯を孤立させない「地域子育て支援センター」の多機能化と交流創出

視点3

地域子育て支援センターのサポート機能強化により、子育て世帯の不安解消と孤立化を防止します。また、地域拠点の活用による交流機会の創出を図ります。

④社会全体で子どもを見守る「やまが・こどもまんなか」居場所づくりプロジェクト

視点4

地域の高齢者やボランティアが参画する「こどもの居場所(子ども食堂・学習支援)」の拡充を行います。また、親子で健康に過ごせる公園や温泉施設などの活用促進に取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
子育て「住み続けたい」希望率 (やまが・子育て定住ファン指数)	65.0%	80.0%

<設定根拠>

「子育て支援が充実しているか」という行政目線の評価ではなく、その結果として「この街で子どもを育て続けたい」という市民の皆様の「実感」をゴールにするために設定しました。

²⁷ 子どもを一番に考えて社会をつくる考え方

施策16

医療・健康

主な取組の内容

- ◆ 市民がいつまでも心身ともに健康で、安心して医療を受けられるまちを目指します。
- ◆ 地域医療を守り、誰もが必要な医療サービスを受けられる体制を整えます。
- ◆ 山鹿市民医療センターは、地域に根差した中核病院としての役割を果たすべく急性期医療²⁸を軸に、より一層の医療の充実に努めます。また、今後さらに進展する少子高齢化問題を見据えた診療機能や救急医療、感染症医療、災害医療などの確保と充実を図るため、年次計画による老朽化した建物や機器の整備・更新に加え、新たな医療ニーズに応える設備や高度医療機器の導入を行います。
- ◆ 病気の予防や健康増進のため、健康診断の受診を促すとともに、気軽に運動できる場の提供に取り組みます。
- ◆ 子どもの頃から高齢になるまで生涯を通して適切な生活習慣の定着を図るため、行政、医療機関、保育園、学校及び企業などが連携して健康づくりに取り組むための環境を整備し、個人の健康づくりを総合的に支援します。
- ◆ 特定健診の受診率向上に向け、受診勧奨訪問等の実施による普及啓発を行うとともに、脳血管疾患、心臓疾患及び人工透析を予防するため、基礎疾患となる高血圧症や糖尿病、またそれを誘発するメタボリックシンドローム²⁹該当者などに保健指導を実施し、生活習慣病の発症予防及び重症化予防に医療機関などと連携し取り組みます。



²⁸ 急な病気やけがのときに行う医療

²⁹ 内臓脂肪の蓄積により生活習慣病のリスクが高まった状態

4つの視点に関連するプロジェクト

①地域小児医療体制の確保と健やかな育ちの支援

視点1

広域的な医療連携により、有明・鹿本医療圏の中核病院を中心とした持続可能な小児・周産期医療体制の確保に努めます。あわせて、乳幼児健診の充実や、保育園・学校と連携した食育・生活習慣の改善に取り組み、子どもの心身の健康を育みます。

②医療×温泉資源を活用した「山鹿型ウェルネス・ケア」の確立

視点4

山鹿市民医療センターの医療機器の更新と山鹿の温泉資源をリハビリや未病対策に活用する仕組みの整備に取り組みます。

③重症化を防ぐ「一人ひとりに合った支援・予防訪問」の展開

視点4

重点

KDBデータ³⁰等を活用した訪問による保健指導や受診勧奨により、生活習慣病の重症化予防及び糖尿病等の人工透析移行の防止を図ります。あわせて、市民が「気軽に運動できる場(公園・施設)」のバリアフリー化と多世代交流を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
健幸あんしん実感度	50.0%	70.0%

<設定根拠>
医療という「守り」の安心感と、健康づくりという「攻め」の充実感を、市民がどれだけ自分事として「実感」できているかをストレートに表現しました。専門用語を排除し、市の目指す姿を直感的に伝える名称としています。



³⁰ 国保データベースシステムの略で医療や介護の情報をまとめて分析できるデータ

施策17

高齢者福祉

主な取組の内容

- ◆ 高齢者が、加齢や認知症などに伴う支援が必要となっても、住み慣れた地域で、安心して生きがいを持って暮らせるように支援を行います。一人ひとりの状況に合わせた介護サービスや生活支援を充実させます。
- ◆ 高齢者の交流の場や社会参加の機会を増やすことで、閉じこもりがちな生活となることを防ぎます。また、心身ともに健康な毎日を送れるようサポートを行い、すべての高齢者が尊重され、地域でいきいきと暮らせる社会の実現を目指します。
- ◆ 医療・介護、介護予防、生活支援等の包括的な確保を図り、これまでの地域包括ケアシステム³¹をさらに深化・推進します。
- ◆ 地域の実情に応じた市民主体の活動(サポーター活動)を支援し、企業の理解・協力を得ながら、買い物・見守り支援や介護予防教室等の社会参加の場を増やしていきます。また、地域の生活支援コーディネーター³²が中心となって、地域における生活上の困りごとを地域で解決する支え合いの体制や市民主体の活動を展開します。
- ◆ 要支援者や自立した生活を維持することが困難な高齢者を対象に、介護予防や生活支援サービスなどを総合的に提供します。
- ◆ 要介護認定、事業者支援、給付実績の点検等を通じ、費用の効率化と介護給付の適正化を図ります。



³¹ 高齢者が地域で安心して暮らせる支え合いの仕組み

³² 高齢者の生活を支える仕組みづくりを調整する人

4つの視点に関連するプロジェクト

①「生涯現役」を支える地域共生型ワークシェアリング³³の推進

視点3

高齢者が持つ農業スキルや伝統工芸(山鹿灯籠など)の知識を、移住者や若者に継承する場を支援します。また、軽微な有償ボランティア(見守りや買い物支援など)を拡充し、定住意欲を高める互助コミュニティを形成します。

②フレイル予防³⁴による元気高齢者の活躍

視点3

早い段階からフレイル予防に取り組み、高齢者自身が介護予防・生活支援・地域づくりを支える担い手として社会参加し、継続的に活躍できる場づくりを目指します。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
地域でいきいき活躍する人の割合	45.0%	65.0%

<設定根拠>
高齢者福祉の目的は、単に「お世話をする」ことではなく、誰もが役割を持ち、自分らしく輝き続けられる社会をつくることです。市民が「自分も地域で活躍し、毎日を楽しめているか」を直感的にイメージし、前向きに取り組める言葉を選定しました。



³³ 仕事を分け合って働く仕組み

³⁴ 高齢者が弱らないようにする取組



施策18

地域福祉

主な取組の内容

- ◆ 高齢者や障がいのある方、子育て世代など、様々な立場の人々が地域で支え合える環境づくりを推進し、誰もが孤立せず、健やかで安心して暮らせる社会を目指します。
- ◆ 包括的な支援体制の整備と地域力の維持と強化を図るため、包括的相談支援事業、多機関協働事業などを継続して実施します。
- ◆ 成年後見制度³⁵に関する支援体制の強化を図り、地域における権利擁護の普及啓発や適正な利用促進に努めます。
- ◆ 経済的な困難を抱える方々には、生活相談や就労支援などを通じて自立をサポートします。
- ◆ 平時からの見守りや支援体制により防災・防犯を含めた地域づくりを促します。
- ◆ 社会福祉団体の活動の場を確保し、ボランティア等の促進や地域ネットワークの構築のため、福祉施設の再編整備を推進します。



³⁵ 判断が難しい人の生活や財産を守る制度

4つの視点に関連するプロジェクト

①子育て世帯を孤立させない地域見守りネットワークの構築

視点1

民生委員・児童委員(主任児童委員を含む)及び地域のボランティアと連携し、子育て世帯への「お節介(温かな声掛け)」や、地域資源(公民館や空き店舗など)を活用した居場所の展開を強化します。

②住民融和を促進する地域コミュニティ支援事業

視点3

重点

地域福祉や防災・防犯、環境美化、伝統文化、住民交流、ボランティアなどの活動を支援し、地域コミュニティの絆を深め多様な主体による住民融和を促進します。

③権利擁護とフレイル予防を融合させた「あんしん健幸」サポート

視点4

成年後見制度の利用促進のほか、地域での見守り体制づくりや既存のネットワークを活用した交流による社会的孤立の防止と高齢者の介護予防(フレイル対策)に取り組むことで、安心して地域で住み続けられるよう支援します。

重要業績評価指標(KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
地域あんしん・つながり満足度	60.0%	75.0%

<設定根拠>
市民が「この街で安心して暮らせているか(あんしん)」ということと、「地域の中に居場所や役割があるか(つながり)」という、生活の質を支える2つの柱がどれだけ満たされているかをストレートに表現したものです。行政の福祉施策が最終的に「市民の満足」に繋がっているかを測るものとして設定しました。

施策19

障害福祉

主な取組の内容

- ◆ 障がいのある方が、地域で自分らしく、いきいきと暮らせる社会を目指します。
- ◆ 障がいのある方一人ひとりの希望を尊重し、相談支援や障害福祉サービスの提供を通じて障がいのある方の自立に向けた支援を行います。
- ◆ 市民への啓発活動を通じて、誰もが共に支え合う共生社会をつくれます。
- ◆ 療育から教育、そして就労へとそれぞれのライフステージ³⁶に応じた切れ目のない支援により誰もが安心して暮らせる社会を目指します。
- ◆ 障害者差別解消法に基づく合理的配慮について正しい知識を習得し、障がいのある方の支援について理解を深めます。
- ◆ 地域移行や就労移行を支援し、また、スポーツや文化活動等を通じて、障がいのある方の社会参加を促進します。



³⁶ 人生の成長段階ごとの区分

4つの視点に関連するプロジェクト

①障がい児・発達支援の切れ目のない伴走型サポートの充実

視点1

児童発達支援から放課後等デイサービス、そして教育機関との連携を強化し、障がいのある子を持つ保護者が孤立せず、安心して出産・子育てができる連携体制を構築します。

②農福連携（農業×福祉）による山鹿型ワークスタイルの創出

視点2

本市の強みである「農業」と障害福祉を掛け合わせ、特産品の生産・加工プロセスへの障がい者の就労を促進します。市内企業への合理的配慮の普及啓発（障害者差別解消法の推進）もセットで行います。

③ユニバーサルデザイン³⁷による「やさしい湯の街」住環境整備

視点3

温泉地としての特性を活かし、バリアフリー化された住環境や福祉サービスの充実をPRすることで、障がいのある方やその家族が「暮らしやすい街」として山鹿を選び、定住する仕組みを作ります。

④パラスポーツ³⁸・障がい者アートを通じた地域共生コミュニティの強化

視点4

障がいのある方が地域でスポーツや文化活動に親しめる機会を増やし、市民との交流を通じた「支え合い体制」を強化します。

重要業績評価指標（KPI）

項目	2024年度	2029年度（目標値）
共生社会しあわせ実感度 （障がいがある人もない人も、山鹿市で自分らしく、安心して暮らし続けたいと思う市民の割合）	50.0%	70.0%

<設定根拠>
「障害福祉」を特別な誰かのためのものとせず、「誰もが自分らしく、この街で幸せに暮らし続けるための共通の基盤」として捉え直しました。「しあわせ実感度」という言葉を用いることで、行政サービスの充実度だけでなく、市民同士の支え合いや心の豊かさを共に高めていこうという、市の温かい将来像を直感的に伝えることを意図しています。

³⁷ 誰もが使いやすいよう配慮された設計や考え方

³⁸ 障がいのある人が参加するスポーツの総称

施策20

協働・コミュニティ

主な取組の内容

- ◆ 市民と市が協力して、誰もが暮らしやすい地域社会を目指します。
- ◆ 自治会活動やボランティア活動を支援し、市民一人ひとりがまちづくりに参加する機会を増やします。市民主体の活動を尊重し、市民の意見を計画づくりに反映させることで、地域コミュニティのつながりを強めていきます。
- ◆ 自治機能の維持や個性豊かな地域の活性化、市民の自主的な地域コミュニティ活動の支援を行い、地域の特性に応じた地域づくり活動や地域協働組織の組織強化を図ります。
- ◆ 地域おこし協力隊や集落支援員の活用により、地域の魅力向上や集落機能の維持・強化を図ります。
- ◆ 地域コミュニティの拠点としての役割も期待されている地区公民館、自治公民館の機能充実及び公民館指導員などによる活動を推進することで、市民への啓発及び積極的な参加につなげ、地域コミュニティの維持・存続を図ります。



4つの視点に関連するプロジェクト

①地区公民館を拠点とした「子育てシェアコミュニティ」の形成支援

視点1

地区公民館や自治会において、多世代が交流しながら子育てを支え合う仕組み（共同見守りや体験活動）の構築を行います。

②地域課題解決型「山鹿ソーシャルビジネス³⁹」の育成と協働推進

視点2 **重点**

地域の困りごと（買い物支援、耕作放棄地活用など）をビジネスの手法で解決する市民団体や若者グループに対し、市との協働事業として場所の提供を行います。

③地域の魅力を再定義・発信するプロジェクトを推進

視点3

地域おこし協力隊などが持つ「外の視点」と地域が持つ「伝統・資源（温泉、農業など）」を掛け合わせ、地域の魅力を再定義・発信するプロジェクトを推進します。

④通いの場を核とした「多世代型コミュニティ・ケア」の強化

視点4

地区公民館などを活用し、健康づくりや介護予防を「楽しみながら」行う市民主体の活動を支援し、地域の支え合い体制の強化に取り組みます。

重要業績評価指標（KPI）

項目	2024年度	2029年度（目標値）
未来づくり参画率 （地域の魅力向上や課題解決のために、 自ら行動する市民の割合）	25.0%	40.0%

<設定根拠>
「まちづくり」という言葉を「未来づくり」に言い換え、市民一人ひとりの活動が山鹿市の将来に直結していることを直感的に伝えるために設定しました。また、単なる参加ではなく「参画」とすることで、主体的な関わりを重視する意図を込めています。

³⁹ 社会の問題を解決するための事業



まちづくりの コンセプト5

工夫しながら、わかりやすく、
あたたかい「サービス」を
届けるまち

- 施策21 情報政策 (DX)
- 施策22 広報啓発活動
- 施策23 行財政運営



取組の方向性と施策の方針

限られた資源(予算、人材、時間など)を効果的・効率的に活用し、市民のニーズや社会の変化に対応しながら、長期的な視点を持って様々な取組を進めます。また、市民が求めるニーズに合致し、かつ、期待を超えるような、価値のあるサービスを提供できる体制づくりを目指します。

数値目標

項目	2024年度	2029年度(目標値)
行政手続きのデジタル化を 便利と感じている市民の割合	30.0%	60.0%

<設定根拠>

デジタル化・広報・行財政運営など、市民サービスを支えるすべての施策の成果は、「手続きが便利になった」という市民の実感に表れます。行政サービス全体の使いやすさを市民目線で分かりやすく測る指標として設定しました。

【関連する個別計画】

山鹿市定員管理指標、山鹿市特定事業主行動計画、山鹿市人材育成基本方針、山鹿市障害者活躍推進計画(第2期)、山鹿市過疎地域持続的発展計画、山鹿市デジタル化基本方針、山鹿市公共施設等総合管理計画、山鹿市下水道事業経営戦略、山鹿市水道ビジョン、山鹿市消防本部定員管理指標

施策21

情報政策(DX)

主な取組の内容

- ◆ デジタル技術を積極的に活用し、市民の生活をより便利で豊かなものにすることを目指します。
- ◆ 行政手続のオンライン化⁴⁰を進め、「いつでも・どこでも」必要な手続きを行うことができる体制を整えます。
- ◆ デジタルに不慣れな方も取り残さないよう、デジタルデバインド(情報格差)⁴¹対策を進めます。
- ◆ 個人情報や行政サービスを守るため、情報セキュリティ対策の徹底を図ります。

施策の主な内容

①窓口(フロントヤード)改革の推進

「書かない」「待たない」「迷わない」窓口を目指すため、利用者視点で手続の見直し(BPR⁴²)やデジタル化を進めるとともに、サイン⁴³やレイアウトの見直しやオンライン手続の拡大など、利用者のサービス向上と業務の効率化を図ります。

②デジタル技術の活用とデジタルデバインド対策

様々なデジタル技術の活用により、業務効率化やコスト削減を図り、持続可能な行政運営につなげます。活用にあたっては、セキュリティ対策を徹底するとともに、デジタルに不慣れな方も安心して暮らし続けられるよう、デジタルデバインド対策を進め、地域社会とデジタルの調和を図ります。

③オンライン手続の拡大

来庁を前提とした手続きを見直し、オンライン化を拡大することで、いつでもどこでも申請・届出が出来る環境を整備します。あわせて、書類の電子化やオンライン決済、通知などのデジタル化を進め、利用者の利便性向上を図ります。

重要業績評価指標(KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
行政手続きの「いつでも・どこでも」手続数	80	160

<設定根拠>

スマートフォン等の情報端末があれば、「いつでも・どこでも」申請や届出ができる環境を整えることで、来庁する手間を減らし、便利で豊かな暮らしを実現するため設定しました。

施策22

広報啓発活動

主な取組の内容

- ◆ 市民がまちの情報を共有し、一体となってまちづくりを進めていく土台をつくるため、市の様々な情報を市民に分かりやすく伝え、まちづくりへの関心を高めることを目指します。
- ◆ 広報紙や市のホームページ、SNS、やまがメイトなどを活用し、行政の情報や地域の話題・ニュースを積極的に発信します。

施策の主な内容

①広報活動の推進

市政の分かりやすい情報発信、ニーズに応じた情報の提供など、市政の見える化を一層推進します。また、広報媒体の特性を活かした効果的な配信に取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
まちづくりアクション・フォロワー数	30,507件	45,760件

<設定根拠>

施策1~20を成功させるためには、行政の情報を「知っている」だけでなく、実際に「利用する・参加する」という市民の次のアクションが不可欠です。この指標は、情報発信が単なる通知に終わらず、どれだけ多くの市民の心を動かし、まちづくりへの参画(アクション)につなげられたかを測るために設定しました。



⁴⁰ インターネットを通じて遠隔でやり取りや活動を行う形態

⁴¹ ICTを使える人と使えない人の差

⁴² 仕事のやり方を見直して効率よくする取組

⁴³ 案内や表示など情報を伝えるための目印



施策23

行財政運営

主な取組の内容

- ◆ ICTを活用して行政手続きを効率化し、より少ない費用で、より良いサービスの提供を行います。
- ◆ 施策や事業の見直しを通じて、組織や人員配置のあり方を検討し、効果の高い行政サービスを実現します。
- ◆ 各種研修の実施等、計画的な人材育成や人事評価制度の適切な運用により、職員が持つ能力発揮と成長を促す組織風土の醸成を図ります。
- ◆ 無駄のない健全な財政を保ち、市民の信頼に添えていくため、市の財政状況を分かりやすく伝え、透明性の高い行政運営を行います。
- ◆ 市税をはじめとする多様な自主財源による歳入確保を図り、一方でファシリティマネジメント⁴⁴の推進等、効果的、効率的な歳出に努めるなど、戦略的な財政運営を図ります。



⁴⁴ 施設や設備を効率的かつ効果的に運用・管理し、組織や事業の価値向上を目指す活動

⁴⁵ 判断のもとになるデータや事実

⁴⁶ データをもとに政策を考える方法

⁴⁷ 組織をきちんと管理し運営する仕組み

施策の主な内容

①行財政改革の推進

限られた行政資源で最大の政策効果を発揮するため、統計データ等をエビデンス⁴⁵として政策の立案や効果の検証を行うEBPM⁴⁶の考え方を取り入れるなど、市民満足度の向上につながる行財政改革を推進します。また、スリムで機動力を十分に発揮できる組織改編と、行政内部におけるガバナンス⁴⁷の更なる強化、職員の適正確保を図るとともに、「人材育成基本方針」のもと「自ら考え、行動する」職員の育成に取り組めます。

②財政運営の健全化

将来にわたって持続可能な財政運営を行っていくため、中長期的な視点に立ち、税収の確保及び歳出抑制による財政の健全化に取り組むとともに、社会経済情勢の変化にも適切に対応できる財政基盤の確立を図ります。

③公共施設マネジメントの推進

公共施設について、定期的な点検・診断により、安全性を確保し、計画的に更新・統廃合などを進めていきます。

④ふるさと納税の推進

ふるさと納税制度を活用し、本市出身者や本市に関心を持つ方からのふるさと納税による寄附を推進します。また、企業版ふるさと納税制度により、本市の政策とそれに賛同する企業とのマッチングを強化することで、継続的な寄附獲得につなげます。

⑤広域連携の推進

山鹿市・和水町定住自立圏の中心市として、新たなにぎわいの創出による地域経済の活性化や交流人口の増加、当圏域への移住・定住へとつなげ、誰もが暮らしてみたいと思える魅力ある圏域を目指し、和水町との連携を図りながら第2次山鹿市・和水町定住自立圏共生ビジョンに掲げる取組を進めます。

重要業績評価指標 (KPI)

項目	2024年度	2029年度(目標値)
経常収支比率	99.0%	96.0%

<設定根拠>

自治体の財政健全性と収支バランスを示す重要な指標であり、財政運営の柔軟性と安定性を確保する上で重要です。これにより、行財政改革や公共施設マネジメント、ふるさと納税推進などの施策を効果的に進める基盤を整えることが可能となります。



各目標値の関連図

未来ビジョン

まちづくりのコンセプト

各施策のKPI




山鹿市
長期人口ビジョン編



1 はじめに

我が国においては、少子高齢化の進展や人口減少による地域社会への影響が一層顕在化しており、地方自治体における計画的な人口対策の重要性が高まっています。国は、「地域の持続可能な発展の基盤としての人口構造の安定化」を目指し、自治体が将来の人口動向を見据えた計画を策定することを推奨しており、人口ビジョンの策定はその一環として位置付けられています。

人口ビジョンは、単なる人口の現状把握にとどまらず、地域の将来像を描き、施策の方向性を明確化するための指針です。本市においても、将来の人口構造や世帯構成の変化を踏まえ、住民の生活環境や地域経済の持続可能性を確保するために、計画的かつ戦略的な対応が求められています。

人口ビジョンを策定することで、住民、事業者、行政が一体となり、現状を正確に把握し、将来の課題に柔軟かつ効果的に対応するための基盤として、また「第3次山鹿市総合計画」と一体的に策定する「総合戦略」のほか、教育、福祉、医療、交通、住宅など、幅広い分野における施策の優先順位や資源配分を検討する基礎資料として活用していきます。

2 本市の人口の現状

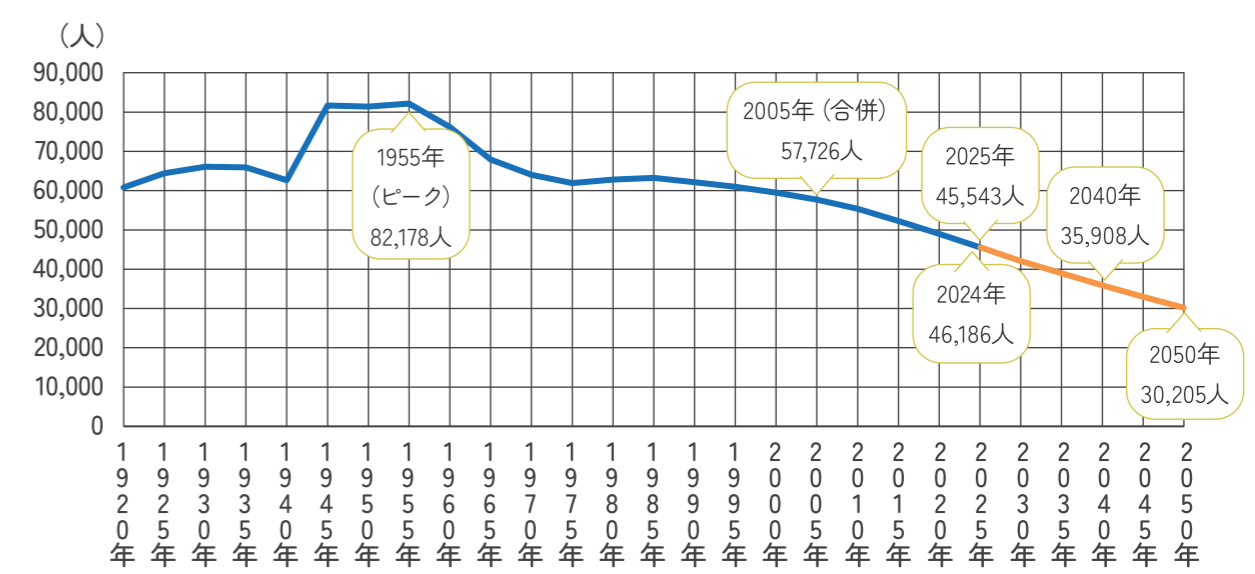
2-1 人口の動向

(1) 総人口の推移

- ◆ 本市の人口は、2024年10月1日現在で46,186人(熊本県人口推計)です。2020年の49,025人(国勢調査)から2,839人(約5.8%)に減少しました。
- ◆ 2025年の人口は国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の推計値である45,199人より人口減少が緩やかに推移しており、45,543人となっています。

図1-1は本市における1920年から2050年までの人口の推移及び将来推計人口を5年おきに示したものです(2025年までは実数、2030年以降は推計値)。
 なお、将来推計人口は、社人研による「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」に準拠した推計値(以下「社人研推計準拠」という。)を示しています。

■図1-1 山鹿市の人口推移及び将来推計人口



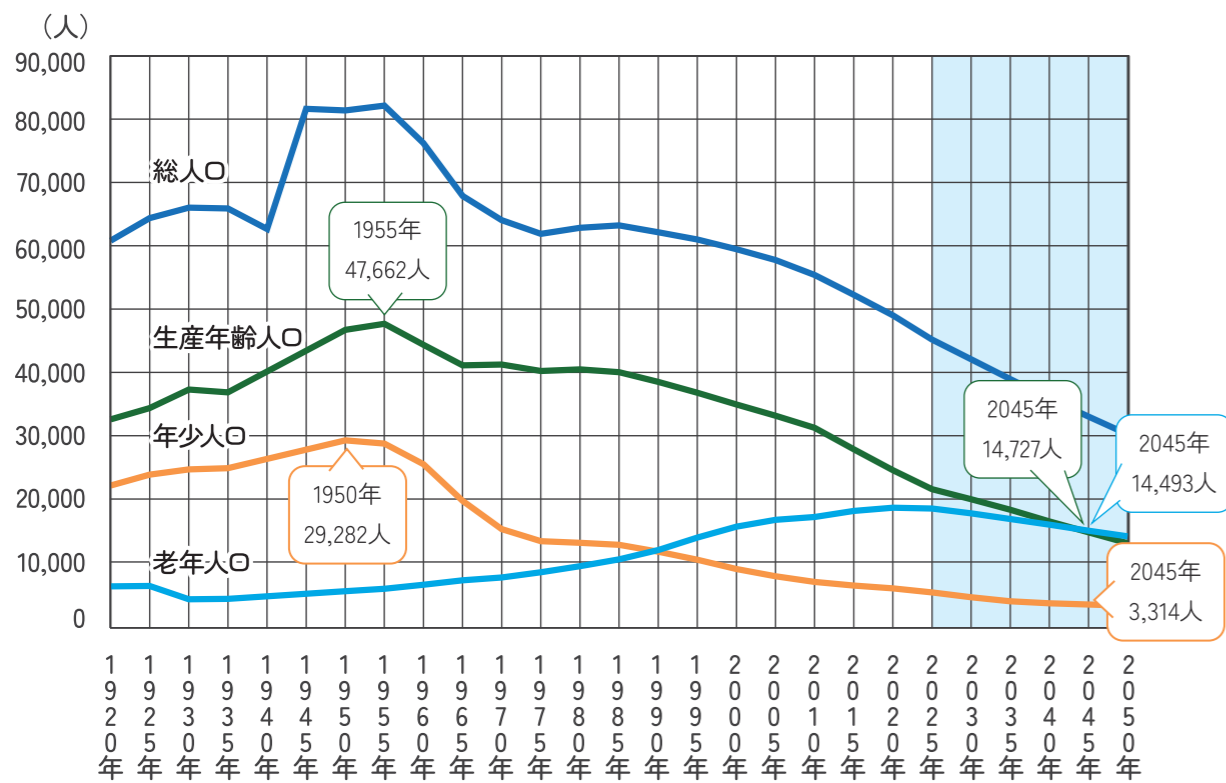
(出典：国勢調査、熊本県人口推計、社人研推計準拠)

(2) 年齢3区分別人口の推移

- ◆ 生産年齢人口は1955年の47,662人をピークに減少を続け、2045年には老年人口より少ない14,493人になると推計されています。
- ◆ 年少人口は1950年の29,282人をピークに減少。今後も減少傾向が続く見込みです。
- ◆ 人口の割合を見ると、生産年齢人口は2025年に総人口の50%を割り込み47.6%になると推計されています。
- ◆ 年少人口の割合は2035年に総人口の10%を割り込み、9.8%になると推計されています。
- ◆ 老年人口の割合は1995年に総人口の22.8%に達し、超高齢化社会に突入しました。2025年には40.9%と総人口の4割が老年人口になると推計されています。

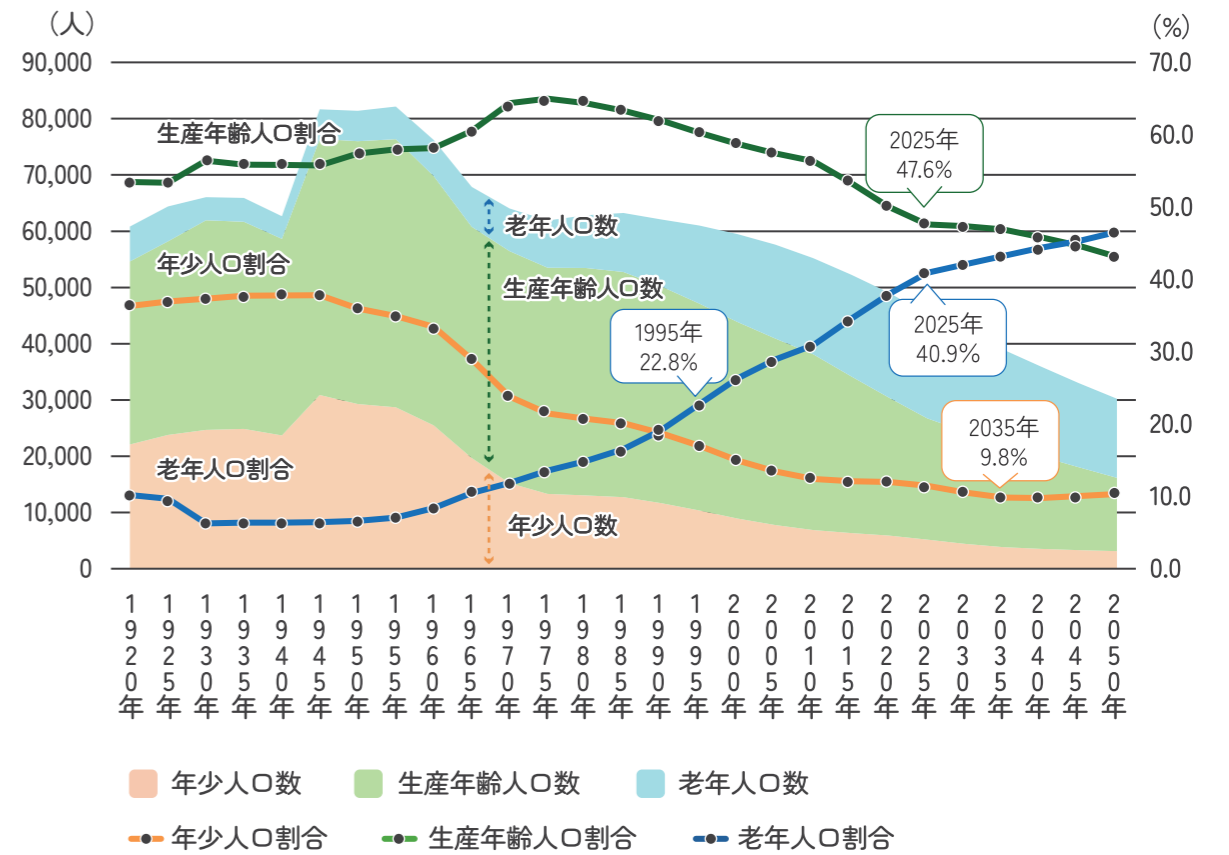
図1-2は本市における1920年から2050年までの年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)、老年人口(65歳以上)の年齢3区分別人口の推移を5年おきに示したものです。また、図1-3は総人口に占める、年齢3区分別人口の割合を示しています。

■図1-2 山鹿市の年齢3区分人口の推移



(出典：国勢調査、社人研推計準拠)

■図1-3 山鹿市の年齢3区分人口の割合推移



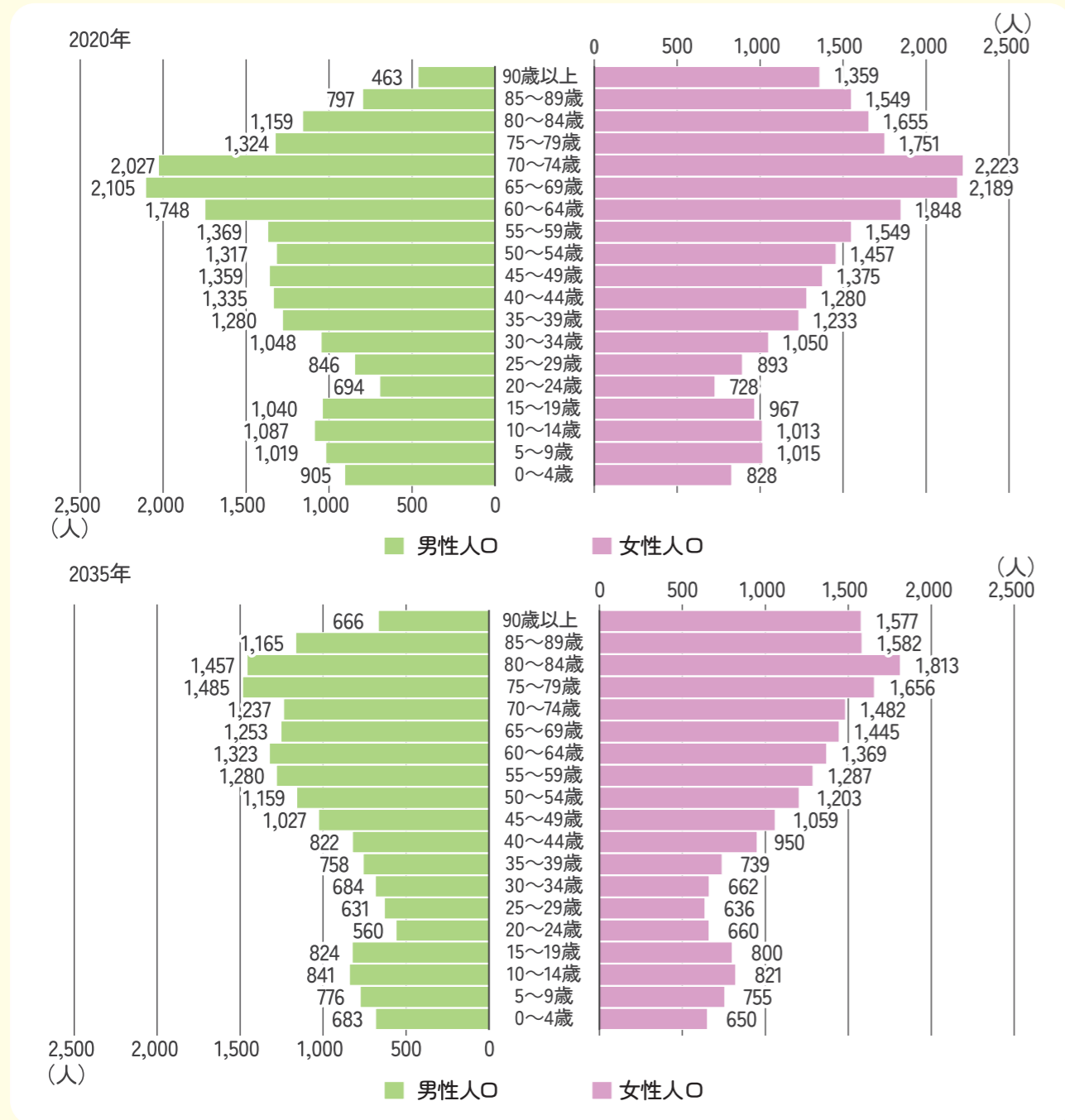
(出典：国勢調査、社人研推計準拠)

(3) 人口構造の変化

- ◆ 2020年は団塊世代が後期高齢世代に加わり、高齢化率が高くなっています。
- ◆ 2035年は20代の減少がより大きく、2020年に見られる、20代以降の年代での人口増加の割合も低くなっています。

図1-4は本市における2020年と2035年の人口構造を示した人口ピラミッドです。構造の変化を示しています。

■図1-4 山鹿市の人口ピラミッド



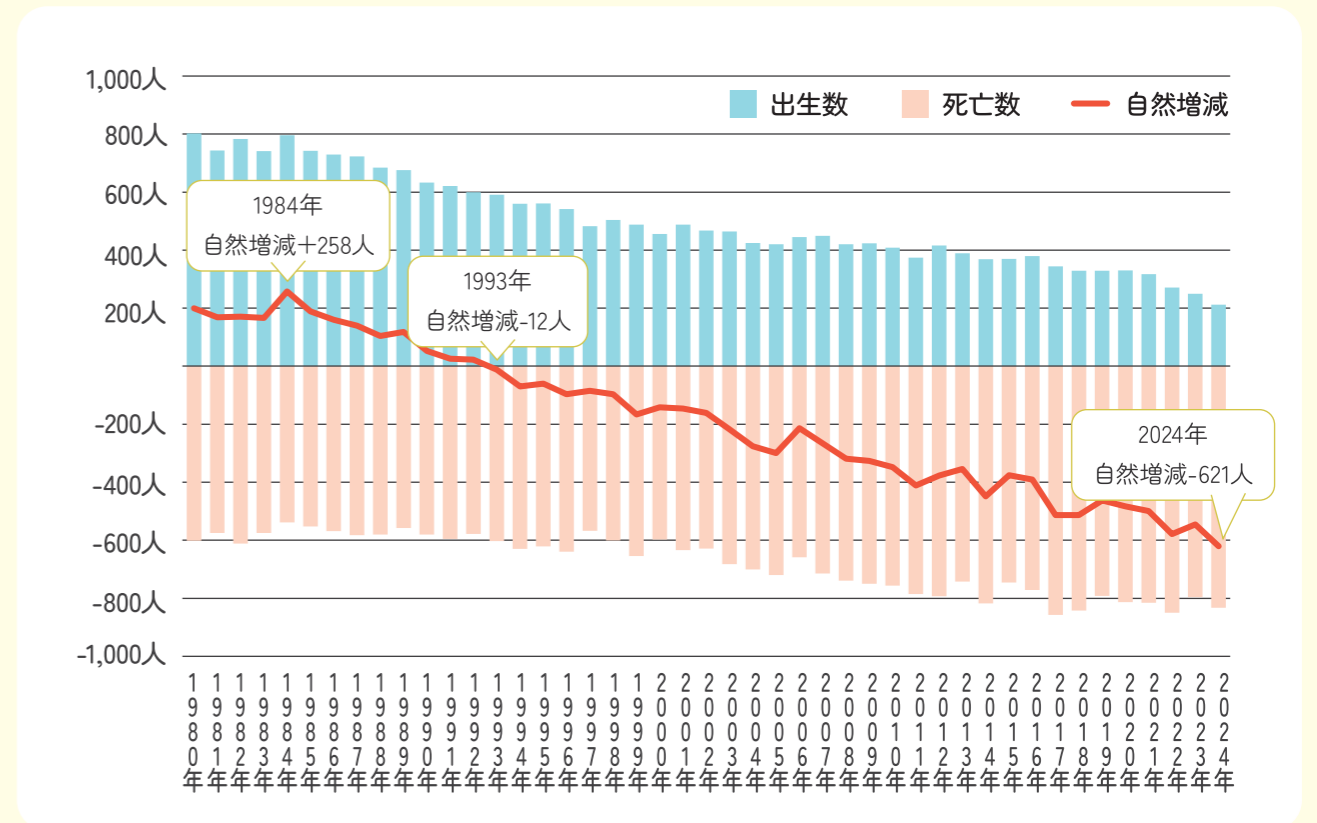
(出典：2020年は国勢調査、2035年は社人研推計準拠より作成)

(4) 自然増減の推移

- ◆ 1984年をピークにその後は減少が続いています。
- ◆ 1993年に自然増減-12人となりマイナスに転じました。
- ◆ その後は年々減少数が拡大し、2024年には-621人となりました。

図1-5は本市における出生数と死亡数の推移及び、自然増減を表したものです。

■図1-5 山鹿市の出生数、死亡数の推移



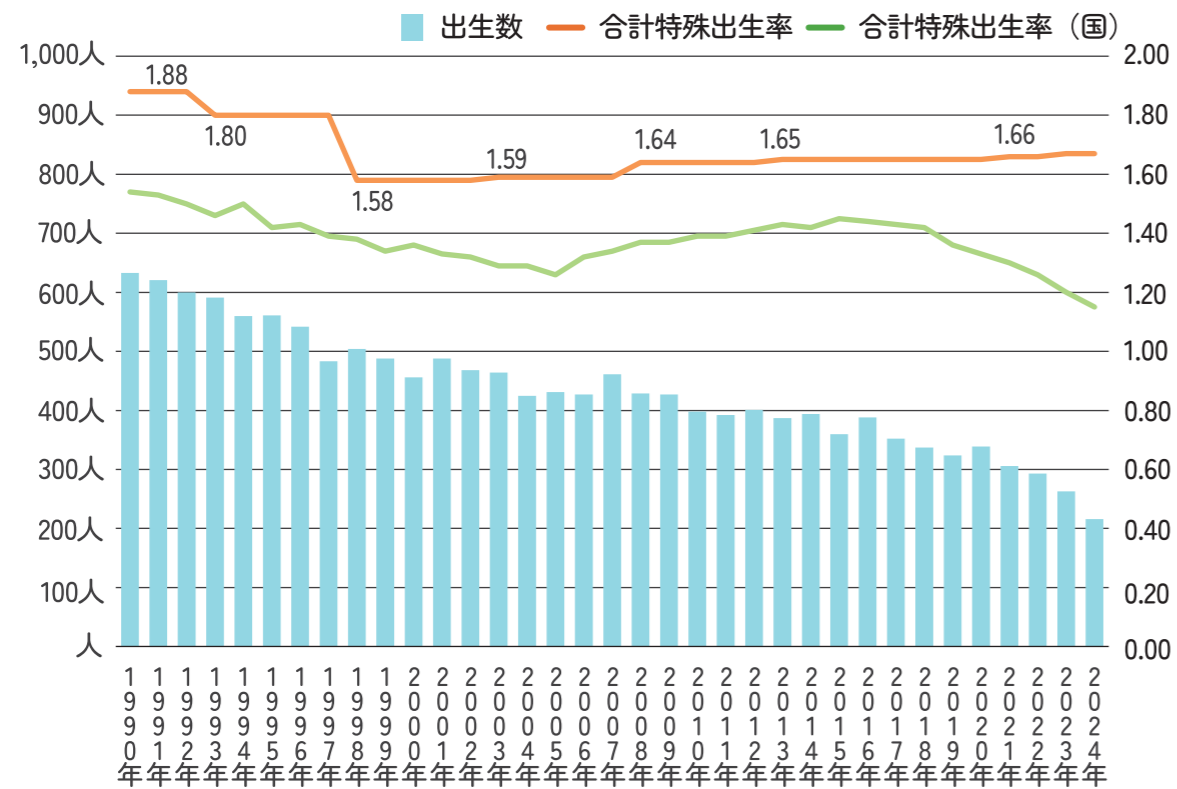
(出典：住民基本台帳)

(5) 出生数と合計特殊出生率の推移

- ◆ 出生数は年々減少し、2022年に年間出生数300人を下回りました。
- ◆ 合計特殊出生率は国の数値より高く推移しており、緩やかに上昇傾向となっています。

図1-6は本市における出生数と合計特殊出生率の推移を示したものです。

■ 図1-6 山鹿市の出生数、合計特殊出生率の推移



(出典：人口動態統計(厚生労働省)、熊本県推計人口調査)
※2023-2024年の本市合計特殊出生率は本市推計値

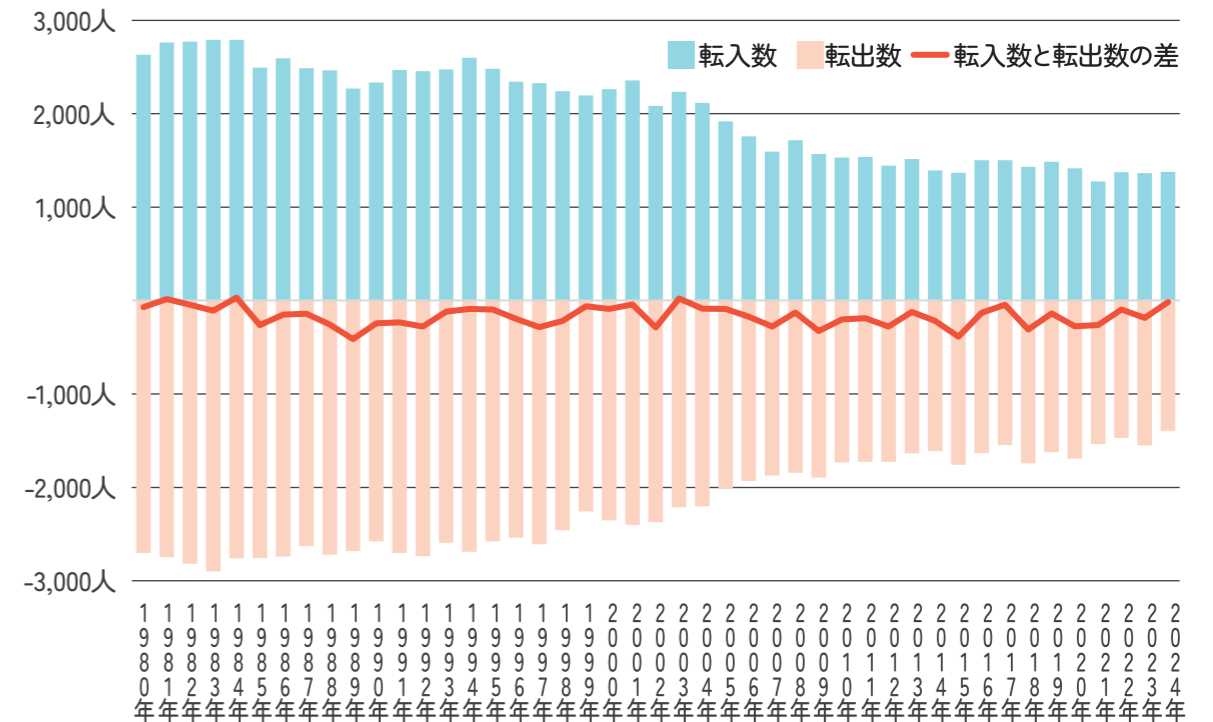
2-2 社会動態

(1) 社会増減の推移

- ◆ 本市では転出数が転入数を上回る「転出超過」が続いています。
- ◆ 年齢別人口移動を見ると、15～24歳の転出超過が極めて多くなっています。進学・就職等を理由に市外へ転出する人が多いことが要因と考えられます。
- ◆ 方面別に見ると、転出は熊本市、首都圏、菊池市が多くなっています。転入は熊本市、菊池市からが多くなっていますが、いずれに対しても転出超過の状況となっています。

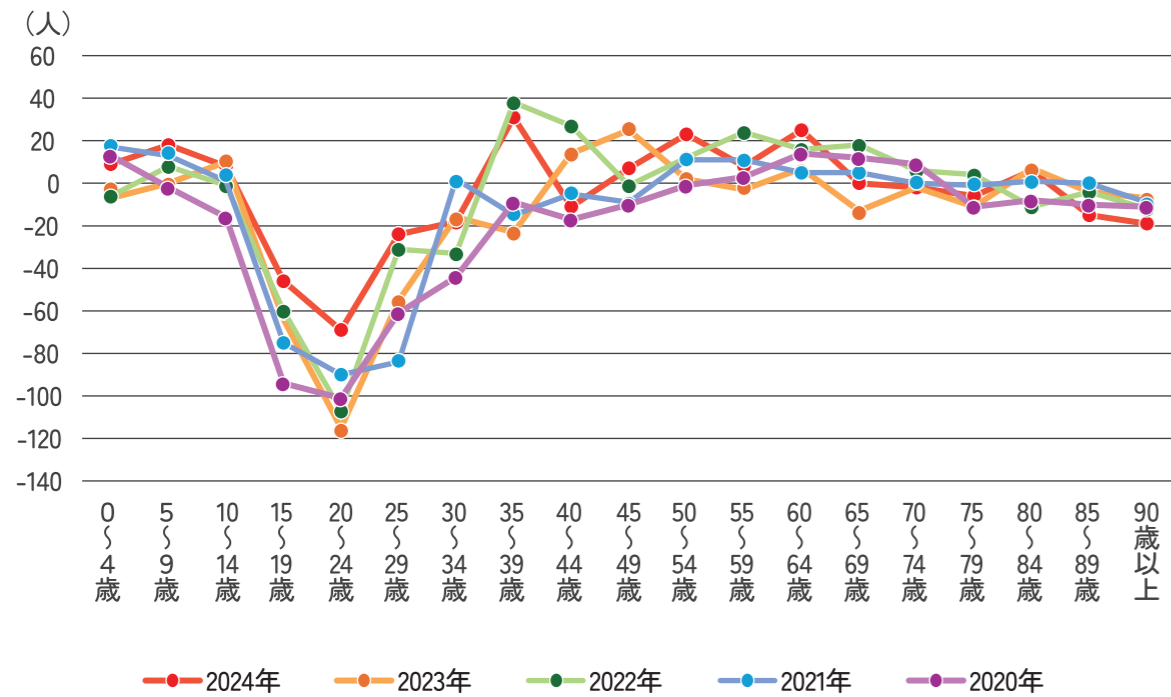
図2-1は本市における転入数と転出数の推移を示したものです。図2-2では、年齢別の移動数、図2-3ではどこへ転出し、どこから転入しているか、地域別の人数を示しています。

■ 図2-1 山鹿市の転入数、転出数の推移



(出典：住民基本台帳)

■図2-2 5歳階級別純移動数



(出典：住民基本台帳人口移動報告)

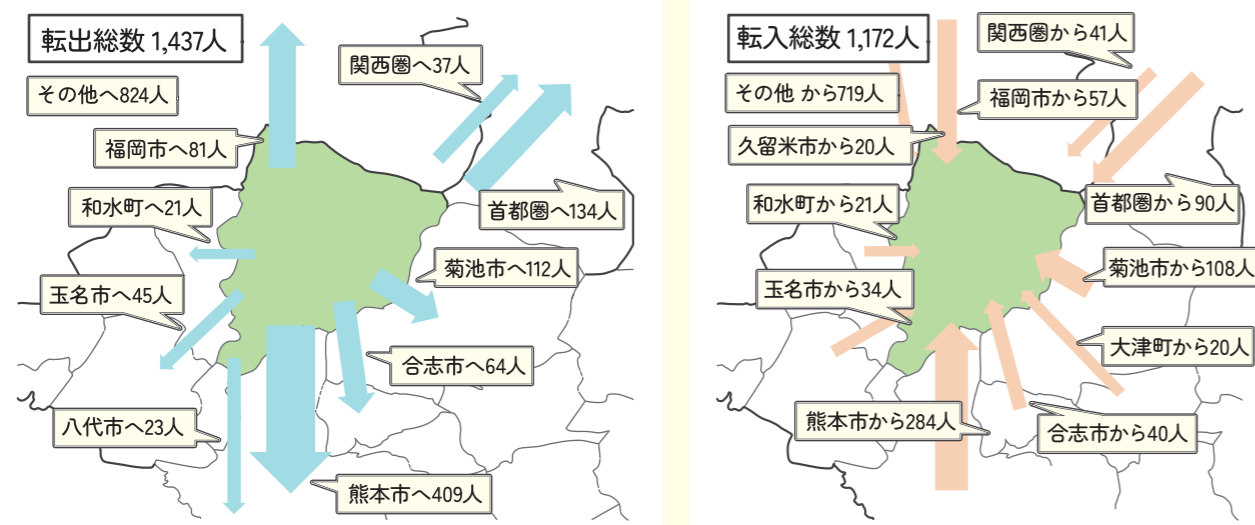
2-3 産業分野別就業者数の状況

(1) 産業分野別就業者の推移

- ◆ 就業者の総数は年々減少しています。
- ◆ 産業別にみると、第三次産業の割合は増加傾向となっていますが、第二次産業はほぼ横ばい、第一次産業は減少しています。
- ◆ 主な産業分野別にみると、35歳未満の就業者が「製造業」は3割程度、「医療・福祉」では2割程度となっていますが、「宿泊業・飲食サービス業」「卸売業・小売業」「建設業」「農業・林業」では65歳以上が2割以上を占めており、高齢化が進んでいます。
- ◆ 特に「農業・林業」は65歳以上の就業者が6割以上となっています。
- ◆ 男女別では「農業、林業」「建設業」「製造業」は男性が多く、「医療・福祉」は女性の比率が高くなっています。

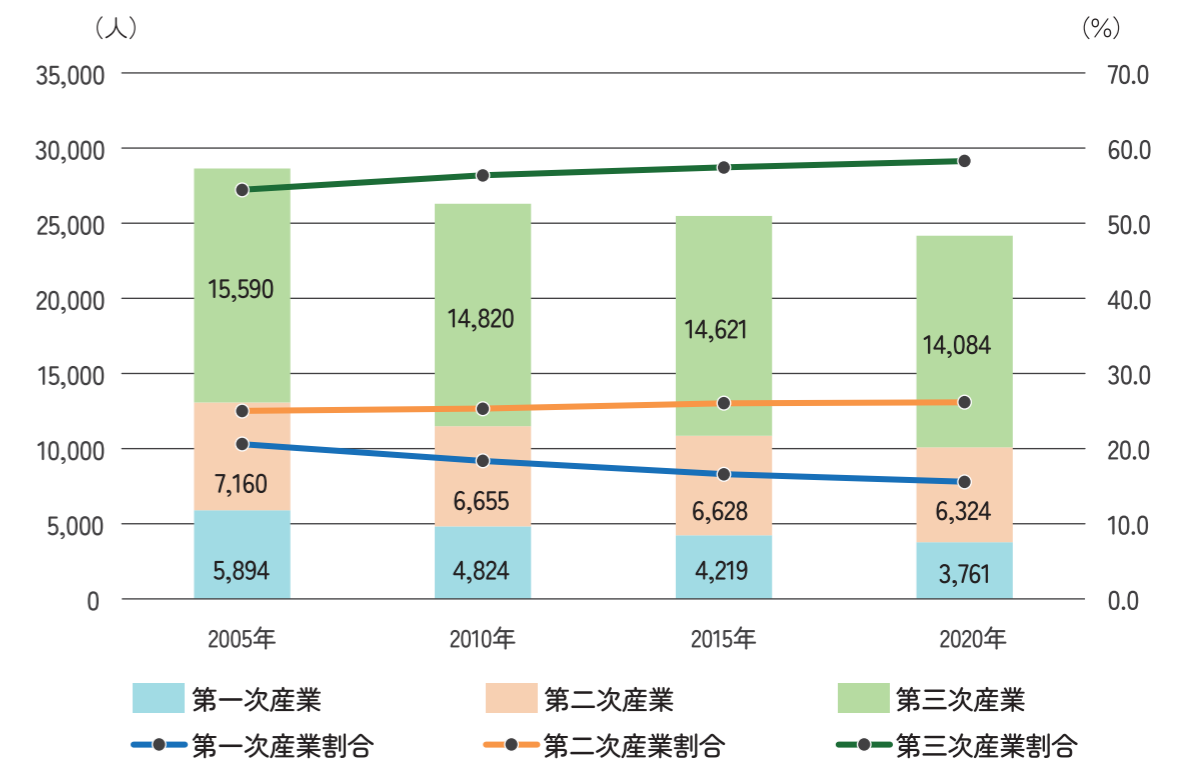
図3-1は本市における産業分野別就業者数の推移を示したものです。図3-2はその割合を年齢階級別に、図3-3では男女別に示しています。図3-4では、本市の産業の就業者比率を熊本県の産業の就業者比率で割った「男女別特化係数」も示しています。

■図2-3 方面別転出入の状況



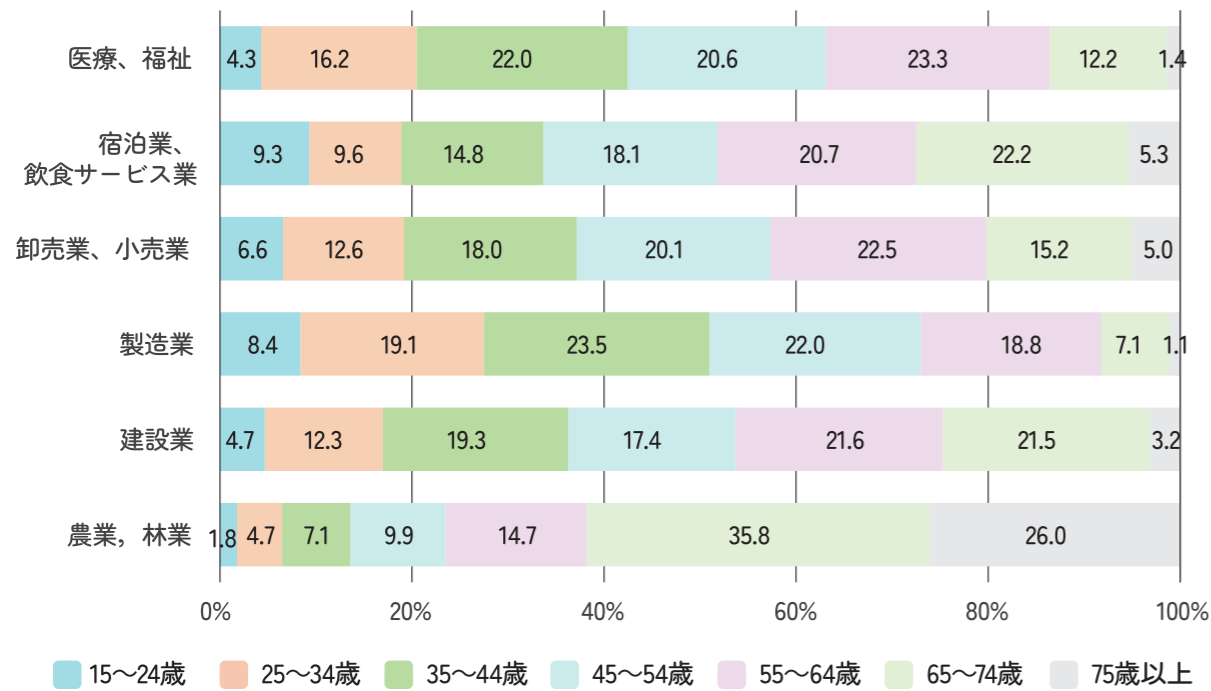
(出典：2023年住民基本台帳移動報告)

■図3-1 産業分野別就業者数の推移 (分類不能を除く)



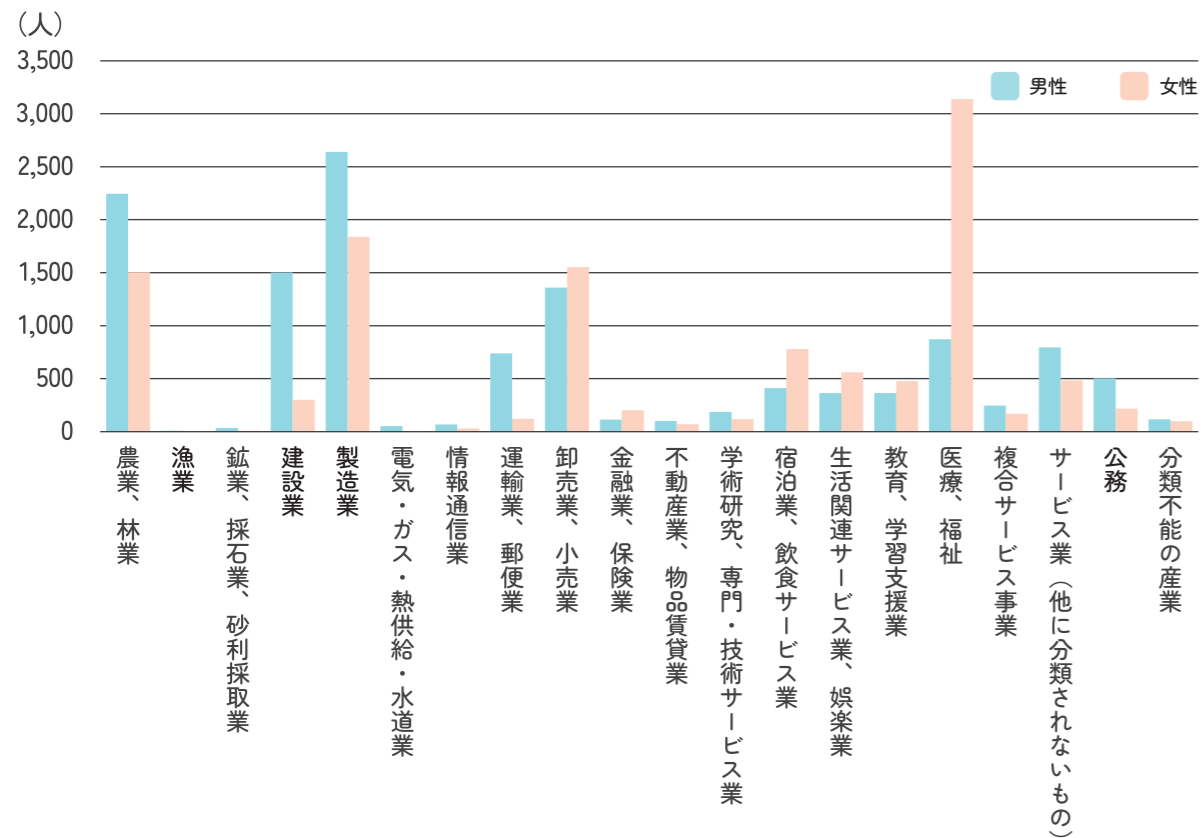
(出典：2020年国勢調査)

■図3-2 主な産業分野別の年齢階級別就業者割合



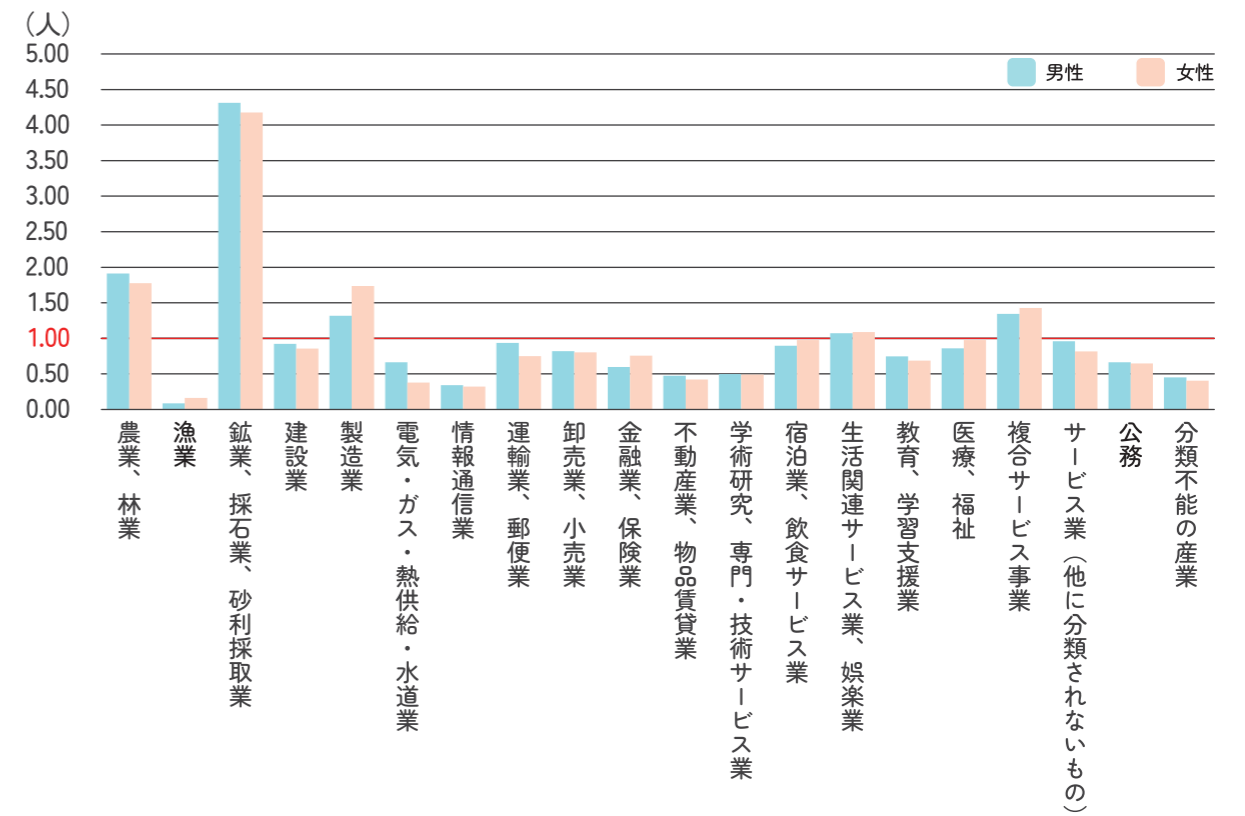
(出典：2020年国勢調査)

■図3-3 男女別産業分類別就業者数



(出典：2020年国勢調査)

■図3-4 男女別特化係数



(出典：2020年国勢調査)

※男女別産業特化係数：地域特性を数量的に示す指標で、熊本県の産業別構成比を基準(=1)として算出しています。ある産業の特化係数が1より大きいと、その産業が占める割合が、熊本県に比べて大きく、1より小さいと割合が小さいことになります。これにより、熊本県全体に比べてニーズの高さや事業所の集積度合いなどが分かります。

3 将来人口推計

3-1 人口の動向

(1) 山鹿市の人口減少段階

◆ 本市の人口減少段階は、2020年から第2段階にあり、2025年以降、第3段階に進むと見込まれています。

図5-1は社人研推計準拠を活用し、2020年の人口を100として、各年の人口を指数化することで人口減少段階を表したものです。人口減少段階は、一般的に以下の段階を経て進行するとされています。

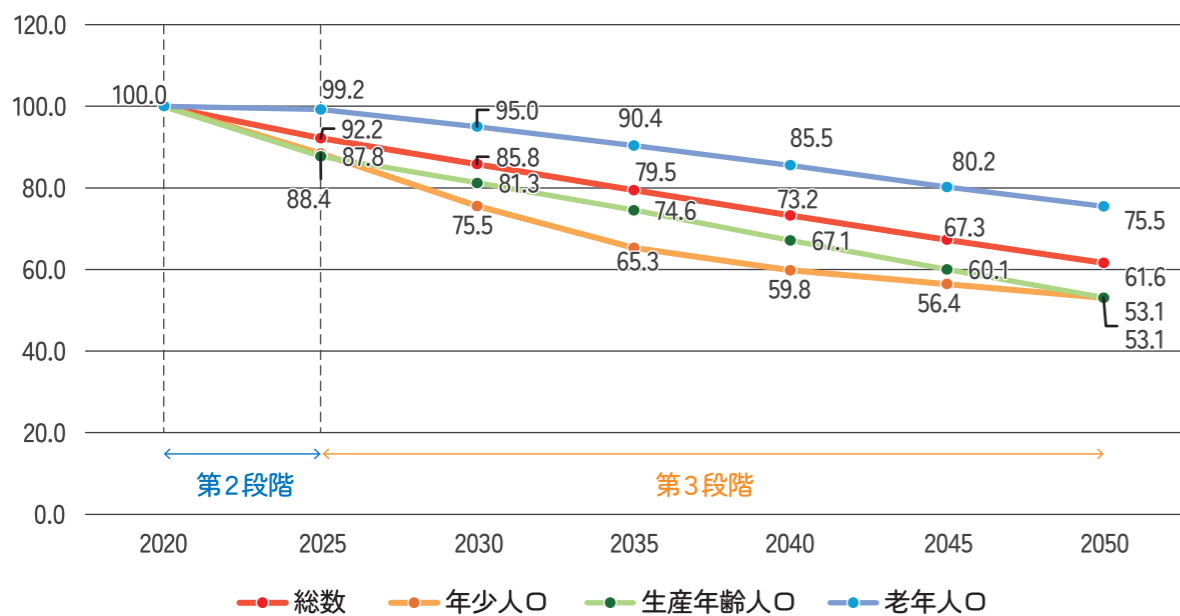
第1段階：若年人口は減少するが、老年人口が増加

第2段階：若年人口の減少が加速化し、老年人口が維持・微減

第3段階：若年人口の減少が一層加速化し、老年人口も減少

「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）」では、2015年から2045年までの間で、人口5万人以下の市町村では人口が34%減少すると推計されています。本市では36.9%減と推計されており、全国平均より早く人口が減少することが見込まれます。

■図4-1 山鹿市の人口減少率と減少段階



(出典：国勢調査、社人研推計準拠)

(2) 将来人口シミュレーション

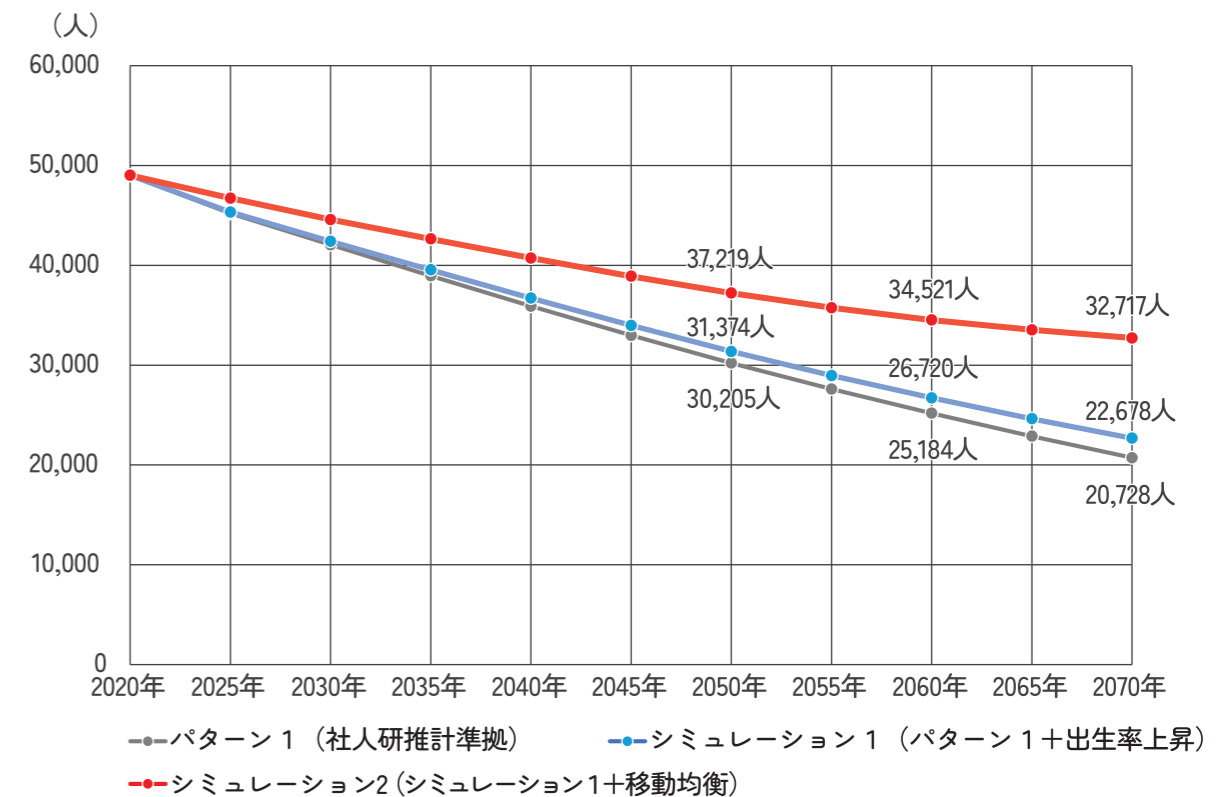
- ◆ 社人研推計では、2050年の人口は30,205人、2070年の人口は20,728人となる見込みです。
- ◆ 合計特殊出生率が人口置換水準まで上昇した場合は2070年に22,678人、さらに人口移動が均衡した場合は32,717人になると見込まれています。

図5-2は、社人研推計準拠(2020年の国勢調査に基づいて算出された純移動率が、今後定率で縮小すると仮定し、将来の人口を推計したもの(以下「パターン1」という。))と、2つのシミュレーションで将来人口を推計し、将来人口に及ぼす自然増減や社会増減の影響について分析したものです。

シミュレーション1：社人研推計準拠において、合計特殊出生率が2035年以降、人口置換水準(2.1)まで上昇した場合のシミュレーション

シミュレーション2：シミュレーション2：シミュレーション1に加え、人口移動が均衡した場合(転入・転出数が同数となり、移動がゼロとなった場合)のシミュレーション

■図4-2 山鹿市の将来推計人口



(出典：国勢調査、社人研推計準拠)

(3) 人口変化が将来に与える影響の分析・考察

今後推測される人口の変化が、将来の本市に与える影響について、「地域産業と地域経済」「地域医療と社会保障」「地域文化」「住民生活」「行財政」の5つの分野について、その影響を分析すると以下のよう状況が考えられます。

地域産業と地域経済への影響

担い手不足と新しい成長機会

本市の基幹産業である農林業や観光業は、人口減少と高齢化の影響を強く受けています。農林業では担い手不足が深刻化し、耕作放棄地の拡大や地域ブランド力の低下が懸念されます。観光業においても、働き手不足や消費人口の縮小が市場規模の維持を困難にし、地域経済の縮小リスクを高めています。一方で、インバウンド¹需要の取り込みや、地域資源を活かした新商品開発、ICTによる販路拡大といった新しい成長機会も存在します。人口の変化を前提に、少人数でも高付加価値を生み出す産業構造へ転換し、地域内外から人材を獲得することが将来の経済安定化に不可欠です。

地域医療と社会保障への影響

医療需要の増加と新たな仕組みづくり

老年人口がピークを迎えるなかで、医療・介護ニーズは高止まりします。慢性的な医師・看護師不足に加え、介護人材の確保も課題であり、地域医療体制の持続性が揺らぐ恐れがあります。医療費や介護費用の増加は、社会保障財政を圧迫し、市の財政健全性にも影響を及ぼす可能性が高くなります。一方で、健康寿命の延伸を目的とした予防医療の推進や、遠隔診療・ICTを活用した医療提供の効率化は、将来に渡る持続可能な医療・福祉の仕組みづくりの鍵となります。医療と福祉を包括的に整備し、誰もが安心して暮らせる体制を築くことが求められます。

地域文化への影響

伝統の継承と新たな担い手の創出

本市は、古くから豊かな湯のまちとして栄え、全国でも有数の装飾古墳群、山鹿灯籠まつりや八千代座のほか、山鹿灯籠や来民渋うちわなどの伝統工芸品、米作りに関する文化財や食文化など多様な歴史と伝統文化を有しています。しかし、若年層の流出や人口減少によって、祭りや伝統工芸を担う人材が減少しており、今後の伝統継承が難しくなることも予想されます。文化は地域の誇りであり、観光資源としての価値も高いため、その衰退は地域の魅力低下につながりかねません。一方で、外部人材や観光客、移住者を巻き込むなどの新しい文化参加の仕組みをつくることで、発展的な継承につながる可能性もあります。地域文化を守りながら時代に合った形に再編し、未来に伝える工夫が重要となります。

住民生活への影響

生活利便性の低下と新しい支え合い

人口減少は生活環境にも直接影響します。商店や医療機関、公共交通などのサービス維持が困難になり、特に高齢者や交通弱者にとって買い物や移動が大きな負担となる恐れがあります。過疎化による地域コミュニティの弱体化や、孤立や見守り機能の低下が懸念されます。一方で、地域住民の共助活動やデジタル技術を用いた生活支援サービスの導入など、新しい支え合いの形を構築する動きが期待されます。人口変化に対応した生活基盤の整備と、誰もが安心して暮らせる環境づくりが求められます。

行財政への影響

財源縮小と持続可能な行政運営の模索

人口減少は市税収入の縮小をもたらす、行政サービスの提供に大きな影響を及ぼします。インフラや公共施設の維持管理費は増加する見込みである一方、利用者は減少する可能性が高く、これまで以上に効率的な運営が求められます。さらに高齢化等に伴う社会保障費の増大が財政を圧迫し、選択と集中による事業の見直しが必要となります。こうした中で、広域連携や民間との協働を進め、効率的かつ効果的な行政運営を実現する必要があります。人口減少時代にふさわしい行財政システムを再構築し、持続可能な地域運営を確立することが求められます。

¹ 外国から日本に来る観光客

4 人口の将来展望

4-1 目指すべき将来の方向性

(1) 課題と対策の方向性

目指すべき将来の方向性を考えるにあたり、本市人口の将来展望が抱える課題と対策について、「自然減」と「社会減」に分けてまとめました。

自然減について

出生率向上と健康寿命延伸の両立を目指して

本市の人口は、少子化による出生数の減少と高齢化による死亡数の増加により、自然減少が続いています。この傾向を緩和するためには、若年層や子育て世代が安心して暮らせる環境を整えることが不可欠です。具体的には、子育て支援策の充実、教育や保育環境の質の向上、働き方改革による家庭と仕事の両立支援などが重要となります。同時に、子どもから高齢者まで誰もが生涯を通じて心と身体の健やかさを保ち、地域とのつながりを大切にしながら、健康寿命を延ばす取り組みを進めることで、誰もが住みたいと思える「健幸なまち山鹿」の実現を目指します。

社会減について

人の流れを呼び込み定着させる地域づくり

社会動態においては、進学や就職を契機とした若年層の転出超過が続いており、本市の人口減少を加速させています。この課題に対応するためには、市外からの移住やUターンの促進が不可欠です。自然や温泉といった地域資源の魅力を発信し、子育て世代やリモートワーカー²など多様な層に選ばれる地域環境を整備することが求められます。さらに、雇用の創出や教育機会の確保、地域コミュニティへの参加を促進することで、移住者が長く定着できる仕組みを整える必要があります。外部から人の流れを呼び込み、それを地域活性化の原動力につなげることが、将来に向けた社会減対策の大きな方向性です。

まとめ

人口減少を力に変える持続可能な地域戦略へ

本市における人口減少と高齢化は避けられない状況です。人口減少は地域経済や生活基盤に多大な影響を与える一方で、地域資源の見直しや新しい産業の創出、多世代が共生する新しいコミュニティづくりの契機ともなり得ます。その中で将来に向けて取るべき方向性は、自然減に対しては「出生率向上」と「健康寿命延伸」を両立させる施策を推進し、社会減に対しては「人の流れを呼び込み、定着させる地域づくり」を進めることです。人口の減少をリスクと捉えるのではなく、力に変える戦略を描くことで、持続可能で魅力ある地域社会の実現を目指します。

² 会社以外の場所で働く人

(2) 基本的な施策

今後取り組んでいくべき基本的な施策について「人口」と「経済」をテーマにまとめました。

人口施策

自然減・社会減を踏まえた仕組みづくり

本市における自然減は、出生数の低下と高齢化の進行により今後も避けられない見通しです。これに対し、人口施策の柱は「子育て・教育支援」「移住交流の拡大」「定住促進」の3点が挙げられます。具体的には、保育・教育環境の質向上、働きながら子育てしやすい制度の拡充、ICTを活用した学習環境づくりなどの取組が必要となります。また、社会増を図る側面では、外部人材の呼び込みなどが鍵となります。農業や観光といった地域資源を活かした移住促進策や関係人口の形成など、交流から定住につなげる仕組みづくりが有効です。こうした施策は、医療・福祉の持続性確保や文化の継承にも直結し、人口減少の影響を和らげる重要な手段となります。

重点分野	具体的方向性
自然減への対応 (少子化と高齢化対応)	子育て・教育環境の充実、安心して出産・子育てできるまちづくり 高齢者が地域で安心して暮らせる環境づくり
社会減への対応 (移住・定住)	移住促進・交流人口の拡大から定住へ

経済施策

地域産業と生活基盤を支える仕組みづくり

人口減少は地域産業の担い手不足を引き起こし、地場産業や観光振興に影響を及ぼします。そのため経済施策では、「産業の高付加価値化」と「地域内経済循環の強化」が求められます。農林水産業では6次産業化の推進、観光では温泉保養都市である本市の温泉と豊かな自然や歴史資源、食文化を活かした滞在型温泉利用を促進することで、交流人口の拡大を図ることが必要です。また、中小企業の人材確保・育成やデジタル化支援によって生産性向上を図り、若者や女性の就労機会拡大につなげる視点も欠かせません。さらに、公共交通や生活インフラを維持するため、地域コミュニティ交通やデジタル行政サービスを組み合わせ、生活の利便性を確保することも重要です。これにより、住民生活の質を守りつつ、持続可能な地域経済の基盤を築くことができます。

重点分野	具体的方向性
産業振興	地場産業の高付加価値化と生産性の向上
雇用・人材確保	若者・女性の就労機会拡大、人材育成 企業誘致の推進
地域内経済循環	地域資源を活かした消費・投資循環の強化
生活基盤維持	インフラ・サービスの持続的確保

4-2 人口の将来展望

本市において、「目指すべき将来の方向性」に沿った施策を展開することで、次の推計条件が実現すると仮定し、本市の人口の将来を展望しました。

推計条件

①合計特殊出生率

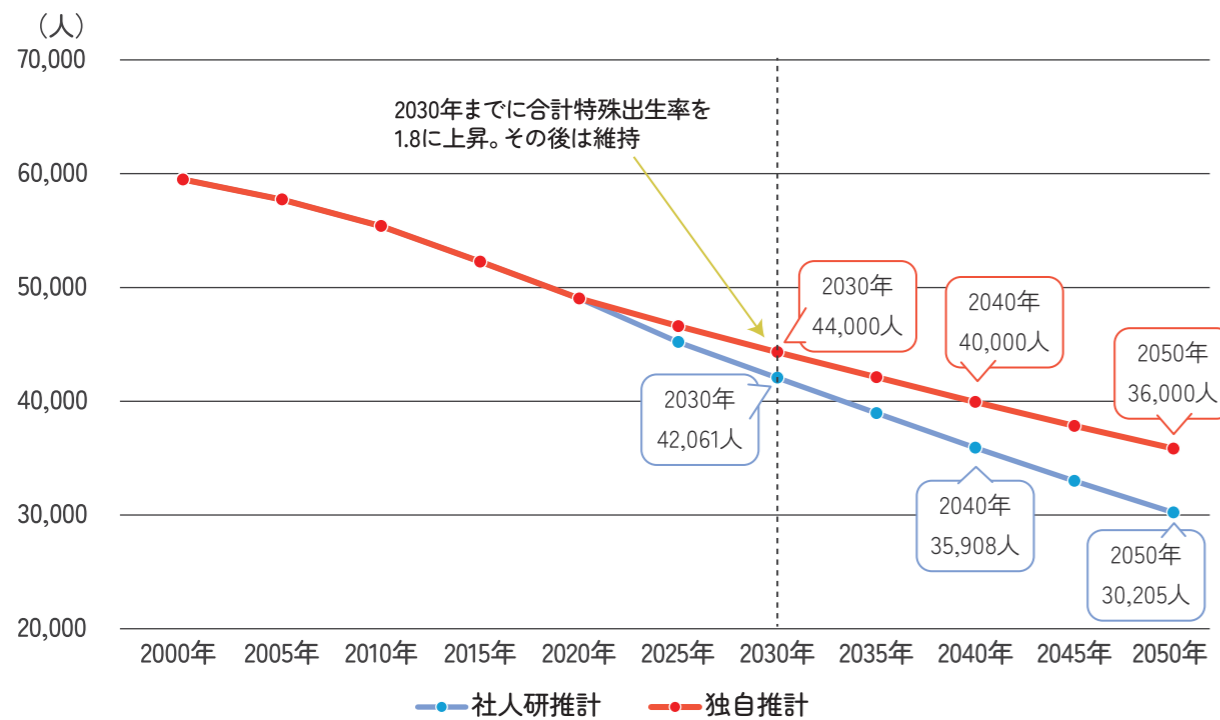
合計特殊出生率は2030年までに希望出生率の1.8まで上昇し、その後は1.8で推移する。

②移動数

移動数は近年転入数も増加していることから、転入・転出の差は0で推移する。

この結果、2030年の本市の人口は約44,000人、2050年の人口は約36,000人となり、社人研推計の約30,000人に対して、約6,000人の減少が抑制されることになります。

【山鹿市の将来人口の推計】



第3次山鹿市総合計画基本構想を紹介する動画を作成しています！
以下の2次元コードからご覧ください！



第3次山鹿市総合計画

2026(令和8)年3月

山鹿市
〒861-0592
熊本県山鹿市山鹿987番地3
<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/>